

令和7年度

近畿 ESD コンソーシアム 活動実施報告書



2026年3月
近畿ESDコンソーシアム
奈良教育大学 ESD・SDGsセンター

はじめに



今年度もまた、「近畿ESDコンソーシアム成果発表会・実践交流会」が盛大に行われました。年末から年始に引っ越して3年目。教育現場の子どもたちや先生方、そして実践との触れ合いから1年が始まることは教育大学の学長として幸せなことです。そして、「今年もESDをさらに推進しなければ」と心が引き締まります。

午前中は、私が毎回楽しみにしている「ESD子どもフォーラム」が行われました。和歌山県橋本市立高野口小学校、滋賀県草津市立新堂中学校、奈良県立磯城野高等学校のみなさん、どれも工夫を凝らしたプレゼンテーションであり素晴らしいものでした。また、初めて出会った校種を超えた仲間や大学生と対等に意見を述べ合うグループ交流を見て、「持続可能な社会の創り手」として成長してくれていることを嬉しく、頼もしく思いました。おそらく

日々の充実した活動から意識と行動の変容がなされ、それが自信となって身につけているからだ実感しました。ご指導いただいた先生方にも深く感謝申し上げます。

さらに、午後の実践交流会でのすべてのご発表、そして西田拓大白浜町教育委員会教育長のご講演「ウェルビーイングな社会に向けた白浜町の挑戦！」からも多くの貴重な示唆をいただきました。参加されたすべての皆様も、それぞれが少なからず抱えている課題や悩みに対し、その解決の糸口を見いだせたのではないかと思います。毎年のこの会を単発のイベントとして終わらせるのではなく、ここで得た学びを自らの実践に取り入れたり、さらに改善していくにはどうしたらよいかを考えたりしながら繋ぎ深め、発展させていっていただきたいと思います。

さて、去る2月21日、奈良教育大学を会場に「ESD国際シンポジウム in 奈良 2026」が開催されました。テーマは「共に学び、共に創る。持続可能な未来を確かなものにする国際パートナーシップの構築へ」でした。最後の総括セッションで提言されたことは、①ESDを確かなものとして推進していくためには国境をも超えたパートナーシップの構築が必要であること、②ESDそのものを持続可能にするためには、子どもはもちろん教員も含む若い世代（ユース）を牽引者として育て支援していく必要があること（ユースとシニアの境界はどこにあるのか、も話題になりましたが）、③やがては「ESD」という言葉が必要でなくなるよう、すべての教育活動が持続可能な未来創造のためになされるべきであること、の3点でした。分断や対立からは何も生まれず、また個々の取組だけでは面として広がる速度が上がらないことは言うまでもありません。

ESDは学習指導要領にも示され様々な実践が展開されている現在ではありますが、私たちは今一度、次のことを確認しなければならないと思います。第1は、「国連持続可能な開発のための10年（UNDESD）」（2005～2014）・「グローバルアクションプログラム（GAP）」（2015～2019）・「持続可能な開発のための教育：SDGsの実現に向けて（ESD for 2030）」（2020～2030）によってもたらされた成果は何か、まだ途上である課題は何か（歴史の振り返り）。第2は、国内外における学術的なESD研究の進展及びそれと実践との往還は果たしているか（理論と実践の往還）。第3は、ESDとして位置付けている実践と蓄積が本当に子どもの意識と行動を変容させる（させた）ものになっているかどうかを分析的・論理的・客観的に説明できるか（研究的視点と省察を備えた実践）。近畿ESDコンソーシアムは、これらを常に注意深く確認し合い研究と実践を重ねていく重要なコミュニティとして発展することを願っております。

令和8年3月

奈良教育大学 学長
近畿ESDコンソーシアム 会長
宮下 俊也

目 次

はじめに	1
令和7年度運営計画	3
E S Dティーチャープログラム	
・ ESD ティーチャーター認証制度について	4
・ ESD ティーチャープログラム（現職教員向け）開催要項	9
・ ESD ティーチャープログラム活動報告	11
・ ESD プログラム（ESD ティーチャーター）履修の手引き	23
・ ESD プログラム（ESD ティーチャーター）履修の手引き（教職大学院生対象）	25
・ ESD ティーチャーター・フォローアップ研修会 開催要項	27
・ ESD ティーチャーター・フォローアップ研修会 概要報告（全5回）	28
奈良 E S D連続セミナー（全11回）	42
「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー（全5回）	108
森と水の源流館授業づくりセミナー（全5回）	117
春日山原始林・奈良公園フィールドワーク（全9回）	133
令和7年度近畿 E S Dコンソーシアム成果発表会・実践交流会	145
おわりに	149
令和7年度近畿 E S Dコンソーシアム総会	150
近畿 ESD コンソーシアム規約	151
運営委員名簿	155

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総会・成果発表会 報告書作成				5 総会 (ハイブリッド)						11 成果発表会 実践交流会		報告書作成
運営委員会			10 第1回運営委						15 第2回運営委			オンライン
学生生活(ESD)活動支援)		13 平城小野活 21 左京小野活 22 あやめ池小野活	4 西大寺北小野活 11 三能小野活 24 東豊美ヶ丘小野活 25 済業小野活	7 一条中野活	7-8 コトクリエキャンプ	7 万博WS 24 富雄南小野活 27,28 東大寺まき子屋 30 都路小野活	24- 伏見小野活	22 ハチ宿ワーキング 23-24 ハチ宿アート展 29 子どもおん祭	6 ECOキッズ	20 ESDユース フォーラム		野外活動支援・アースデイ ECOキッズ, 東大寺子屋 ユネスコクラブ全国けみット など
奈良ESD連絡セミナー		13 ①	3 ②	1 ③ 22 ④	26 ⑤	16 ⑥	7 ⑦	4 ⑧	2 ⑨	15 カリマネ 20 ⑩	3 ⑪	
授業づくりセミナー		24 万葉①		12 源流① 19 万葉② 19 源流②	2 源流③ 30 源流④		25-万葉③		20 万葉④	24 万葉⑤	7 源流⑤ (現地報告会)	万葉文化館(5回) 森と水の源流館(5回)
春日山・奈良公園FW		27 ① (春日山)	21 ② (雨の春日山)	12 ③ (夜の春日山)	9 ④ (夕暮れ燈花会)	6,⑤ -春日山+ 20-⑥ -奈良公園)	4 ⑤ (朝の春日山) 19 ⑥ (南門山)	1 ⑦ (奈良公園の自然) 20-⑧ -春日山+一冊)		31-⑨ (石仏)		1 ⑨ (石仏)
フォローアップ研修会		20 ①		8 ②		9 ③		11 ④		27 ⑤		
ティーチャーパーログラム			7 研修① 13 草津①② 21 研修②	23 福住③④ 31 東京③④	1 附属こども園③④ 4 鹿耳島③④ 5 福山③④ 7 草津③④ 8 紀南③④ 18 樺太③④ 20 菊池③④ 25 愛媛③④ 27 比叡山③④ 28 附属中③④	26 研修⑥	19 東京⑤⑦	8 紀南⑤⑦ 13 樺太⑤⑦ 14 草津⑤⑦ 23 愛媛⑤⑦ 29 比叡山⑤⑦	6 鹿耳島⑤⑦ 12 菊池⑤⑦ 13 福山⑤⑦ 17 附属こども園⑤⑦	7 福住⑤⑦ 9 附属中⑤⑦	15 福岡協与式 16 菊池協与式 18 草津協与式 23 樺太協与式 24 福住小中協与式 24 奈良協与式	福岡 愛媛, 鹿耳島, 菊池 草津, 紀南, 樺太, 東京 比叡山中, 草津, 福住小中学校 附属中学校, 附属こども園
教委・学校研修支援		7 鶴舞小学校	2 附属中出前授業 9 玉川こども園 10 奈良市教委 12 奈良市教委	3 草津市教委		19 玉川こども園		25 玉川こども園				
陸前高田市文化遺産調査 (実施なし)												
国連大学SDG大学連携												
ESDへき地教育調査												
オンライン連続セミナー					2 及川 (万博)	20 大西 (万葉集)	18 及川 (貧困)	15 中瀬 (学び旅)	20 河野 (ホールスクール)			22 クロージング イベント
その他	15 セミナー プログラム説明会					18,19,20 アインホーレン 減災教育教員研修会						
【キャンデーアート校】 白浜町立白浜中学校			4 附属中教科 公開研修会		23,24 日本ESD学会大会 (愛媛大)		31 附属中特別支 援学級公開研修会	8 附属中総合 公開研修会	6 こども園公開関係 研究会			7 日本ESD学会 近畿地方研究会 (相模大)
【認定】 豊浜市立高崎小学校 豊浜市立永原小学校 天理市立福住小中学校 わかやまシムナイ学園 生駒市立生駒小学校 奈良学園小学校 大津市立仰木の里小学校 津市立広其小学校 草津市立玉川こども園	近畿ESDフォーラム 日本ESD学会 近畿地方研究会							20-21 世界遺産学習 全国サミット(姫路)	6 ユネスコスクー ル 全国大会(上智大) 7 ESD推進 ネットワーキング 全国フォーラム (江教大)			

奈良教育大学 ESD ティーチャー認証制度について

1. ESD を適切に計画し指導できる教員に求められる資質・能力

(1) 教師としての基盤的力量

学級経営力、生徒指導力、授業力、そして子ども理解力など、全ての学校教員に求められる資質・能力が基盤的力量として必要である。

(2) SDGs に関心を持ち、様々な書物から学んだり講演会に参加したりするなど、能動的に SDGs への理解を深めようとする態度と、SDGs に関する課題を自分事とし自らが持続可能な社会の担い手としてライフスタイルを見直し、SDGs の達成に積極的に取り組もうとする態度が必要である。

(3) 「当たり前だ」と思っていることを時間的、また空間的に捉えして代替案を考え（クリティカル・シンキング）たり、地域の課題を SDGs の 17 の目標と関連付けて捉え、解決策を多面的・総合的に考え（システムズ・シンキング）たりする、探究的な思考力と行動力が求められる。

(4) ESD には教科書がない。総合的な学習の時間に地域の課題を学習課題として探究型の単元計画を組織し、地域人材や社会教育施設・専門家などと連携しながら、授業実践を行う力が求められる。また、日々の授業実践を対話的で深い学びを促すような授業力が求められる。

(5) ESD は社会づくりに関する価値観と行動の変革を促す教育活動である。ESD で育てたい価値観を育てるためには、系統的で継続的なカリキュラムが必要となる。校内はもちろん異なる校種の教員と連携して、系統的なカリキュラムを創造し、不断の見直し・改善を図ろうとする態度や、学校間交流や学習成果の地域への発信などにより、学びがいのある質の高い ESD 実践を志向する態度も求められる。



2. ESD ティーチャープログラムの概要

(1) ESD ティーチャープログラムの基本型

ESD ティーチャープログラムは、上記の資質・能力を養う目的で、次の5回の研修から構成されている。

第1回：SDGs の理解促進

SDGs の達成が求められる世界の状況を経済・社会・環境の側面から捉え、理解を深める。

第2回：ESD の学習理論の理解

ESD で育てたい価値観、視点、資質能力を紹介するとともに、持続可能な社会づくりに有用なソマティック・マーカーを育てる体験的な学習について理解を深め、単元構想案の作成の仕方について学ぶ。

第3回：優良実践事例の分析と単元構想案の作成

ESDの優良実践事例をESDの観点から分析し、授業づくりのポイントを理解したり、改善ポイントを見出したりすることで、学習指導案の読み方や作成方法について研修し、本学が開発した様式にしたがって単元構想案を作成する。

第4回：単元構想案の相互検討とESD学習指導案の作成

単元構想案の相互検討を踏まえ、ESDやESD学習指導案についての理解を深める。相互検討で修正した単元構想案を用いて、2か月程度かけてESD学習指導案を作成したうえで、第5回に参加する。

第5回：ESD学習指導案の相互検討

各自が作成したESD学習指導案を発表し、相互検討する。検討することで、ESDの授業づくりや学習指導案作成のスキルアップを図る。

全ての研修会に参加し、ESD学習指導案を1月末までに大学に提出する。奈良教育大学では提出されたESD学習指導案を運営委員会で審議したうえで、本学の教授会に提出し、承認を得ることができれば、学長よりESDティーチャーの認定証を授与する。

(2) ESDティーチャープログラムの発展型

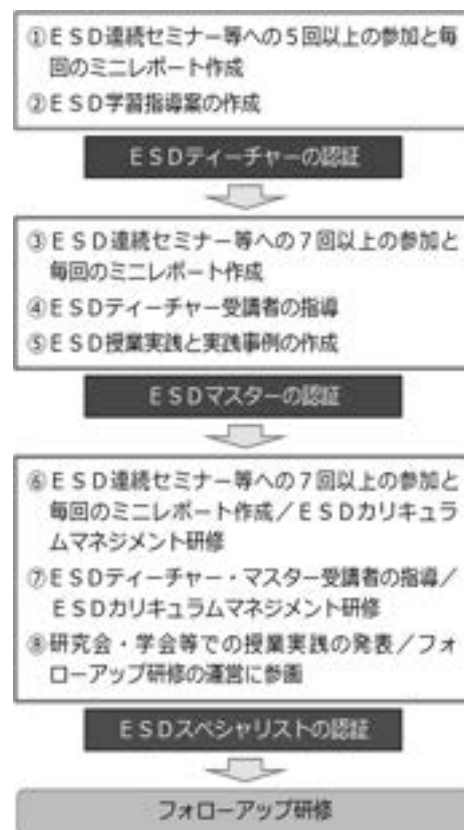
現職教員を対象としたESDティーチャープログラムにおいては、実践意欲の向上と、ESDに関する理解の深化を目的に、マスターコース、スペシャリストコースを用意している。

3. ESDティーチャーについて

奈良だけでなく、ESDティーチャープログラムを全国で展開することでESDティーチャーの拡大を図ると共に、ESDティーチャーの資質・能力、及び実践意欲の向上を目的に、フォローアップ研修としてESDティーチャーを対象としたオンライン研修を2ヶ月に1回実施している。

令和7年度までのESDティーチャー等の認定者数は以下の通りである。(名)

	スペシャリスト	マスター	ティーチャー	学生	計
平成28年度	0	0	21	3	24
平成29年度	0	14	13	4	31
平成30年度	5	2	19	11	37
令和元年度	4	1	22	5	32
令和2年度	0	2	42	8	52
令和3年度	1	16	96	9	122
令和4年度	8	19	124	14	165
令和5年度	10	24	138	9	181
令和6年度	11	25	81	12	129
令和7年度	21	27	111	10	170
計	60	130	667	85	942



令和8年3月末現在、すでに全国に752名のESDティーチャーがおり、各地域において活躍中。

令和7年度ESDティーチャープログラム

認定者は次の通りである。

(1) 現職教員のESDティーチャー等

①ESDスペシャリスト (21名)

1	奈良教育大学附属こども園	清水 智佳子
2	奈良市立鼓阪北小学校	原田 龍ノ助
3	奈良市立平城小学校	村上 雄太
4	生駒市立生駒東小学校	竹田 光陽
5	生駒市立俵口小学校	西田 有壱
6	天理市立福住小中学校	犬塚 良子
7	天理市立福住小中学校	大野 直彬
8	天理市立福住小中学校	堀川 淳司
9	姫路市立水上小学校	菊池 甲餘子
10	草津市立老上中学校	辻 大吾
11	草津市教育委員会	山本 寛之

12	松山市立勝山中学校	眞柴 さなえ
13	松山市立伊台小学校	三浦 智子
14	福岡市立内浜小学校	床田 知子
15	福岡市立四箇田小学校	松田 博光
16	福岡市立南当仁小学校	山本 隆一
17	白浜町立南白浜小学校	大浦 侑唄
18	白浜町立白浜中学校	平野 俊
19	薩摩川内市立市比野小学校	菊永 美樹
20	屋久島町立安房小学校	窪田 あずさ
21	山形市立大曾根小学校	佐藤 亨樹

②ESDマスター (27名)

1	奈良教育大学附属中学校	今西 昇平
2	奈良教育大学附属中学校	篠原 嶺
3	奈良教育大学附属こども園	百村 美代子
4	生駒市立俵口小学校	中川 純一
5	奈良学園小学校	吉岡 真志
6	奈良女子高等学校	井上 岳海
7	王寺町立王寺北義務教育学校	高山 翔伍
8	天理市立福住小中学校	前田 佳代
9	大阪市立歌島小学校	三笠 日向
10	橋本市立高野口小学校	岡本 崇史
11	橋本市立高野口小学校	中谷 栄作
12	草津市立老上中学校	谷口 晋吾
13	草津市立玉川こども園	中川 珠紀
14	草津市立老上こども園	木戸 香里

15	草津市立教育委員会	中村 大輔
16	福岡市立小呂小学校	力 恵利佳
17	福岡市立内浜小学校	野口 瑞生
18	福岡市立小呂小中学校	溝田友気
19	千葉県立柏陵高等学校	浅野 稜太
20	柏市立高柳小学校	鈴木 郁香
21	麗澤中学・高等学校	瀧村 尚也
22	豊島区立巢鴨北中学校	輪湖 みちよ
23	比叡山中学校	伊藤 由季
24	田辺市立上芳養中学校	藤田 万愉子
25	鹿屋市立鹿屋小学校	上園 弘太郎
26	鹿児島市立広木小学校	日高 瑞貴
27	鹿児島市立広木小学校	横山 邦昭

③ESDティーチャー (111名)

1	奈良教育大学附属中学校	竹田 ゆい
2	奈良教育大学附属こども園	荒井 梨菜
3	奈良教育大学附属こども園	卜澤 由奈
4	奈良教育大学附属こども園	木下 育子
5	奈良教育大学附属こども園	辻 夏苗
6	奈良県立磯城野高等学校	吉田 宏
7	奈良市立西大寺北小学校	中村 文子
8	奈良市立西大寺北小学校	大東 実穂

9	大和郡山市立片桐西小学校	長江 昂大
10	つくば市立竹園東小学校	吉田 剛
11	山形県立鶴岡中央高校	富樫 智子
12	山形市立第十中学校	齊藤 夢月
13	草津市立玉川こども園	高松 美香
14	草津市立玉川こども園	伊藤 華子
15	草津市立玉川こども園	坂田 初美
16	草津市立老上こども園	川村 桃佳

17	草津市立志津小学校	大畑 翔平
18	草津市立志津小学校	岡崎 美紀
19	草津市立志津南小学校	水野 颯人
20	草津市立草津小学校	田中 天友里
21	草津市立草津第二小学校	清水 実穂
22	草津市立渋川小学校	森田 壺生
23	草津市立老上小学校	小島 友里
24	草津市立老上西小学校	谷口 弦太
25	草津市立玉川小学校	西田 泰子
26	草津市立南笠東小学校	岸本 靖英
27	草津市立山田小学校	澤 節生
28	草津市立笠縫小学校	片山 茂樹
29	草津市立笠縫東小学校	林 雅也
30	草津市立常盤小学校	岡田 惇
31	草津市立高穂中学校	辻本 貴大
32	草津市立草津中学校	大野 詩央里
33	草津市立老上中学校	杉浦 裕美
34	草津市立老上中学校	尾関 大応
35	草津市立玉川中学校	地海 拓未
36	草津市立新堂中学校	大岡 みすず
37	草津市立松原中学校	山中 貴司
38	新居浜市立船木中学校	阿部 洋
39	新居浜市立中萩中学校	楮野 さおり
40	新居浜市立泉川中学校	加地 唯菜
41	新居浜市立浮島小学校	加藤 佳緒里
42	新居浜市立泉川中学校	坂本 由香
43	新居浜市立中萩小学校	高橋 正成
44	新居浜市立金子小学校	伊達 成章
45	新居浜市立泉川中学校	友 颯太郎
46	新居浜市立北中学校	野口 詩歩
47	新居浜市立垣生小学校	藤田 恵実
48	新居浜市立川東中学校	守谷 和洋
49	新居浜市立船木中学校	渡辺 達央
50	土佐塾中学校	古味 由佳
51	橋本市立高野口小学校	岩本 吉翔
52	橋本市立高野口小学校	垣内 芽依
53	橋本市立高野口小学校	増尾 るあ
54	橋本市教育委員会	弓場 大樹
55	菊池市立隈府小学校	高橋 かおり
56	菊池市立菊池北小学校	鹿子木 友里
57	菊池市立菊之池小学校	小田 智史

58	菊池市立花房小学校	津田 歩
59	菊池市立戸崎小学校	森 大真
60	菊池市立七城小学校	北原 博明
61	菊池市立旭志小学校	柴田 成懂
62	菊池市立泗水東小学校	田嶋 駿樹
63	菊池市立泗水小学校	小田 智仁
64	菊池市立泗水西小学校	坂本 光大郎
65	菊池市立菊池北中学校	西村 昌紘
66	菊池市立菊池南中学校	河本 健二
67	菊池市立七城中学校	内田 小咲稀
68	菊池市立旭志中学校	井柄 光博
69	菊池市立泗水中学校	石丸 美穂子
70	熊本県立菊池高等学校	松岩 文
71	熊本県立菊池農業高等学校	菊川 亮
72	福岡市立室見小学校	鶴木 明日香
73	福岡市立小呂中学校	作見 優樹
74	福岡市立姪浜中学校	高川 翼
75	福岡市立東吉塚小学校	高川 妃美樹
76	福岡市立小呂小中学校	詫間 菜月子
77	福岡市立柏原小学校	田中 祐子
78	福岡市立玄洋小学校	山本 志麻
79	白百合学園小学校	植木 凡子
80	八千代市立睦小学校	掛川 良治
81	城西大学附属城西高校	釜付 祐也
82	鎌倉市立西鎌倉小学校	川坂 俊一
83	横須賀市立久里浜中学校	菊池 徹
84	神奈川県立有馬高等学校	杉原 孝治
85	城西大学附属城西高校	田中 菜々子
86	八千代市立村上東中学校	野口 雄毅
87	NPO法人NELIS	濱岡 桜
88	和洋九段女子中学校高等学校	本多 ゆき
89	堀越高等学校	宮舘 聡一
90	白浜町立三舞中学校	上村 みどり
91	白浜町立南白浜小学校	佐々木 千佳
92	鹿児島市立広木小学校	高田 廉人
93	鹿児島市立広木小学校	大園 百恵
94	鹿児島県立市来農芸高等学校	菊永 瑞樹
95	鹿児島市立向陽小学校	段 颯人
96	鹿児島市立向陽小学校	吉満 吾郎
97	比叡山中学校・高等学校	岡崎 大地
98	比叡山中学校・高等学校	奥村 健介

99	比叡山中学校・高等学校	金城 岳野
100	比叡山中学校・高等学校	川村 一樹
101	比叡山中学校・高等学校	渋江 充子
102	比叡山中学校・高等学校	藤田 陽子
103	比叡山中学校・高等学校	増田 昂
104	比叡山中学校・高等学校	峯松 拓哉
105	比叡山中学校・高等学校	村井 航斗
106	比叡山中学校・高等学校	八木 聖真
107	比叡山中学校・高等学校	吉川 紘永
108	大津市立比叡平小学校	金本 江美子
109	天理市立福住小中学校	宇高 礼弥
110	天理市立福住小中学校	小迫 雅和
111	三郷町立三郷中学校	丸山 清史

(2) 院生・学生のESDティーチャー (10名)

1	伝統文化教育・国際理解教育専修	太田 遥
2	伝統文化教育・国際理解教育専修	福田 実莉
3	専門職学位課程教職開発専攻	金谷 双葉
4	専門職学位課程教職開発専攻	池本 翔真
5	教育学部美術教育専修	福原 望愛
6	教育学部音楽教育専修	山下 恵
7	教育学部英語教育専修	黒柳 新奈
8	教育学部社会科教育専修	小南 舞桜
9	教育学部社会科教育専修	芝田 椋伍
10	教育学部数学教育専修	加地 優太

	スペシャリスト	マスター	ティーチャー	計
附属中学校		2	1	3
附属こども園	1	1	4	6
奈良	5	5	5	15
山形	1		2	3
草津	2	4	25	31
福岡	3	3	7	13
東京		4	11	15
鹿児島	2	3	5	10
愛媛	2		13	15
紀南	2	1	2	5
橋本		2	4	6
菊池			17	17
比叡山中学校・高等学校		1	12	13
福住小中学校	3	1	3	7
合計	21	27	111	159

学生			10	10
総計			121	169

令和7（2025）年度 ESD ティーチャープログラム（現職教員向け）開催要項

1. 目的

持続可能な開発目標の達成及び学習指導要領の確実な実施に向けて、持続可能な社会の創り手の育成は喫緊の課題となっている。本学では2016年度より教員志望の学生及び現職教員を対象に、ESDを指導する教員に求められる資質・能力の育成を目的としたESDティーチャープログラムを展開してきた。

2024年度末の段階で600名を超える認定者に達し、全国各地で意欲的にESDの実践に取り組んでもらっている。このように、ESDを意欲的に推進していくことのできる教員の輪を全国各地に広げるため、今年度も以下の通りESDティーチャープログラムを実施する。

2. 運営担当者

及川・中澤・河野・大西：その他、主に現職教員等の経験を有する大学教員

3. 研修内容

- ① 持続可能な開発目標（SDGs）の内容理解【オンライン】
- ② ESDの学習理論とESD単元構想案の作成【オンライン】
- ③ 優良実践事例のESD分析
- ④ ESD単元構想案の相互検討とESD学習指導案・実践報告の作成
- ⑤ ESD学習指導案・実践報告の相互検討
- ⑥ ESDカリキュラムマネジメント【マスター・スペシャリスト】【オンライン】
- ⑦ ESDカリキュラムマネジメント案の作成・相互検討【マスター・スペシャリスト】

※ ①②⑥について、当日参加できない受講者は後日オンデマンド受講とする。

4. ESD ティーチャープログラム（現職教員向け）について

（1）ESD ティーチャーコース

- ①～⑤の参加と毎回のミニレポートの作成
ESD学習指導案の作成、1月末日までに提出

（2）ESD マスターコース

- ①～⑦の参加と毎回のミニレポートの作成
ESD学習指導案の作成、授業実践をふまえた実践事例を作成（6P程度）し、1月末日までに提出
（考察をしっかりと記載すること）。

カリキュラムマネジメント案の作成、提出

ESDティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導

(4) ESD スペシャリストコース

①～⑦の参加と毎回のミニレポートの作成

ESD 学習指導案の作成、授業実践をふまえた実践事例を作成（6P程度）し、1月末までに提出（考察をしっかりと記載すること）。

カリキュラムマネジメント案の作成、提出

ESD ティーチャー・マスター研修中の現職教員および学生の指導案作成指導

学会や研究大会での実践事例の発表か、ESD 研修会の開催と報告書の提出

※3月末に学長より ESD ティーチャー、ESD マスター、ESD スペシャリストの認定証を授与。

※作成された学習指導案や実践事例は近畿 ESD コンソーシアムの HP に掲載。

※1月に開催する近畿 ESD コンソーシアム実践交流会での発表を依頼する場合がある。

5. 開催予定

【研修① 持続可能な開発目標（SDGs）の内容理解 【オンライン】

6月 7日（土）14時～16時 講師：及川幸彦

【研修② ESD の学習理論と ESD 単元構想案の作成 【オンライン】

6月21日（土）14時～16時 講師：中澤静男、大西浩明

（草津市）研修①② 6月13日（金） 講師：中澤静男（対面）

- | | |
|------------------|-----------------------|
| (1) 東京都 | 7月31日（木）③④、10月19日（日）⑤ |
| (2) 菊池市 | 8月20日（水）③④、12月12日（金）⑤ |
| (3) 新居浜市 | 8月25日（日）③④、11月16日（土）⑤ |
| (4) 草津市 | 8月 7日（木）③④、11月14日（金）⑤ |
| (5) 鹿児島県 | 8月 4日（月）③④、12月 6日（土）⑤ |
| (6) 福岡市 | 8月 5日（火）③④、12月13日（土）⑤ |
| (7) 紀南 | 8月 8日（金）③④、11月 8日（土）⑤ |
| (8) 橋本市 | 8月18日（月）③④、10月17日（金）⑤ |
| (9) 附属中学校 | 8月28日（木）③④、1月 9日（金）⑤ |
| (10) 附属こども園 | 8月 1日（金）③④、12月17日（水）⑤ |
| (11) 比叡山中学校・高等学校 | 8月27日（水）③④、11月29日（土）⑤ |
| (12) 天理市立福住小中学校 | 7月23日（水）③④。1月7日（水）⑤ |

研修⑥については、9月上旬にオンラインにて実施

研修⑦については、受講者の多い会場は研修⑤のあとに実施

その他は別日（1月）にオンラインにて実施

福住小中学校会場【研修③④】「実践事例の ESD 授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025 年 7 月 23 日（水）10：00～16：00

会場：天理市立福住小中学校

参加者：犬塚良子、大野直彬、堀川淳司、向井薫汰、前田佳代、宇高礼弥、小迫雅和、田原聡志、
丸山清史、森下知永子 計 10 名

講師：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、中澤静男、河野晋也、大西浩明



東京会場【研修③④】「実践事例の ESD 授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025 年 7 月 31 日（木）10：00～16：00

会場：JICA 地球ひろば

参加者：瀧村尚也（麗澤中学・高等学校）、植木凡子（白百合学園小学校）、長岡千恵（環境省）、
鈴木郁香（柏市立高柳小学校）、掛川良治（八千代市立睦小学校）、
川坂俊一（鎌倉市立鎌倉西小学校）、菊池徹（横須賀市立久里浜中学校）、
杉原孝治（神奈川県立有馬高等学校）、野口雄毅（八千代市立村上東中学校）、
本多ゆき（和洋九段女子中学校高等学校）、宮舘聡一（堀越高等学校）、
輪湖みちよ（豊島区立巣鴨北中学校）、濱岡桜（NPO 法人 NELIS）

計 13 名（10 名欠席）

講師：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）、藏前拓也（王寺町立王寺北義務教育学校）
圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、河野晋也、大西浩明



附属こども園会場【研修③④】「実践事例の ESD 授業分析」、「保育構想案の相互検討①」

日時：2025 年 8 月 1 日（金）13：00～17：00

会場：附属こども園

参加者：清水智佳子、百村美代子、山本祐子、荒井梨菜、卜澤由奈、辻夏苗、木下育子 計 7 名

講師：阪本さゆり（奈良保育学院）、長谷川かおり、大西浩明



鹿児島会場【研修③④】「実践事例のESD授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025年8月4日（月）10：00～16：00

会場：鹿児島市立広木小学校

参加者：田中春名、日高瑞貴、横山邦昭、高田廉人、大藪百恵、（鹿児島市立広木小学校）、
段颯人、吉満吾郎（鹿児島市立向陽小学校）、上園弘太郎（鹿屋市立鹿屋小学校）、
菊永美樹（薩摩川内市立市比野小学校）、菊永瑞樹（鹿児島県立市来農芸高等学校）、
窪田あずさ（屋久島町立安房小学校）、吉富祐子（屋久島町立永田小学校）

計12名（欠席1名）

講師：安田昌則（前大牟田市教育長）、遠入哲司（福岡市立小呂小中学校）、新宮済（奈良女子高等学校）、
大西浩明



福岡会場【研修③④】「実践事例のESD授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025年8月5日（火）10：00～16：00

会場：福岡市立中央市民センター

参加者：床田知子、野口瑞生（福岡市立内浜小学校）、松田博光（福岡市立四箇田小学校）、
山本隆一（福岡市立南当仁小学校）、鶴木明日香（福岡市立室見小学校）、
力恵利佳、溝田友気、作見優樹、詫間菜月子（福岡市立小呂小中学校）、
高川翼（福岡市立姪浜中学校）、高川妃美樹（福岡市立東吉塚小学校）、
田中祐子（福岡市立柏原小学校）、山本志麻（福岡市立玄洋小学校）、
橋本智美（福岡市立三宅小学校）、計14名（欠席1名）

講師：遠入哲司、鬼塚正博（福岡市立小呂小中学校）、島俊彦（福岡市立七隈小学校）、
河野陽一（福岡市立西新小学校）、大西浩明



草津会場【研修③④】「実践事例のESD授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025年8月7日（木）10：00～16：00

会場：キラリエくさつ

参加者：大畑翔平、岡崎美紀（志津小学校）、水野颯人（志津南小学校）、田中天友里（草津小学校）、清水実穂（草津第二小学校）、森田壱生（渋川小学校）、田中拓（矢倉小学校）、小島友里（老上小学校）、谷口弦太（老上西小学校）、西田泰子（玉川小学校）、澤節生（山田小学校）、片山茂樹（笠縫小学校）、林雅也（笠縫東小学校）、岡田惇（常盤小学校）、大野詩央里（草津中学校）、杉浦裕美、尾関大応（老上中学校）、山中貴司（松原中学校）、佐竹二三也、大岡みすず（新堂中学校）、中村大輔（草津市教育委員会） 計21名（4名欠席）
講師：辻大吾（草津市立老上中学校）、山本寛之（草津市教育委員会）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、藏前拓也（王寺町立王寺北義務教育学校）、中澤静男、河野晋也、大西浩明



紀南会場【研修③④】「実践事例のESD授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025年8月8日（金）10：00～16：00

会場：白浜町立白浜中学校

参加者：大浦侑唄（白浜町立南白浜小学校）、藤田万愉子（田辺市立上芳養中学校）、平野俊、清水健志、丸山幸子（白浜町立白浜中学校）、上村みどり（白浜町立三舞中学校）、佐々木千佳（白浜町立南白浜小学校）、平見凧（田辺市立近野小学校）、谷口聡（和歌山県企業企画課）、桐明祐治（地域活性化企業人） 計10名（5名欠席）
講師：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）、中村友弥（奈良市立朱雀小学校）、大西浩明



橋本会場【研修③④】「実践事例のESD授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025年8月18日（月）10：00～16：00

会場：橋本市教育文化会館

参加者：岡本崇史、中谷栄作、岩本吉翔、垣内芽依、増尾るあ（橋本市立高野口小学校）、
弓場大樹（橋本市教育委員会） 計6名

講師：河野晋也、大西浩明



菊池会場【研修③④】「実践事例のESD授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025年8月20日（水）10：00～16：00

会場：菊池市中央公民館

参加者：高橋かおり（隈府小学校）、鹿子木友里（菊池北小学校）、小田智史（菊之池小学校）、
森大真（戸崎小学校）、北原博明（七城小学校）、柴田成懂（旭志小学校）、
田嶋駿樹（泗水東小学校）、小田智仁（泗水小学校）、坂本光大郎（泗水西小学校）、
西村昌紘（菊池北中学校）、河本健二（菊池南中学校）、内田小咲稀（七城中学校）、
石丸美穂子（泗水中学校）、井柄光博（旭志中学校）松岩文（菊池高等学校）、
菊川亮（菊池農業高等学校） 計16名（1名欠席）

講師：安田昌則（前大牟田市教育長）、石村秀登（熊本県立大学）、遠入哲司（福岡市立小呂小中学校）、
稲留愛（福岡市立田隈小学校）、大西浩明



愛媛会場【研修③④】「実践事例のESD授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025年8月25日（月）10：00～16：00

会場：新居浜消防防災合同庁舎

参加者：眞柴さなえ（松山市立勝山中学校）、三浦智子（松山市立伊台小学校）、
阿部洋、渡辺達央、越智誠司（新居浜市立船木中学校）、加藤佳緒里（新居浜市立浮島小学校）、
楮野さおり、高橋正成（新居浜市立中萩小学校）、伊達成章（新居浜市立金子小学校）、
加地唯菜、坂本由香、友颯太郎（新居浜市立泉川中学校）、藤田恵実（新居浜市立垣生小学校）、
守谷和洋（新居浜市立川東中学校）、古味由佳（土佐塾中学校） 計16名（2名欠席）

講師：藤原一弘（愛媛大学）、新宮済（奈良女子高等学校）、中澤静男、河野晋也、大西浩明



比叡山中学校・高等学校会場【研修③④】「実践事例のESD授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025年8月27日（水）10：00～16：00

会場：延暦寺学園 比叡山中学校・高等学校

参加者：伊藤由季、岡崎大地、金城岳野、川村一樹、渋谷充子、藤田陽子、増田昂、村井航斗、
八木聖真、吉川紘永（比叡山中学校・高等学校）、金本江美子（大津市立比叡平小学校）、
山岸憲明（大津市立唐崎小学校） 計12名（2名欠席）

講師：新宮済（奈良女子高等学校）、中澤静男、河野晋也、大西浩明



附属中学校会場【研修③④】「実践事例のESD授業分析」、「単元構想案の相互検討」

日時：2025年8月28日（木）10：00～15：00

会場：附属中学校

参加者：篠原嶺、今西昇平、竹田ゆい 計3名

講師：有馬一彦、吉田寛、長友紀子、市橋由彬（附属中学校）、
河野晋也、大西浩明



【研修⑥】「ESD カリキュラムマネジメント」

日時：2025年9月26日（土）19時～21時

方法：Zoomによるオンライン

参加者：35名

講師：及川幸彦



東京会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」、「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025年10月19日（木）10：00～14：00

会場：JICA 地球ひろば

参加者：長岡千恵（環境省）、川坂俊一（鎌倉市立鎌倉西小学校）、菊池徹（横須賀市立久里浜中学校）、杉原孝治（神奈川県立有馬高等学校）、野口雄毅（八千代市立村上東中学校）、本多ゆき（和洋九段女子中学校高等学校）、宮舘聡一（堀越高等学校）、輪湖みちよ（豊島区立巣鴨北中学校）、田中菜々子、釜付祐也（城西大学附属城西高校）、計10名（6名欠席）

講師：新宮済（奈良女子高等学校）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、及川幸彦、河野晋也、大西浩明



紀南会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」、「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025年11月8日（土）10：00～15：00

会場：白浜町立白浜中学校

参加者：藤田万愉子（田辺市立上芳養中学校）、平野俊（白浜町立白浜中学校）、上村みどり（白浜町立三舞中学校）、佐々木千佳（白浜町立南白浜小学校）、

杉山雄太（うつほの杜学園小学校） 計5名（4名欠席）

講師：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）、中村友弥（奈良市立朱雀小学校）、大西浩明



橋本会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」、「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025年11月13日（木）14：00～17：00

会場：橋本市立高野口小学校

参加者：岡本崇史、岩本吉翔、垣内芽依、増尾るあ（橋本市立高野口小学校）、
弓場大樹（橋本市教育委員会） 計5名（1名欠席）

講師：河野晋也、大西浩明



草津会場【研修⑤】「学習指導案の相互検討」

日時：2025年11月14日（金）13：30～16：30

会場：草津市役所2階大会議室

参加者：大畑翔平、岡崎美紀（志津小学校）、水野颯人（志津南小学校）、田中天友里（草津小学校）、
清水実穂（草津第二小学校）、岸本靖英（南笠東小学校）、小島友里（老上小学校）、
谷口弦太（老上西小学校）、西田泰子（玉川小学校）、澤節生（山田小学校）、
片山茂樹（笠縫小学校）、林雅也（笠縫東小学校）、岡田惇（常盤小学校）、
大野詩央里（草津中学校）、杉浦裕美、尾関大応（老上中学校）、山中貴司（松原中学校）、
大岡みすず（新堂中学校）、辻本貴大（高穂中学校）、地海拓未（玉川中学校）、
森田壱生（渋川小学校）、中村大輔（草津市教育委員会） 計22名（1名欠席）

講師：辻大吾（草津市立老上中学校）、山本寛之（草津市教育委員会）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、
中村友弥（奈良市立朱雀小学校）、河野晋也、大西浩明



愛媛会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」、「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025年11月23日（月）9：30～13：00

会場：新居浜市消防防災合同庁舎

参加者：三浦智子（松山市立伊台小学校）、渡辺達央（新居浜市立船木中学校）、
加藤佳緒里（新居浜市立浮島小学校）、楮野さおり、高橋正成（新居浜市立中萩小学校）、
伊達成章（新居浜市立金子小学校）、加地唯菜、坂本由香、友颯太郎（新居浜市立泉川中学校）、
藤田恵実（新居浜市立垣生小学校）、守谷和洋（新居浜市立川東中学校）、
野口詩歩（新居浜市立北中学校）、古味由佳（土佐塾中学校） 計13名（1名欠席）

講師：藤原一弘（愛媛大学）、新宮済（奈良女子高等学校）、河野晋也、大西浩明



比叡山中学校・高等学校会場【研修⑤⑦】

「学習指導案の相互検討」、「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025年11月29日（土）10：00～16：00

会場：延暦寺学園 比叡山中学校・高等学校

参加者：伊藤由季、岡崎大地、金城岳野、川村一樹、渋谷充子、藤田陽子、増田昂、村井航斗、
八木聖真、吉川紘永、峯松拓哉（比叡山中学校・高等学校）、

金本江美子（大津市立比叡平小学校）、山岸憲明（大津市立唐崎小学校） 計12名

講師：有馬一彦、吉田寛（附属中学校）、河野晋也、大西浩明



鹿児島会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025年12月6日（土）10：00～16：00

会場：鹿児島市立広木小学校

参加者：田中春名、日高瑞貴、横山邦昭、高田廉人、大藪百恵、（鹿児島市立広木小学校）、
段颯人、吉満吾郎（鹿児島市立向陽小学校）、菊永美樹（薩摩川内市立市比野小学校）、
菊永瑞樹（鹿児島県立市来農芸高等学校）、窪田あずさ（屋久島町立安房小学校）、
吉富祐子（屋久島町立永田小学校） 計11名（欠席1名）

講師：安田昌則（前大牟田市教育長）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、大西浩明



菊池会場【研修⑤】「学習指導案の相互検討」

日時：2025年12月12日（金）13：30～16：00

会場：菊池市中央公民館

参加者：高橋かおり（隈府小学校）、鹿子木友里（菊池北小学校）、小田智史（菊之池小学校）、
森大真（戸崎小学校）、北原博明（七城小学校）、柴田成憧（旭志小学校）、津田歩（花房小学校）、
田嶋駿樹（泗水東小学校）、小田智仁（泗水小学校）、坂本光大郎（泗水西小学校）、
西村昌紘（菊池北中学校）、河本健二（菊池南中学校）、内田小咲稀（七城中学校）、
石丸美穂子（泗水中学校）、井柄光博（旭志中学校）松岩文（菊池高等学校）、
菊川亮（菊池農業高等学校） 計17名

講師：安田昌則（前大牟田市教育長）、石村秀登（熊本県立大学）、遠入哲司（福岡市立小呂小中学校）、
大西浩明



福岡会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025年12月13日（土）10：00～15：00

会場：福岡市立早良市民センター

参加者：床田知子、野口瑞生（福岡市立内浜小学校）、松田博光（福岡市立四箇田小学校）、
山本隆一（福岡市立南当仁小学校）、力恵利佳（福岡市立小呂小中学校）、
田中祐子（福岡市立柏原小学校）、山本志麻（福岡市立玄洋小学校）、
橋本智美（福岡市立三宅小学校） 計 8 名（欠席 6 名）

講師：遠入哲司、（福岡市立小呂小中学校）、河野陽一（福岡市立西新小学校）、
稲留愛（福岡市立田隈小学校）、大西浩明



附属こども園会場【研修⑤⑦】「保育構想案の相互検討②」、「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2025 年 12 月 17 日（水）13：30～16：00

会場：附属こども園

参加者：清水智佳子、百村美代子、卜澤由奈、辻夏苗、木下育子 計 5 名（1 名欠席）

講師：阪本さゆり（奈良保育学院）、大西浩明



福住小中学校会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2026 年 1 月 7 日（水）13：00～17：00

会場：天理市立福住小中学校

参加者：犬塚良子、大野直彬、堀川淳司、前田佳代、宇高礼弥、小迫雅和 計 6 名（1 名欠席）

講師：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、河野晋也、大西浩明



附属中学校会場【研修⑤⑦】「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2026年1月9日（金）16：00～18：00

会場：附属中学校

参加者：篠原嶺、今西昇平、竹田ゆい 計3名

講師：吉田寛、長友紀子（附属中学校）、大西浩明



※欠席者の指導案等の相互検討は、奈良 ESD 連続セミナーにオンライン参加していただいていた。

ESD プログラム (ESD ティーチャー) 履修の手引き

1. プログラムの趣旨・概要

- ・ESD プログラムの履修を通して、学校や地域において ESD を適切に計画し、実践できる教員「ESD ティーチャー」を目指します。
- ・本プログラムは、授業科目以外に、ESD 実践 (学校や地域での ESD に関わるボランティア活動等) や、ESD 演習 (授業以外での ESD に関する学習)、現職教員と共に ESD 学習指導案作成を学ぶ ESD 連続セミナー (3 回生より) で構成されています。
- ・「スタートアップ⇒プラクティス⇒グローバル」とステップアップし、最終的に「ESD ティーチャー」が授与されます。

2. プログラム履修条件・申請の説明会・申請方法

- ・本プログラムはすべての学年の学生を対象としています。人数制限はありません。
- ・4 月 15 日 (火) 18:30~19:30 ESD・SDGs センター多目的ホールにおいて説明会を開催しますので、出席してください。裏面に申込みフォームの URL(QR コード)をお知らせしますので、履修希望が固まれば、4 月 27 日 (日) までに、フォームからお申込みください。

3. 授業科目・履修方法

(1) スタートアップ・プログラム

① ESD プログラムに関わる必修科目

前期: ESD と学校教育(木)、ESD-SDGs 基礎論(火)

国連 SDGs 入門ー「行動の 10 年」のためのサステナビリティの学びー(火)

後期: ESD 概論(火)、ESD と生活科・総合的な学習の時間(月)

② 以下の ESD 実践や ESD 演習に各 1 回以上参加し、ポートフォリオを作成する。

実践や演習の情報は、履修登録された方にその都度メールで案内します。

実践: ESD 子ども広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺寺屋支援

被災地支援ボランティア等

演習: ESD 実践交流会、春日山原始林フィールドワーク等

(2) プラクティス・プログラム

① 選択必修科目である「環境教育、世界遺産・文化遺産に関わる科目」「ICT、防

災教育に関わる科目」、より、それぞれ 1 科目以上

② ESD 実践や ESD 演習に各 1 回以上参加 (スタート・アップと同じ)

(3) グローバル・プログラム

- ① ユネスコスクール推奨科目より 2 科目以上を履修してください。
- ② ESD 連続セミナーに 5 回以上参加し、ESD 学習指導案を作成します。

ESD 学習指導案の書き方は ESD 連続セミナーで学びます (3 回生より)。

(4) 修了の判定

原則として 3 年かけて履修していただきますが、自らの履修計画により短縮して履修することも可能です。ポートフォリオシステムを使って、ESD 実践・ESD 演習の履修を蓄積し、最終的にポートフォリオと ESD 学習指導案を 1 月末に提出していただきます。書類審査の上、年度末に ESD ティーチャー認定証を授与します。

スタートアップ・プログラム: 必修科目 (2 科目以上履修してください)

ESD と学校教育	ESD 概論
ESD-SDGs 基礎論	ESD と生活科・総合的な学習の時間
国連 SDGs 入門ー「行動の 10 年」のためのサステナビリティの学びー	

プラクティス・プログラム: 選択必修科目

環境教育、世界遺産・文化遺産に関わる科目 (1 科目以上)	ICT、防災教育に関わる科目 (1 科目以上)
山間地教育入門	情報社会と法・倫理
持続発展教育と文化遺産	情報機器の操作
自然と地域の未来を探る	情報メディアの活用
フィールドワークで地域に学ぶ	教師のための情報モラル
ESD と世界遺産	ESD と防災
ESD と気候変動	地理学概論

グローバル・プログラム: ユネスコスクール推奨科目 (2 科目以上)

人権と教育	生涯教育計画特講 I	文化遺産芸術学演習 II
日本国憲法	肢体不自由教育方法	ユーラシア美術史
キャリア形成と人権	知的障害教育方法	アジアの中の日本美術史
教育人権アプローチャ特講	生涯教育文化演習	地域文化論
教育人権アプローチャ演習	校外学習指導特講	造形芸術学特講
文化遺産芸術学演習 I	大学での学び入門(文化遺産)	地理学野外実験
生涯教育文化特講	仮名書法論	仮名書道と実用書
国際理解地域研究	教育経営行政論	社会学
教育経営学特講	ESD 原論	教師のための多様性理解
教育経営学演習	水圏科学	生涯教育史特講
生涯教育政策特講	公衆衛生学	教育史特講

比較文化論	外国人児童生徒等のための日本語教育の基礎	特別支援教育原論
発達障害の心理学	知的障害の医学	肢体不自由の医学と心理
病弱児の医学と心理	病弱児教育方法	発達障害の理解と対応

◇ESD（持続可能な開発のための教育）とは

ESD とは持続可能な社会の創り手を育むことを目的とした教育です。2015年に国連で持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。気候変動・資源の枯渇・生物多様性の劣化といった環境問題、紛争・テロ等の平和に関する問題、貧困・生産と消費といった経済・社会問題といった地球的課題が顕在化してきており、世界中で SDGs 達成のために取組が進められています。日本では、学習指導要領前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されました。文部科学省（日本ユネスコ国内委員会）では、ESD を SDGs の達成に貢献する教育と位置付けています。また、学校現場における ESD の推進拠点としてユネスコスクールを認定しており、奈良教育大学は、2007年に日本の大学として最初にユネスコスクールへの加盟が認められた大学であることから、ESD を推進しています。

◇ESD ティーチャーとは

ESD ティーチャーは、各学校での ESD 推進の担い手です。教師としての基盤の力量に加えて、豊かな教養をもとに、地域を教材化し、子どもの主体的な学びを引き出し、ESD を実践できる力量をそなえた教員を目指します。本プログラムでは、ESD や SDGs に関する理解を深めるとともに、現職の先生方との協働的な研修会に参加することで、学級経営や生徒指導など、学校現場で求められる教師としての基盤的力の形成も目指します。

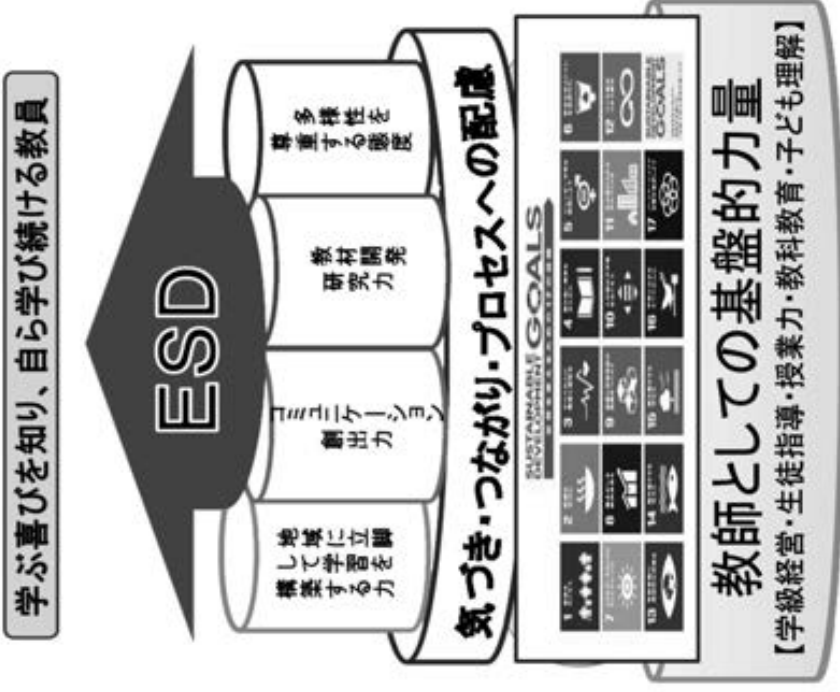
◇ESD 演習（授業以外での ESD に関する学習）

ESD 実践交流会、春日山原始林フィールドワーク、各種ボランティア活動報告会、ESD に関わる研究会、実践交流会など

◇ESD 実践（学校や地域での ESD に関わるボランティア活動等）

ESD 子ども広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺子屋支援、被災地支援ボランティア、地域での環境保全ボランティアなど
ESD プログラム登録者にメールで案内します。

- ◆3回生から登録可能な「学校フィールド演習Ⅱ」の単位を修得した場合は、ESD実践の要件（2つ以上参加）を満たしたとみなします。



ESD を実践する教員に求められる資質・能力

ESD プログラム (ESD ティーチャー) 履修の手引き (教職大学院生対象)

1. プログラムの趣旨・概要

・ESD プログラムの履修を通して、学校や地域において ESD を適切に計画し、実践できる教員「ESD ティーチャー」を目指します。

2. プログラム履修条件・申請の説明会・申請方法

・本プログラムはすべての教職大学院生を対象としています。人数制限はありません。
・4月15日(火) 18:30~19:30 ESD・SDGs センター多目的ホールにおいて説明会を開催しますので、出席してください。説明会で申込みフォームの URL(QR コード)をお知らせしますので、履修希望が固まれば、4月27日(日)までに、フォームからお申込みください。

3. 授業科目・履修方法

(1) 現職教員以外の方

①専攻共通科目 「ESD-SDGsの理論と実践」(必修)

②専門科目(6科目)の中から3科目選択

ESDカリキュラムマネジメント	ESDと総合的な学習の時間特講
ESDと郷土教育・総合学習	ESDと地域創生
ESDとしての教科教育実践	SDGsフィールドワーク

③ESD演習(2回以上)

授業以外のシンポジウム、講演会などでESDを学びポートフォリオを作成

④ESD実践(2回以上)

学校現場等で行われているESDの支援を行い、ポートフォリオを作成

※ESD演習・ESD実践に関する情報は、ESDティーチャープログラム受講生に、その都度紹介いたします。積極的に参加するようにしてください。

⑤以下のセミナーに5回以上参加し、ポートフォリオを作成する。

- i) 月1回、オンラインで開催するESD連続セミナーへの参加
- ii) 年5回、県立万葉文化館で対面を実施する授業づくりセミナー

- iii) 年5回、森と水の源流館でオンラインで開催する授業づくりセミナー
いずれかに5回以上参加し、単元構想案及びESD学習指導案の発表をしていただきます。

(2) 現職教員の方

- i) 月1回、オンラインで開催する奈良ESD連続セミナーへの参加
- ii) 年5回、県立万葉文化館で対面を実施する授業づくりセミナー
- iii) 年5回、森と水の源流館でオンラインで開催する授業づくりセミナー
いずれかに5回以上参加し、単元構想案及びESD学習指導案の発表をしていただきます。
- (3) すべての方

1月末までにESD学習指導案を教育研究支援課に提出していただきます。

ESD・SDGsセンターで審査した上で3月の教授会に報告し、学長より認定証が授与されます。

◇ESD(持続可能な開発のための教育)とは

ESDとは持続可能な社会の創り手を育むことを目的とした教育です。2015年に国連で持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。気候変動・資源の枯渇・生物多様性の劣化といった環境問題、紛争・テロ等の平和に関する問題、貧困・生産と消費といった経済・社会問題といった地球課題が顕在化してきており、世界中でSDGs達成のために取組が進められています。日本では、学習指導要領前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されました。文部科学省(日本ユネスコ国内委員会)では、ESDをSDGsの達成に貢献する教育と位置付けています。また、学校現場におけるESDの推進拠点としてユネスコスクールを認定しており、奈良教育大学は、2007年に日本の大学として最初にユネスコスクールへの加盟が認められた大学であることから、ESDを推進しています。

◇ESD ティーチャーとは

ESD ティーチャーは、各学校での ESD 推進の担い手です。教師としての基盤的力量に加えて、豊かな教養をもとに、地域を教材化し、子どもの主体的な学びを引き出し、ESD を実践できる力量をそなえた教員を目指します。

本プログラムでは、ESD や SDGs に関する理解を深めるとともに、現職の先生方との協働的な研修会に参加することで、学級経営や生徒指導など、学校現場で求められる教師としての基盤的力量の形成も目指します。

◇ESD 演習(授業以外での ESD に関する学習)

ESD 実践交流会、春日山原始林フィールドワーク、各種ボランティア活動報告会、ESD に関わる研究会、実践交流会など

◇ESD 実践(学校や地域での ESD に関わるボランティア活動等)

ESD 子ども広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺寺子屋支援、被災地支援ボランティア、地域での環境保全ボランティアなど
ESD プログラム登録者にメールで案内します。

学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける教員



ESD を実践する教員に求められる資質・能力

令和7（2025）年度 ESDティーチャー・フォローアップ研修会開催要項

1. 目的

学習指導要領が全面実施されたことに伴い、現職教員にとって、ESDを適切に計画し実施する力量の形成は、ますます必要性が高まっている。平成28年度より展開するESDティーチャープログラムにおいて、ESDティーチャーに認証された現職教員が全国で600名を超えた。そこで、全国でESDに取り組んでいるESDティーチャー・マスター・スペシャリストを対象に、そのフォローアップとしてオンラインによる研修会を実施することで、参加教員のESDの更なる理解促進と、参加教員相互のネットワークの形成を目的に、本研修会を開催する。

2. 主催 奈良教育大学 ESD・SDGs センター・近畿 ESD コンソーシアム

3. 対象 ESD ティーチャー・マスター・スペシャリスト

4. 内容 Zoom を用いたオンライン研修・交流

- ・ESD や SDGs の理解促進を目的とした研修
- ・参加教員による実践事例の相互検討
- ・参加教員作成の ESD 学習指導案や単元構想案の相互検討

5. 方法

- ・原則として1回／2カ月（計5回）。Zoom を用いたオンライン研修・交流会
- ・全国の ESD ティーチャーに毎回、開催通知、URL をメール送付し、参加を呼び掛ける。
- ・各回1～2名の実践について相互検討を行う。
（緊急に単元構想案や学習指導案の検討を行う場合もあり）

6. 担当者（企画・運営） 大西・中澤・河野：現職教員の経験を有する大学教員

7. 開催日時（いずれも時間は、19時～20時30分）

- ① 5月20日（火） 奈良教育大学 長谷川かおり氏
- ② 7月8日（火） 滋賀県草津市立老上小学校 辻 大吾氏
- ③ 9月9日（火） 兵庫県姫路市立水上小学校 菊池甲餘子氏
- ④ 11月11日（火） 奈良県天理市立福住小中学校 堀川淳司氏
- ⑤ 1月27日（火） 山形県教育局村山教育事務所社会教育課 小関直幸氏

このほか、山形、沖縄、屋久島など、これまでの開催地域で要望があれば開催する。

8. 期待する効果

- ・ESD ティーチャーの ESD 実践力の向上及び ESD の質的向上を図る。
- ・全国の ESD ティーチャーの取り組みを把握し、成果発表会・実践交流会につなげる。
- ・全国の ESD ティーチャー、ならびに各地の ESD 研究会のネットワークの形成を進める。

第1回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2025年5月20日(火) 19時～20時30分
- ◇方法 Zoomによるオンライン方式
- ◇参加者 30名

◇実践報告 奈良教育大学 特任准教授 長谷川かおり先生
「幼児教育におけるESD」

【実践概要】

1. 幼児教育の基本となる考え方とESDの共通性

- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①生活を基盤とすること ②総合的・包括的な指導方法 ③環境を通しての教育 ④自然との関わりへの重視 ⑤園と家庭・地域の連携 ⑥子どもと保育者の相互性 | } | <p>ESDと親和性がある</p> <p>どんな活動をしてでもESDの切り口でできる</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ただ、こども園では教育目標という大きな捉えの中で考える</p> |
|---|---|--|

2. 奈良教育大学附属こども園の教育目標について

令和4年度より 「共に創る保育 ～持続可能な社会の担い手を育む教育課程の開発～」

持続可能な未来に向けて、地球規模の課題を自分事として捉え、身近なところから行動し、仲間とともに新たな価値を創造する力を備えた人になるための基礎を育みたい！

めざす方向

〈地球の中で〉持続可能な未来に向けて、保育者とともに考え、行動する子ども

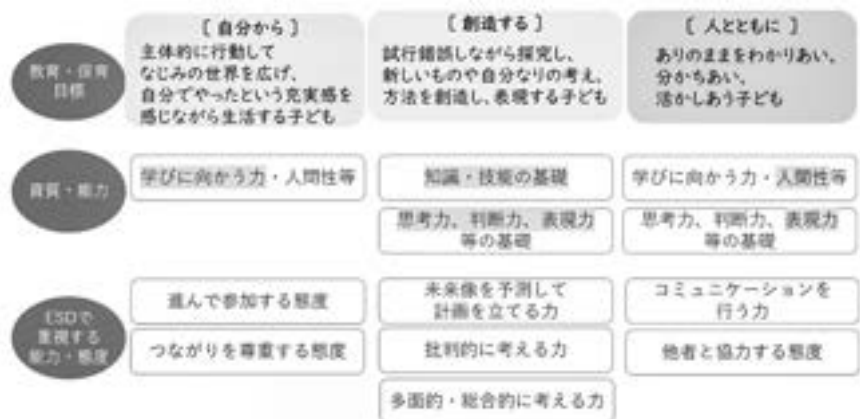
めざすこども像

〈自分から〉主体的に行動し、なじみの世界を広げ、自分でやったという充実感を感じながら生活する子ども

〈創造する〉試行錯誤しながら探究し、新しいものや自分なりの考え、方法を創造し、表現する子ども

〈人とともに〉ありのままを分かり合い、分かち合い、活かし合う子ども

ESDで育てたい資質・能力に併せてみると・・・



教育・保育目標

保育者とともに
体験してほしい
こと

ESD の構成概
念とあわせてい
る。

育てたい資質・
能力 (12) →

すべて育てない
といけないとい
うわけではな
い。



3. 実践事例① 「附属こども園の誕生日をお祝いしよう」

日常的に子ども同士で誕生日をお祝いし合っている

→ みんなでこども園の97歳の誕生日をお祝いしよう！

園庭に集まって歌を歌ったり、紙に書かれたケーキを配ってもらったりする
自分のため、他者のために園や地域の活動に保育者とともに参加・参画する

「こども園にも自分と同じように誕生日がある！」(2歳児)

「こども園のためにみんなといっしょにろうそくを飾ってお祝いしよう！」(年少児)

「こども園にためのろうそくを工夫して作り、全園児でいっしょにお祝いをする」(年中児)

「こども園は自分の年齢よりも長く生きている（存在している）ことを知る」（年中児）
「周りの人やものの年齢に関心をもつ」（年長児） 大仏さんは1270歳！
「こども園の誕生日のために自分ができることを考え積極的に参加する」（年長児）
「昔のこども園、当時の人の生活・遊び等に関心をもつ」（年長児）
昔からある遊具（太鼓橋）は、「楽しいから、大切に使っているから今も残っている」
今一番楽しいと思う一輪車も大切に使わなきゃ！

4. 実践事例② 「卒園記念写真『だいすきなようちえん』」（5歳児）

園に近い写真館さんからいろんな写真をいただいている

→ これを参考に、卒園式に飾る写真を子どもに撮らせる（思い出の場所・もの）

- ・幼稚園を大切にしようとする ・友達の好きなことを知る
- ・遠くのだれか、遠くの出来事への関心や大切にしようとする気持ち

なぜそれを撮影したか、一言を添えて全員の分を卒園式で掲示する

【質疑応答、意見交流】

○幼児期におけるESDを意識した取組によって、特に小学校生活科での学びに直結すると感じた。

○家庭との連携が非常に重要になってくると思うが・・・

→ 第1回の懇談会で、園の教育目標に沿ったその学年の方針などを具体的な姿で伝えている。

○「つながりに気付く」ことの大切さを感じた。1年生でももっとできることがあると思う。

○自己制御できない子どもが増えてきているように感じるのだが・・・

→ 個人で差があるのは仕方ない。その子にあった見取りと指導が大事ではないだろうか。

○子どもの思いや創造にいつでも沿えるように、いろいろなものが準備されている環境が大事なんだと気付けた。実践の幅につながる。

○「地球の中で」？ 「地球の上で」かなと感じた。

○資質・能力だけを考えていたらだめだということには共感できた。

6つの構成概念とあわせることでESDが見えてくるというのはその通りだと思う。

○環境構成を工夫することで子どもたち自ら活動し、その中で学びが深まるのは学校教育でも同様。

○「感覚を養う」ことの重要性を感じた。特に幼児期や小学校低学年では。

- ・写真を撮るときに感じる季節の変化、自然の不思議さや面白さ
- ・だれかと一緒に何かをすることの楽しさ

ESDは探究するとき一人でするのではなく、だれかと一緒にするから学びが深まる
それが楽しい！

第2回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2025年7月8日(火) 19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 20名

◇実践報告 滋賀県草津市立老上中学校 辻大吾先生

「老中生三方よし ～スクールくさつ ESD プロジェクトの取組から～」

【実践概要】

草津市立老上中学校：生徒数 665 名 3 学年各 7 クラス 矢橋（やばせ）

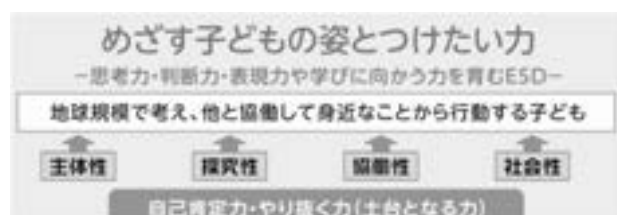


「もののふの 矢橋の船は速けれど
急がば回れ 瀬田の長橋」

昨年度より、草津市内の全小中学校において、
「スクールくさつ ESD プロジェクト」を展開

こどもたちが身の回りの事象を地球規模で考え、他者と協働して身近なことから行動することにより自己肯定力ややり抜く力、主体性・探究性・協働性・社会性を養うため、「総合的な学習の時間」を中心に、地域と学校に共通する課題解決のために、教科で学んだ知識を活用して、地域と協働して学習する「スクール ESD くさつプロジェクト」を市内小中学校で実施

地域と学校が共通する課題解決のために 地域と学校が協働して学習を実施



第4期教育振興基本計画を受け、
第4期滋賀県教育振興基本計画、
第4期草津市教育振興基本計画を策定
その中の「スクールくさつ ESD プロジェクト」

(老上中の全体スローガン) 行動すること！

「考動」：持続可能な社会の創り手の育成

「幸動」：自他のウェルビーイングの向上

(老上中学校の総合的な学習の時間の目標)

- ①持続可能な社会のテーマを中心とした探求学習において自ら課題をみつけ、自ら考え、自ら考動できるような学習内容の実施
- ②学び方やものの考え方を身につける
- ③卒業後を見据え、自己の生き方を考える

近江商人の「三方よし」の精神を真似て、

2年生総合学習「老中生三方よしプロジェクト 世間よし・琵琶湖よし・みんなよし」

・1年1学期

O'PAL（オーパル）での自然体験学習における「カヌー体験・ヨシ帯観察」「ヨシ笛づくり」等琵琶湖や滋賀の魅力を伝えるために、O'PALの体験からまとめる・調べる・深める

→ 2学期 伝える活動（文化祭で）

→ ヨシと滋賀・琵琶湖についてさらに深める

ヨシの保全や利用にめぐる様々な問題を解決するには？

ヨシは1年で約3m成長し、冬に枯れて刈り取る 刈り取ったあと焼く

放置すると、二酸化炭素の吸収量減少、メタンガスの排出、水質悪化、動植物のすみかの減少

・1年3学期

ヨシの刈り取り（校外学習）

・2年1学期

乾燥させたヨシの皮むき

→ ヨシ簀（すだれ）づくり

各教室に設置し、室温の変化や快適性を検証する予定



・今後のビジョン

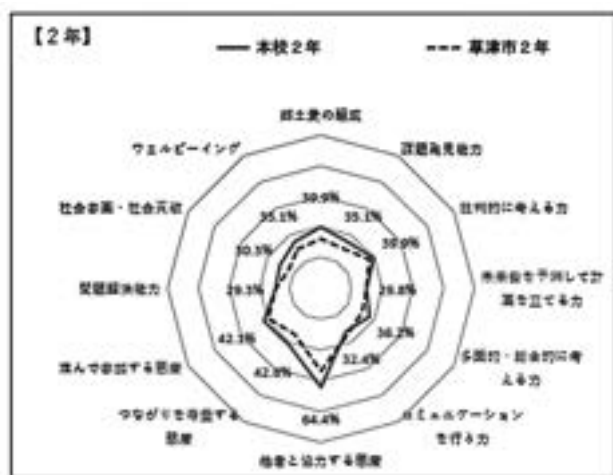
ヨシを使用しランプづくり

ヨシ笛づくり・演奏会

ヨシを使った商品の企画提案

（2学期には）イナズマ・ロックフェスで来場者に「ヨシについて知ってもらおう」

（3年生になった）ヨシを使った商品化・販売、ヨシ紙で卒業証書作成 などを構想中



本実践を通して、子どもの資質・能力の高まりがみられる

5月段階での結果のため更なる高まりが期待できる

（今年度）

1年生：防災学習

3年生：老上再発見プロジェクト

7月21日に開催される世界湖沼会議のユースセッションに、この取組を動画にまとめて参加予定

【意見交流から】

○琵琶湖の宝であるヨシを題材に、学年を追ってスパイラルに展開されているダイナミックな実践である。子どももワクワクすることだろう。

○長浜市でも、びわ中学校が30年以上にわたって苗を育てて植樹している。一度交流されてはどうか。

○平城宮跡に群生するオギを題材に学びを展開しているが、ヨシのように刈り取った後の活用ができないか模索中。ヨシ簀はヒントになった。

○この実践の全体設計はだれが？

- 大枠のビジョンや大事にしたい資質・能力などは校長から出したが、具体的な計画は学年で。
- 小学校との連携は？
- 草津のプロジェクトはまだ昨年から始まったばかりなので連携ができているとはまだ言えない。
- ハナバチから環境学習を進めようと思っているが、ヨシがその住みかにいいと聞いた。琵琶湖のヨシをぜひ使いたいので連携させてください。
- 小学校の間でどういう力をつけて中学校に入学してもらえるといいと考えているか？
- 自分の考えを表現できる、アウトプットできる力があればいいと思っている。
- ESD に学校全体で取り組むにあたって、教員のメリットやハードルは？
- 子どもの反応が大きいと教師のやる気も出る。
- さらにもっとこんなことができないかと意欲的になっている。
- 最初は負担感を感じるのではと危惧したが、むしろ教科の中にもっと ESD の視点でできないかというもどかしさを感じている。
- 中学生から小学生に伝える場面があってもいい。
- ヨシという一つの題材から様々なところへ広がる学びになっているのは、ヨシという題材がいいのか、老上中学校の先生たちのマネジメントがすごいのか、たぶん両面だと思う。さらに、子どもたち自身が「次は・・・」と前のめりになっていろんな発想を生み出しているところに価値があると感じる。
- 今はヨシの活用に重点を置いておられるが、3年間のどこかで、ヨシがそこに健全な姿であることの大切さが実感できる活動があればいいと思う。
- (生き物調査や水質調査など専門家に入っただきながら、実際に調査させてみたい)

- ◇日時 2025年9月9日(火) 19時～20時30分
- ◇方法 Zoomによるオンライン方式
- ◇参加者 22名

- ◇実践報告 兵庫県姫路市立水上小学校 菊池甲餘子先生
「かけがえのない命と共に生きよう～新しい命から自分自身の「いのち」を見つめる～」

【実践概要】

特別支援学級を担任して1年 現在育休中

昨今の「性」に関わる課題（性の多様性、望まない妊娠や性感染症、性加害・性暴力など）

「性」や「命」に関わるニュースが世間に出てくるようになった時代

→ 自分を守る、相手を傷つけない、一人一人を尊重することを指導しなければ



体への関心がない
正しい興味を持ち方
ではない

小学校での指導や配慮の難しさ
特別支援学級の児童
の理解度に合わない

夏休みに自分の妊娠が分かる 「命を体で感じられる活動を」

1) 正しい知識をもつ

「先生の赤ちゃん、頭めっちゃ大きいな。」 → お腹の中を予想して絵にかく
おなかの中で赤ちゃんが立っているイメージ

- ・助産師さんをGTにして答え合わせ

「先生のおなかには、今これぐらいの大きさの赤ちゃんがいるんだよ」

「こんなに小さな卵から、こんなに大きい赤ちゃんになるんだよ」

- ・妊婦を体験する・・・地面に落ちた紙を拾う、下り坂を歩く、靴下をはく
- ・赤ちゃんの心臓の音と自分を比べる

「速さは全然違うけど、心臓が動いているのは同じ」

「心臓の音を聞いて温かい気持ちになりました。自分がどんなふうに生まれてきたのか知りたくなりました。」

「お母さんたちは赤ちゃんをととても大切にしていると知ったから、私は赤ちゃんを産めないと思いました。小さい子はかわいいと思ったけど、大切にできる自信がないなと思いました。」

2) 自分が生まれてきたときの話を聞く

お母さんの気持ち、家族の気持ち、おなかにいたときのエピソードなど

生まれた瞬間、生まれてから

→ 家族全員でゆっくり話ができ、毎日おなかを触ってくるようになった

3) 「生と死」を考える

「命」宮越由貴奈さん（小4）

宮越さんは5年生で亡くなった

命は自分が動くため、生きるために大切

なもの！

命は交換できない！



「ぼく、イライラしたとき命なんてどうでもいいってなってしまうねん。」

「この前、心臓の音聞いてとってもうれしかった。心臓は一生懸命生きてるって知った。」

「ママは僕のこと大好きって言ってたし、大事にしてもらっているから『死にたい』は言わない。」

4) これからの「命」を考える（第二次性徴の話から自分の体の守り方を考える）

・養護教諭を GT に

男性と女性の体の特徴を知る プライベートゾーンを体験する（隠す場所を考える）

「ここ、友達みられてうれしい?」「いや、恥ずかしい」

プライベートゾーンは、自分を守ることと相手の気持ちを考えることが大事!

・保護者が書いた「性の絵本 みんながもってるたからものって なーんだ?」の読み聞かせ

「どうして絵本描いたの?」

「〇〇くんに自分の体のことを知ってほしくて・・・」

5) 振り返り

大きな紙に等身大アートを描く

自分の体の大きさを客観的に見る 生まれたときの大きさを定規で測る

自分の好きな色を好きなように塗る 自分らしさ

「私、いろんな人を大事にできる人になりたい。無理かな?」



(成果)

- ・自分の体に関心をもつようになった
- ・自傷行為が減った
- ・友だちの素敵なところを褒める
- ・傷つく言い方が減った
- ・両親に感謝するようになった
- ・家族で集まって写真を見る日が増えた

(課題)

- ・特別支援の児童のレベルの合わせ方
- ・風通しの良い特別支援教育
- ・学校にける性教育の難しさ

【意見交流】

- 長期記憶のためには写真が有効。リビングに家族写真があるというだけでも思い出す。でも、心が温かくなるような学びは必ず長く記憶されているのではないか。
- 「繰り返し学ぶことで記憶に残る」とされていたが、たった1回でも明確に記憶に残ることもある。特別なことや状況（新婚旅行、修学旅行など）ではそうではないだろうか。子どもにとって特別な学びであったなら、長期記憶となると思う。
- 命の教育、性教育、ジェンダー教育には宗教が関わってくる。中東にいればそこをないがしろにできないことを痛感している。
- 自分の持っている文化と他人の文化は違うということを理解しないといけないのだが、なかなかできないことも多い。頭で分かっているけど心で分からない。何が正しいということまでは踏み込めない。
- 性的マイノリティに関して言えば、SOGI（性的指向と性自認）の概念が出てきて捉えやすくなってきた。
- 人権の観点から言っても、最初に「正しく知る」ことを最初に大事にされていたのがいいと思う。
- 「私、いろんな人を大事にできる人になりたい。」という言葉は、学びの中から内発的に出てきたものであり、より深みがあると感じる。
- 「生きた教材」として先生自身が身をもって教材化されたところが素晴らしいと思う。
- 経験したことはどこかで心の中に残っていて、呼び出せないだけ。呼び出すきっかけが大事。
- 理解度の違いを言う前に、体験することの大切さを感じる。4人の子どもたちが同じ体験をしても感じ方はそれぞれで、一人一人の感じ方や考え方に先生が寄り添えばいいだけだと思う。

第4回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2025年11月11日(火) 19時～20時30分
- ◇方法 Zoomによるオンライン方式
- ◇参加者 20名

- ◇実践報告 奈良県天理市立福住小中学校 堀川淳司先生
「福住小中学校のESD実践 ～『福住学』を中心としたホールスクールアプローチ～」

【実践概要】

児童・生徒数減少により、小中学校に 現在1年～9年までで90名
そのうち4割は天理市内全域からからの通学、3割が昔からの居住者、3割が他地域からの移住者
「福住学」をカリキュラムとして位置付け、各学年で実施している

○耕作放棄茶畑を活用したお茶の栽培とブランド化の取組

もともと500軒以上あった栽培農家が1軒に
耕作放棄されたお茶の木から枝ごと茶葉を刈り取る(無農薬)
そこから切り取った茶葉を焙煎し、「里山三年晩茶」として商品化
→ 無印良品にて販売
ハーブ栽培 三年晩茶とブレンドしたらどうだろう?
4種類のブレンド茶を全校で味わい投票
選ばれたお茶「里山を守るお茶」「人と人をつなぐお茶」
経費は、株式会社フェリシモのクラウドファンディング型のポイントプログラムによって商品化



○黒大豆栽培からの味噌づくり

地域の人に教えてもらって味噌づくり → 給食の材料に

○「大和ルージュ」の栽培

天理市の種苗会社が開発した新種の赤いトウモロコシ
種植えから小中いっしょに栽培 天理市内の給食の献立に
地域の方が大和ルージュをコーンスープに商品化
→ パッケージのデザインを小学校1・2年が作成



○無農薬にこだわった米づくり

3年前、5・6年生が耕作放棄地を一から開墾して実施 今年4年目のチャレンジ
糶まきから始めたが発芽した段階で全滅 → 地域の人から苗をいただく
ポット苗だったので田植えのときに根を切らないで済む
田おこし、代掻き(馬鍬を使って)、田植え(田植え枠を使って)
米ぬかぼかし(水を濁らせて光合成を抑制し雑草を減らす、肥料にもなる) 2回散布

稲刈り はぎ干し（毎日水分量を測定）・・・算数の「平均」の学習に
足踏み脱穀機を使った脱穀 とうみを使った選別作業
52 kgの米を収穫 去年は 10 kgしか獲れなかった
今年は米粉パーティをしたい

○堆肥づくり

地域の人に教えてもらおうと、わずか1日で発酵して60°Cに
このあと堆肥舎を校庭につくって、米ぬかぼかしを作る予定

○炭づくり

教師が地域の炭づくりを見学

→ 中学部の若い先生たちが奮起

運動場に炭窯をつくる すでに2回炭づくりに挑戦

使える炭まで炭化しているかは電気を通してテスターで調べる

中学生が炭窯の横にピザ窯を制作

米粉ピザをつくって全校にふるまってくれた



○植林活動

クヌギ、マテバシイなど

クヌギは9～10年で大きくなるので、入学して卒業するときには伐採できるようになればいいな
と思っている。

○シイタケ栽培

小中いっしょに

○甘葛（あまづら）づくり

福住は「氷室の里」 奈良時代、氷室があって夏には氷を都まで貴族のために運んでいた
シロップの役割をしていたのが、ツタの木から採取する甘葛

切ったツタの木を振ると中から白い液が出てくる

糖度 18.8% 甘すぎない甘さ

氷室神社の方、奈良女子大学の研究者に協力いただく

かき氷で堪能



○ヤマトサンショウウオの保護活動（生物部）

絶滅寸前種 3年かけて近くで発見

有機栽培をしている場所には生息している

「人にも環境にもやさしい里山づくり」をめざす

環境省に協力いただき、トラップづくり

今年はクマの出没で山に入れず

地域、行政、研究機関とも連携しての保護活動



【意見交流から】

- 外部との連携についてどのようにされているのか詳しく聞かせてほしい
 - 小中それぞれに ESD 担当を置いて、そこが窓口になっている。校長が補佐してくれている。100 名以上の方に協力していただいている。
- 9 年間にまたがるカリキュラムを学校として作成しているのか？
 - 「福住学」のカリキュラムは作っているが、毎年リニューアルしている。子どもの思いや教師の得手、関心は毎年違ってくるので。
- 教員間での温度差はないのか？ それをどのように改善されているのか？
 - 職員間でのコミュニケーションがまずは大事だが、自然とそれができているのが強み。若い先生の「こんなことやりたい」はできるだけ吸い上げる。先生が楽しんでやっている様子を他の先生が見ると、自分もやりたくなる。
- 子どもたちの変容について具体的に教えてほしい。
 - 山の子どもたちなので、どうしてもコミュニケーション力は弱い。しかし、様々な取組によって自信となり、発表会などにも積極的に参加するようになってきた。
- 子どもたちの「こんなことをしたい」という思いが、地域をどのように動かしているか？
 - 地域が有機栽培米に本気で取り組み始めた。そこから日本酒造りのプロジェクトが始まっている。耕作放棄地を何とかしようとする動きが出てきた。
- 今いる先生たちが異動されたら、これらの活動が繋がっていくと思うか？
 - ESD ティーチャープログラムに毎年参加して認証を得る。仕掛けが大事。5・6年の米づくりに4年生が自分からやってきて手伝う。米ぬかぼかしは、来年米づくりをする4年生が担当する。
- 2 学年で同じ活動をしているが、毎年重複してしまわないのか？
 - 同じ活動をしていても関わり方が違っている。同じ米づくりでも、去年はこうだったが今年はこれをやりたいという思いから内容が変わってくる。
- 職員同士でいろんな話をしていく中で、多くのアイデアが生まれてくる。学校に文化が根付いているからだと感じる。
- 子ども、先生、地域とも、みんなのウェルビーイングにつながっていると思う。

第5回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2026年1月27日(火) 19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 20名

◇実践報告 山形県教育局村山教育事務所社会教育課 小関直幸氏

「慈恩寺の魅力発信して、醍醐地区を盛り上げよう

～目指せ！ 慈恩寺子どもガイド～」(小学校6年：総合)

【実践概要】

寒河江市立醍醐小学校に勤務時、令和3年度の実践

慈恩寺・・・746年、聖武天皇の勅命により開山された歴史と由緒のある寺 薬師堂の「十二神将」

- ・人口の高齢化により、地域の活性化が求められていた
- ・慈恩寺テラス(ガイダンスセンター)の開設(2021年)
- ・NHK大河ドラマ「鎌倉殿と13人」 大江氏ゆかりの寺

慈恩寺の歴史などの「こと」、

慈恩寺にある文化財などの「もの」、

1300年も失われず残ってきた背景にある」ひと」の思いに触れ、

→ 慈恩寺の魅力をも主体的に発信できる子どもを育てたい！

学習の流れ

醍醐地区の現状と課題を整理する 地域を活性化したい！ 慈恩寺を活用した取組ができないかな

慈恩寺や慈恩寺テラスの見学 慈恩寺を活用した寒河江市の取組を調べる

地域学校協働活動推進員さんに来校していただき、醍醐地区の人たちの思いや願いについて聞く

「このままでは大切なものが受け継がれていかない」 「慈恩寺のガイドをしたい」

慈恩寺子どもガイドに向けて

ガイド原稿やパンフレットの作成

→ 地域や慈恩寺の方にアドバイスをもらう

→ 練習

学校と慈恩寺を何度も行き来し、リライト



9月下旬 子どもガイド実施(約1時間で20組)



メディアにも取り上げられ、隣町の小学校から慈恩寺子どもガイドを依頼される →パート2実施
外国人向けのガイドブック作成

子どもガイドを通して・・・「慈恩寺は今日まで守り継がれてきた貴重な財産」「地域に貢献できた」

外部からの評価により手応えや達成感を味わう 積極的な行動化につながった
醍醐小学校の総合的な学習の時間の柱として現在も実施されている（今年で5年目）

【意見交流から】

- ・地域とつながって子どもが学ぶことの意義を改めて考えさせられた。
- ・高校生になった当時の子どもたちの今の様子を教えてほしい。
→ 卒業してからも、ガイドをしようとする後輩の様子を見に来てくれたりしていた。
- ・奈良市では「世界遺産学習」を進めているが、成人しても「当時の学びが楽しかった」と言ってくれたりして最近うれしかった。
- ・地域学校協働活動推進員さんとうまく連携できるシステムが必要だと感じている。
→ 管理職とはつながっていても学級担任とはなかなか接点がない。
週1回30分でも、いろんな先生と話ができる環境があればいいのではないか。
最初はお茶会でもいいと思う。
- ・毎年同じ取り組みを続けていく中で、変化していっているところは？
→ 子どもガイドをすることで、地域が変わった。
もともと由緒正しい寺なので、だれもが敷居を高くしていたが、子どもガイドでも観光客はとも喜んでくれているのが分かって、地域の人たちの考えが変わった。
2年目は、寺の方から「違ったところのガイドを」とリクエストされた。
3年目以降も、「今度は自分たちが・・・」という思いが強く、マンネリにはなっていない。
6年の担任には、「何のために子どもガイドをするのか」という意義や目的を話してきた。
- ・地域を巻き込んで、地域の人に火がつくという取組になっているのは素晴らしいと思う。
- ・歴史文化遺産を通したESDとしては本筋の実践だと感じる。
- ・こういう学びを経験した子どもたちは、すぐに数値化できる変化はなくても、確かな地域アイデンティティを持った人に育っているはずである。
- ・人がどんどん減って、「その地域はなくなっていいのか？」と考えたら、やはりそうではないと思う。
そこで、子どもたちが力となって大人が変わっていけば、地域は残っていくのではないか。

令和7（2025）年度 奈良ESD連続セミナー開催要項

1. 目的

学習指導要領が改訂され、前文や総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記された現在の学習指導要領は、幼稚園では2018年度より、小学校は2020年度、中学校は2021年度、高等学校では2022年度より実施されている。学習指導要領が求める教育を実施するためには、教育内容の捉え方の見直しや教育方法の改善が必須であり、ESDを適切に指導する資質能力の育成が、教員養成及び現職教員研修にとって喫緊の課題であることは間違いない。そこでESDの指導者として求められる資質能力を育成することを目的に、本連続セミナーを開催する。

2. 開催日時 【時間はいずれも19時～21時】

- ① 5月13日（火）：SDGsの理解促進
- ② 6月 3日（火）：ESDの理論研修
- ③ 7月 1日（火）：優良実践事例の検討
- ④ 7月22日（火）：単元構想案の相互検討（1）
- ⑤ 8月26日（火）：単元構想案の相互検討（2）
- ⑥ 9月16日（火）：単元構想案の相互検討（3）【学生】
- ⑦ 10月 7日（火）：単元構想案の相互検討（4）
- ⑧ 11月 4日（火）：学習指導案の相互検討（1）
- ⑨ 12月 2日（火）：学習指導案の相互検討（2）
- ⑩ 1月20日（火）：学習指導案の相互検討（3）【学生】
- ⑪ 2月 3日（火）：研修の振り返り

研修（6）（7）は、これ以外に実施予定

3. 方法 基本的にはZoomを用いたオンラインで実施

4. 研修内容

- （1）SDGsの内容理解
- （2）ESDの学習理論
- （3）優良実践事例の分析と単元構想案の作成について
- （4）ESD単元構想案の相互検討
- （5）ESD学習指導案の相互検討
- （6）ESDカリキュラムマネジメント
- （7）ESDカリキュラム案の作成・相互検討

5. プログラムのレベルと研修

(1) ESD ティーチャーコース

- ①ESD 連続セミナーへの 5 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、1 月末日までに提出

(2) ESD マスターコース

- ①ESD 連続セミナーへの 7 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6 P 程度）し、1 月末までに提出（考察をしっかりと記載すること）。
- ③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④研修（6・7）への参加

(3) ESD スペシャリストコース

- ①ESD 連続セミナーへの 7 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6 P 程度）し、1 月末までに提出（考察をしっかりと記載すること）。
- ③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④学会や研究大会での実践事例の発表か、ESD 研修会の開催と報告書の提出
- ⑤研修（6・7）への参加

※3 月末に学長より ESD ティーチャー、ESD マスター、ESD スペシャリストの認定証が授与されます。

※作成された学習指導案や実践事例は近畿 ESD コンソーシアムの HP に掲載します。

第1回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

- ◇日時：2025年5月13日（木）19時～21時
- ◇方法：Zoomによるオンライン形式
- ◇参加者：40名

- ◇内容：「SDGsとESD ～誰一人取り残さない社会をめざして～」

奈良教育大学准教授 及川幸彦先生

ESDをやろうと思ったら、SDの部分を正しく理解しないといけない
そこを分かりやすく整理したものがSDGs
形だけのESDにならないように注意しないといけない
持続可能な社会ではないのだからESDが必要

◎SD（持続可能な開発）とは？

経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素を調和させることが不可欠
それをできなかった代表例が気候変動 「今さえよければ」という風潮が現代にはある

◎ESDとSDGsが生まれた背景 ～持続不可能な諸課題～

絶え間ない紛争と対立（宗教対立、民族紛争等）
顕在化する環境問題（気候変動、生物多様性、海洋問題等）
苛烈化する自然災害（地震、津波、台風、風水害、干ばつ等）
グローバル化と自国主義（難民、外国人労働者と保護主義）
経済的格差の拡大（一部の富裕層が大部分の富を掌握）
科学技術の進歩と社会構造の変革（AIの台頭、society5.0）
人口格差（途上国の人口爆発と先進国の労働者不足等）
感染症の拡大（新型コロナウイルスのパンデミック）

世界の紛争や暴力、差別の問題

- ・約2800万人の子どもたちが紛争で故郷を奪われる（2015年）
- ・推定1億5200万人の子どもたちが働かされている（2017年）
- ・15歳未満で結婚した女性が世界に推定2億5000万人（2014年） など
ウクライナ侵攻とパレスチナ戦争

子どもの貧困と不平等

年間520万人の子どもが5歳前に死亡（6秒に1人）
極度の貧困状態下の7億1000万人のうち、子どもが3億5600万人
5900万人の小学校就学年齢の子どもたちが学校に通えていない
山林火災や干ばつが増え、動植物が絶滅したり生物多様性が失われたりしている

森林伐採と持続可能な生産・消費（パーム油）

パーム椰子から取れるパーム油は、食品、洗濯洗剤、医薬品などに幅広く利用されている

日本などの先進国はじめ世界各国に輸出

パーム椰子農園の急激な拡大に伴う熱帯雨林の伐採、生物多様性の喪失、土地の劣化、山林火災の多発

海洋プラスチックの生物への影響

絡まり（ゴーストフィッシング）、誤飲・誤食

分解されず、細かく碎ける → マイクロプラスチック、ナノプラスチック

有害物質の付着 生態系への影響

海の食物連鎖で蓄積される 魚介類を通じて人間も？

相対的貧困率の国際比較と貧困の連鎖

日本の貧困率は OECD の平均を上回り、G7 ではアメリカに次いで高い

学力や就職、経済力の格差につながる → 貧困の連鎖によって再生産されている

日本のジェンダーの格差

先進国では最低レベル（156 か国中 120 位） G7 の他国は改善傾向にあるのに

特に政治分野で低い

いじめと児童虐待

いじめの認知件数は前年度より約 13 万件増加（平成 30 年度）

児童虐待相談件数が年々増加 身体的虐待とともに心理的虐待が増加

◎SDGs の特徴とめざす世界

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」

誰も置き去りにしない

持続可能な開発の 3 つの側面

経済成長、社会的包摂、環境保護という 3 つが調和しないと持続可能な社会にはならない

1992 年 地球サミット → MDGs → SDGs

MDGs（8 ゴール 21 ターゲット）から SDGs（17 ゴール 169 ターゲット）へ

途上国に向けた目標

すべての国の目標

SDGs はすべての国の目標であり、包括的で互いに関連している

ウェディングケーキモデル



MDGs から SDGs へ

①MDGs の深掘り（例：極度の貧困 → あらゆる貧困）1・2・3・4・5・6

②先進国にも関わりの深い新たな課題 7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

SDGs がめざす世界像

- ①すべての人生が栄える、貧困・飢餓・病気および欠乏から自由な世界
- ②人権、人の尊厳、法の支配、正義、平等および差別のないことに対して普遍的な尊重がなされる世界
- ③すべての国が持続的で、包摂的で、持続可能な経済成長と働きがいのある人間らしい仕事を享受できる世界

→ 「誰一人取り残さない」世界の実現

普遍的：目標は普遍的なものであり、すべての国とすべての人による行動を必要とする

すべてが関連しているので、1対1対応、個別対応ではいけない 総合的に取り組むことが必要
幅広く野心的であり、「誰も置き去りにしてはならない」ことを強調

◎ESD とは何か？

第2期 ESD 国内実施計画（2021年5月策定）

「…新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のことである。」

SDGs 達成に資する ESD の教育的価値

- ①ESD に取り組むことで「教育の質が向上する」 E を重視する視点
- ②「教育が持続可能な社会づくりに貢献する」 SD を強調する視点

この両輪の連結こそが ESD を特徴づけるものであり、価値を示すもの

SDGs と教育

目標4 「質の高い教育をみんなに」 ESD for 2030

教育はすべての SDGs の実現のカギである

SDGs に向けた教育を推進することが、人材育成を通じて SDGs 達成につながる

そう考えると、ESD は目標4にとどまるものではない

気候変動からの SDGs への多角的アプローチ



ESD ユネスコ世界会議での日本からの発信（ベルリン会議）

ESD の世界では日本はトップランナー

- ・ ESD をナショナル・カリキュラム（学習指導要領）に組み入れ、公教育で組織的・計画的に推進
- ・ 政府に「ESD 関係省庁連絡会議」や「ESD 円卓会議」を設置し、マルチステークホルダーとの連携のもとオールジャパンで ESD を推進
- ・ 各地域における課題解決と地域創生を目指して、地域に根差し、地域の文脈に即した ESD を推進

ベルリン宣言のポイント

- ①気候変動を基軸とした相互関連的な ESD
- ②教育の各段階・各分野における包括的な ESD
- ③科学知識や新技術へのアクセスした ESD
- ④緊急的かつ喫緊の課題に対応した ESD
- ⑤ESD 推進の体制づくりとネットワーク構築

17 の SDGs 達成における教育の役割を重視

- ・ ESD は教育現場における 17 の目標に対する意識を高める（認知的学習の次元）
- ・ ESD は SDGs についての批判的かつ文脈に沿った理解を促す（社会的・情緒的学習の次元）
- ・ ESD は SDGs 達成へ向けた行動を結集する（行動学習の次元）

第2回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2025年6月3日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：43名

◇内容：「ESDの学習理論 ～なぜ、脳科学なのか～」 奈良教育大学特任教授 中澤静男
「ESDの授業づくり ～単元構想案の作成～」 奈良教育大学特任准教授 大西浩明

◎なぜ、脳科学なのか

ESDは、学習者の社会づくりに関する価値観と行動の変革を促す教育

→ どうすれば人は行動を変革するのかを研究する必要がある

行動の変革を促す方法

- (1) 厳罰主義
- (2) ナッジ 意識せずに行動の変革を促す
- (3) ESD 意識して（価値観を変革し）行動を変革できるように促す

ナッジ・・・強制することなく、その人がよい行動をするようにそっと促す

- ①ナッジ・デフォルト（そのようにしてほしいことを初期設定にしておく）
- ②ナッジ・フィードバック（ある行動をすると、ある特定の反応が返ってくる仕組みをつくる）
- ③ナッジ・インセンティブ（ある行動をすると得する仕組みをつくる）
- ④ナッジ・選択肢の構造化（選択肢をわかりやすくすることで、ある行動や特定の選択肢に導く仕組みをつくる）

(1) は論外だが、(2) もあぶないと感じている

80年程前の日本では軍国主義がデフォルトになっていて、国ために命を投げ出すことがよいこととされていた

行動の変革を促すのは、理性か感性か？

直感的意思決定論：人は考えて行動するよりも、感覚に従って瞬時に判断して行動する

「行動の変革は、何が正しいかという単なる感覚から生じることが最も多い。」

(ESD for 2030 ロードマップ)

ソマティック・マーカー装置：生き残る確率を高めるために、すべての生き物がもっている脳内信号発生装置

先天的なソマティック・マーカー装置（すべての動物が持つ）

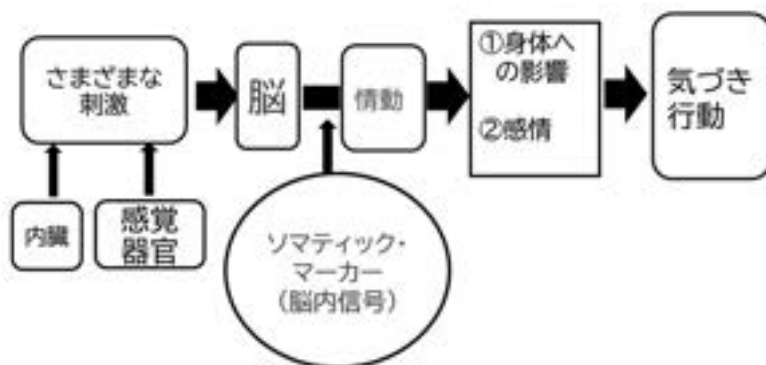
敵から襲われることを防ぐ ネガティブ信号

水や食べ物のありかに気づく ポジティブ信号

後天的なソマティック・マーカー装置（人だけが持つ）

生き残るために地域の社会文化に即したふるまいや

行動を促すソマティック・マーカー装置



私たち大人は、経済性に関するソマティック・マーカー装置は十分持っている。決して悪いことではないが、持続可能な社会の創り手に必要なソマティック・マーカー装置を育てるには、ESDあるいは意図的活動が必須。

大人は、損得や経済に関するソマティック・マーカー装置は持っている。それは、これまでの教育（国の経済成長や技術の発展に貢献できる人材の育成）の成果ともいえるが、何もしなければ持続可能な社会の創り手に求められるソマティック・マーカー装置は育たない。

→ 意図的にESDの授業実践や活動を展開していく必要がある

知識の網の目をつくる（フード・マイレージ、絶滅危惧種、身近なお店の価値、地産地消のよさ等）
網の目を変なものをつなげて信号を発してくれる（ソマティック・マーカー）。

網の目が粗いとスルーすることが多くなる

繰り返し経験すること、繰り返し学習することで、網の目を細かくすることができる。

同じ絵を見ても、気づける人と気づけない人がいる

一度気づくと次からは一目で分かる

→ 脳は外界からの情報と記憶として蓄えられている情報から情報処理を行う。そのため、次回からはすぐに気づくことができる

体験的な学習活動の価値

- ・さまざまな感覚装置が育てられる
- ・さまざまな感覚が記憶の痕跡として脳内に

ヒトの脳の特徴から、「知覚」とは視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚などを統合して理解する



意識化を促し、「気づく力」を高める方策

- ①仲間と共に学ぶ（友達からの刺激）
- ②記憶の蓄積を図る。（繰り返し学ぶ、繰り返し経験する、多様な場面で多様な方法で学ぶ）
つまり、多様なESDが持続可能性に関する「気づく力」を高める。
- ③感性を伴って学ぶ。
我々は視覚だけでなく、聴覚・嗅覚・触覚・味覚などの感覚を統合して「理解」している。これが現地で五感を通しての学びや体験的な学習、実験のよさ
- ④人から学ぶ（あこがれ、共感力、模倣化）

◎単元構想案の作成

単元構想図：具体的な授業をイメージして、児童・生徒が発するであろう言葉や、もつであろう思いなどをマップ化して、学習の流れを可視化したもの

あくまで授業の主体は子ども

子どもの反応（発言、疑問、思い、どう動くか・・・）をイメージしないと、具体的にはならない

小学校4年 総合的な学習の時間「わたしたちは地域に守られている - 校区のお地蔵さんを調べよう -」



校区には、本当にたくさんのお地蔵さんがあると思うんです。こんなお地蔵さんが、みんなの家の近くにないかな？

これは学校から出たすぐのところにあるお地蔵さんだ。毎日見ているから分かる。

ある、ある。家のすぐ前のところにもあるよ。

夏休みの地蔵盆には毎年行って、お菓子をもらったりするから楽しいよ。

お地蔵さんって、いったい何かな？

「地蔵菩薩」として、いろいろな考え方があがる。幼い子どもが親より先に死ぬと、親を悲しませ親孝行も十分にしていないことから三途の川を渡れず、河原で鬼のいじめにあうところに、地蔵菩薩が足を運んで鬼から守ってやり成仏への道を開いていく。→ お地蔵さんは子どもを守ってくれる → お地蔵さんはみんなを守ってくれる

校区には、どこに、どんなお地蔵さんが、いくつあるのだろう？

校区のお地蔵さんをさがそう



校区を4つのエリアに分け、グループごとに調べるどこに？ いくつ？ どんな？ → 校区地図に記録していこう

お寺みたいに鳴らす鐘があった。そのひもに「町内安全」「家内安全」とか書いてあった。

前かけは赤が多いけど、白いものもある。何か意味があるのかな？

きれいな花が供えてあるなあ。替えたばかりみたいだ。

お茶やお菓子が供えてあるけど、いつもだれかが置いているのかな？

お地蔵さんのお世話は、だれが何のためにしているのだろう？

福岡さんお話

…わたしたちがお地蔵さんのお世話をするのは、「地域のみんながいつも幸せでありますように」と願っているからです。ずっと昔から地域の誰かもそうやってきたはずで、これを途切れさせてはいけないと思っています。「地域のたから」であるみなさんのような子どもこそ、お地蔵さんがいつも守ってくれていると思います。…

お地蔵さんは地域を守ってくれているんだ。わたしたちのことも守ってくれている。

地域の人たちは、わたしたちのことを大切に思ってくれているんだ。

知らないところで地域の人たちはいろんなことをしてくれているんだ。

わたしたちは地域の人から大切に思われ、守られているんだな。

地域の人たちの思いに応えるために何かできないかな。

わたしたちにも何かできることはないだろうか？

来年は地蔵盆に行って何かお手伝いできることはしたいな。

地域の清掃活動とかにも参加して、地域の人たちともっとなかよくなりたいたいな。

自分もお地蔵さんの前を通るときは、立ち止まって地域の人たちに感謝の気持ちで手を合わせよう。

問いの質を高める！ 大きな3つの問いから考える！ 問いの質がよければ「いい授業」

※ESDの視点（見方・考え方）

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
A 多様性	色々なものがある	多様性に乏しい、画一的
B 相互性	つながっている、循環している	孤立している・循環していない
C 有限性	「もったいない」の文化がある 物を大切に長く使う文化がある	使い捨てがあたりまえになっている 大量生産・大量消費の文化がある
D 公平性	世代内と世代間を考えている	不公平、今さえ、自分さえよければいい
E 連携性	分け隔てなく、なかまづくり	なかまはずれをしている、排除している
F 責任性	協力がある・やりとげている	責任転嫁、やりっ放し、言いつ放し

※ESDで育てたい資質・能力

- ・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）
- ・未来像を予測して計画を立てる力
- ・多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
- ・コミュニケーションを行う力
- ・他者と協力する態度
- ・つながりを尊重する態度
- ・進んで参加する態度

これらは後付けでいい！
学習指導要領の理念を正しく理解し、「主体的・対話的で深い学び」になっていれば、また子どもも教師もワクワクするような授業になっていれば、ほぼESDの学びになっているはず。

※ESDで育てたい価値観

- ・世代間の公正
- ・世代内の公正
- ・自然環境、生態系の保全を重視する。（生物多様性の重視）
- ・人権・文化を尊重する。（文化多様性の尊重）
- ・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

※関連するSDGs

- | | |
|--------------|----------------------|
| 目標 1：貧困の撲滅 | 目標 12：生産と消費 |
| 目標 2：飢餓の解消 | 目標 13：気候変動 |
| 目標 3：健康・福祉 | 目標 14：海洋資源 |
| 目標 4：教育 | 目標 15：陸上資源 |
| 目標 5：ジェンダー平等 | 目標 16：平和・公正 |
| 目標 6：水と衛生 | 目標 17：グローバル・パートナーシップ |
| 目標 7：エネルギー | |
| 目標 8：経済成長と雇用 | |
| 目標 9：インフラ | |
| 目標 10：不平等解消 | |
| 目標 11：まちづくり | |

- ◇日時：2025年7月1日（火）19時～21時
- ◇方法：Zoomによるオンライン形式
- ◇参加者：40名

◇内容：実践事例のESD授業分析 生駒市立俵口小学校 西田有壱先生
 「誰かのために行動する」～地産地消プロジェクト～（小学校5年生：社会・総合）

【事例紹介】

学年目標「誰かのために行動する 一歩前に踏み出そう」を設定した
 縦割り活動やオリエンテーリング集会の運営など、「誰かのための」体験をした上で、2学期以降は
 地域の中で「誰かのための」行動を起こすことを目指した

「生駒 地産地消プロジェクト」 社会科の学習を出発点として、総合的な学習の時間を中心に
 （社会科）食料生産にかかわる人たちは、食料生産に関わる問題解決のためにどんな取り組みを？



（総合）生駒市で耕作放棄地の問題を自分事として考えられるように
 生駒市遊休地活用事業・・・現在市内で160ヶ所の耕作放棄地を無償で貸し出す事業
 学級の児童の保護者が参加していた・・・黒田さん（「究極の地産地消」を行う人）



地産地消のよさに気付く
 しかし、頭での理解でしかない



黒田さんとの出会い

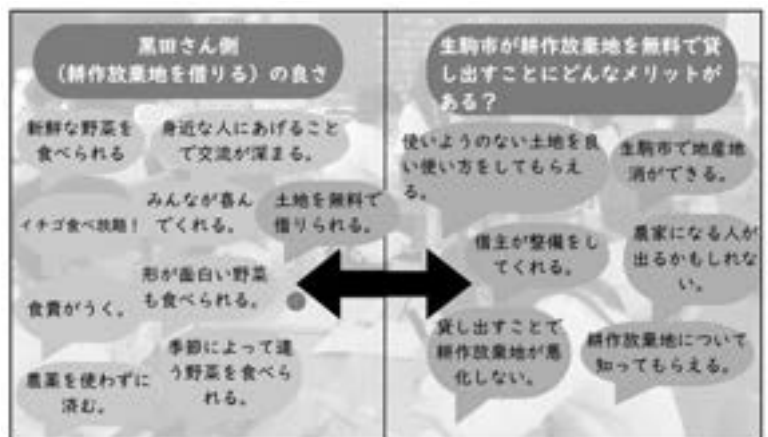
- ・生駒市の農業体験がきっかけ
- ・苦労は多いけど採れたてはおいしい
- ・草刈りに多くの時間を費やす
- ・無償で遊休地を借りることができる

（話し合い）

遊休地を借りて耕作することのメリット
 無量で貸し出す生駒市のメリット

生駒市農林課の方にインタビュー

- ・耕作放棄地ではアライグマなどの外来種が見つかったりする
- ・農業にチャレンジしてみようかという人が増えるとうれしい



「地産地消を広げるために、どんな取り組みをすればいいだろう？」

学校に畑をつくる ポスターをつくる 「俵口地産地消の日」をつくる イベントで野菜を売る

→ 校内の耕作放棄地を畑にして野菜を育てる 「俵口ファーム」

休み時間を返上して畑を耕し、冬野菜を植え付け

しかし、土壌がやせていて成長しない 動物に苗を食べられる

イベントでの販売も計画していたが断念

ここまでの成果として、

地産地消を自分事として地球環境や地域の視点から捉え、日常の買い物に生かそうとする姿勢

その一方で、

「地産地消プロジェクト」として取り組んだ「俵口ファーム」の活動の目的が釈然としていない

「誰かのために」という視点での活動にはなっていない

→ 耕作放棄地を借りる人、貸し出す人に加え、生産者の視点で考えたり話を聞いたりする必要

「俵口ファーム」をつくることがどんなことにつながるのか、立ち止まって考える必要

どうすれば黒田さんや市役所の人のように、周りのための活動になるのか考える必要

このままでは終われない、子どもの内面から「やりたい」と思える活動をさせたい

対馬の海ごみと向き合う生駒のプラスチック製造企業との出会い（すでに計画があった）

「誰かにために行動する」集大成として

対馬の海洋プラスチックを回収して約10%を再利用して製品を作っている

GTから・・・プラスチックメーカーとしての責任 「何とかしたい」自分たちの代では終わらない

→ 対馬の人のために行動していることがすごい

自分も誰かのために行動したい 100年後のごみをなくすためにごみ拾いをしたい

→ 通学路や校区内のごみ拾いを実践

「誰かのためにやるのは自分のためじゃないけど、自分のためにも関わっている気がした」

「誰かのためにやるって、カッコイイ」「知っているより、やったという方がいい」

「行動化」の難しさを感じ、模索した1年間だった

子どもの内面に訴えかける「ひと・もの・こと」を追求していきたい

【意見交流から】

○畑で失敗したというところで終わるのではなく、なぜ失敗したのかを農家の人に聞いてみたりしてもよかったのでは。失敗したからこそ学べることが多くあったように感じた。

○「誰かのために行動する」という学年目標がESDにつながっていていい。

○畑をやってみて子どもの変容は？

→ 冬野菜を一度失敗して、その後2月にもう一度植えて5月に少し収穫できた。その中で、農家の人の苦労や育てることの難しさは感じた。（そこがねらいだったわけではない）

ごみ拾いをやって、自分で行動することの気持ちよさや、行動することの価値に気付けた。

○単元構想図は教科を超えて作成してもいいものか？

→ むしろその方がより実践的で、ESDとしても価値のあるものになるのではないか。

- 「誰かのためにやったときが充実していた」という子どもの思いを、深く掘り下げてみると違った展開があったかも。
- 「誰かのためにやったことが自分のためになっている」と感じたというところが大事ではないか。
- 学年目標が明確にあるだけに、授業がブレていない。
- 「見えない誰かのために」行動することを目指している。それはプラスチック企業の方と出会うことが決まっていたから。相手が見えないと、子どもはなかなか行動できない。
- 行動化にたどり着くまでにどう展開するのか、難しいし奥が深いなあと感じた。

【ESD としての分析】 育てたい資質・能力、価値観にしぼって

(資質・能力)

- ・他者と協力する態度・・・「誰かのために行動する」のは一人ではなかなかできない
- ・進んで参加する態度・・・自分から「誰かのために行動する」
- ・未来像を予測して・・・このままでは私たちの「食べること」自体が危ない
- ・つながりを尊重する態度・・・いろんな人との出会い、自然環境と自分とのつながり
- ・システムズシンキング・・・耕作放棄地を通して地域の様々な課題に気付く

(価値観)

- ・幸福感・・・誰かのための行動は自分のための行動である
- ・世代間の公正・・・将来のためには耕作放棄地をそのままにしてはいけない
- ・生態系・・・耕作放棄地になっては生態系が大きく崩れる
- ・人権・文化の尊重・・・農業があるということはそこに文化があるということ

(実践者から)

構想段階では、システムズシンキング、世代間の公正を重要視していた。

実践を終えてみると、進んで参加する態度、幸福感を大切にするという価値観が圧倒的だったかも。

第4回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2025年7月22日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：36名

◇内容：単元構想案の相互検討①

【ルーム1】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1)谷口晋吾先生(草津市立老上中学校)

中学校1年 総合的な学習の時間 「安心してすごせる社会をつくるために～障害者理解を中心に～」

「あなたが考える『安心』とは？」

障害について学ぶ（体験を中心に） 今後自分もそうなるかもしれない

安心して暮らすために自分にできることを考える

ユニバーサルデザインを考えよう 自分にもできるユニバーサルデザインについて

- ・障害者理解については、小学校でもやっていると思うので、これまでの学びについて情報をもらっておくといいのでは。
- ・ユニバーサルデザインについて考えたのなら、学校内や学区内ではどうなのかを調べさせたい。
- ・障害があるだけでなく、「だれにとっても暮らしやすい」という視点がある方がいいと思う。
- ・「調べよう」「考えよう」ではなく、疑問形にすることで子どもの視点が焦点化されるのでは。
- ・ユニバーサルデザインを考えるなら、ジェンダーの問題も入ってくるのでは。

2)辻大吾先生(草津市立老上中学校) 中学校1年 総合的な学習の時間

「老上中学区防災プロジェクト ～みんなで創る安全・安心なまち OIKAMI～」

これまでに起こった震災について振り返る（阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震など）

滋賀県は災害による被害は少ないが、南海トラフ巨大地震は必ず来る

「老上学区には、どんな防災の課題があるのだろうか？」

防災マップのチェック、地域の人からの聞き取り、防災のプロから学ぶ・・・「地域を知る」

防災について学んでいる大学生との交流（ロープワーク、防災グッズ作りなど）

→ 学んだことを行動につなげる（オリジナルのハザードマップ作成、発信など）

- ・ため池が崩れたらハザードマップとは大きく違う被害が起こる可能性がある
- ・自分たちの生活や行動で改善しなければいけないことを出し合うことが行動化の柱になれば。
- ・ここでの行動化は発信も大事だが、まずは自分たちの課題に気付いて変えていくことではないか。
- ・「みんなで支え合う」ためにも、「まず自分の命を守る」という視点が前面に出てくる方がいい。

3)山本寛之先生(草津市教育委員会)

中学校1年 総合的な学習の時間 「つなげよう！ 3(スリー)Lのバトン」(松原中学校で実践)

琵琶湖のオーバルでの活動から・・・水が緑色 水草がたくさん においがきつい

琵琶湖の環境はよくなっている？ 悪くなっている？

水草を定期的に刈り取っている 堆肥として活用

「琵琶湖の水草を活用して、畑の野菜はどう変わるのか？」

琵琶湖環境保全財団の方から話を聞く

いつから水草を肥料活用しているのか　　どんないいことがあるのか

「松原ファーム」で春大根栽培に活用してみよう

水草堆肥を撒いたところと、撒いていないところの生育のちがいを観察

- ・琵琶湖の水がきれいになると水草は増える（ジレンマ）
- ・外来種の水草が多くなっていて、堆肥に向かない（昔は乾燥させなくてもよかった）
- ・3L（LIFE）とは、3つの命（琵琶湖の命・植物の命・私たちの命）
- ・化学肥料よりも自然のものでできるよさは実感できる。
- ・時間をかけてまで堆肥にしようとする価値について考えることができる。

【ルーム2】　ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1)竹田光陽先生(生駒市立生駒東小学校)

小学校5年 総合的な学習の時間「命の尊さを考え、人と生き物が生きる道を見つけよう」

1学期のうちに、琵琶湖博物館へ見学に行き、いろいろな生き物が連鎖的に関わり合って生きていること、いろいろな生き物守っていかなければならないことを学んだ。学校に目を向けると、夏の暑さの中で、学校の池が干上がってしまっていることを気にする児童が多くいる。ここに生き物を呼び戻すためにどうすればいいのかを考えていく。

害虫の駆除についてはせざるを得ないところもあるし外来種の問題もあり複雑。こちら（人間）の見えているところだけで判断することの難しさがある。授業をすすめる上では、共存を目指すために取り組んでおられる人がいると思うので、そういう人たちに出合わせるのもよいのではないか。また生駒市内の小学校同士で、取組を紹介してほしいという要望もあった。

2)西田有吉先生(生駒市立俵口小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間「飛行塔の96年」

生駒山上遊園地にある飛行塔を平和学習の題材にした学習。広島では、原爆ドームを風化させないために、現地の子どもたちが取り組んでいることもある。生駒市の飛行塔にも、そういう負の遺産としての性質も感じられる。平和の象徴のような遊園地の遊具に、戦争に利用されたものがあるというのは、とてもよい教材になりうる。当時のことを、当時の人の思いを知れるような人に会うこともよいのではないか。

3)中川純一先生(生駒市立俵口小学校)

小学校5年 総合的な学習の時間「いいな～このまち、いこま」

赤い羽根募金を題材として、誰かのために何かをすることの意味を考えさせようとする単元。赤いはね募金をした後、そのお金がどこに行くのかを探究していく過程で、どんな人が必要としているのか、どんな思いで募金をしているのか、などを考えていく。その上で、「良い町」とはどのようなものなのか考えていく。何も知らないまま募金をしていることも多いので、赤い羽根募金に限らず、募金という行為にはどのような願いや意味があるのかを考えさせることに意味があると思う。子どもたちが募金するとしても、自分で稼いだお金ではないので、どのように使われているのかなどを調べる活動を通して、募金活動の根っこの部分にどのような人の思いがあるのかを考えさせたい。

【ルーム3】 ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1)原田龍ノ助先生(奈良市立朱雀小学校)

小学校5年 総合的な学習の時間「3000年もつづいている日本のお米を守りたい」

これからの日本のお米はどうなるの？ 続くの？

働き手の問題、気候変動など、日本の主食が変わる？

実際に米づくりをしている方に聞く

消費者として日本の米について考えてほしい これからも日本のお米が続くために…

当たり前は当たり前ではないことに気付いてほしい

「日本のお米がこだわってきたところはどこだろう？」

・教材との出会いにインパクトがほしい

・日本のお米のよさは？ 米農家がなぜ4500円程度のお米を作るのか？

・日本の米のよさは？（パンやパスタでいいじゃんとならないように）

生産者の視点と消費者の視点

2)三笠日向先生(大阪市立歌島小学校) 道徳・特活「ももたろう」

平和をテーマに

「ももたろう」の原作には、鬼が悪いことをした様子は書かれていない

鬼に対する偏見、鬼へのイメージ、鬼は怖い（節分のイメージ）

村人からすればももたろうはヒーロー 英雄

何もしていない鬼からすれば…「ももたろうはどうするべきだった？」

→「ももたろう」を作り直す

道徳での「なかまづくり」がいいのでは。 国語？ 道徳？ 学活？

3)菊池甲餘子先生(姫路市立水上小学校)

自立活動「かけがえのないいのちと共に生きよう」

姫路でマタハラを…そのような人たちとどのように過ごしていくか

自分の出産、育児を含めて考えたこと

対象にしている4名の児童について

・Aさん…父からの虐待傾向 「水商売してやるわ」と発言してしまう児童

・Bさん…性的な接触、発言

・Cさん…不登校 体が大きい

・Dさん…知的な遅れ 生理が始まるかも

性教育として、助産師のような立場で授業「お母さんのおなかの中を知ろう」

自分はどのように生まれてきたのか？ 生まれたときの様子を調べる

「5年生で亡くなった子どものメッセージ」 命の大切さについて

養護教諭との連携 自身の等身大の絵を描く

命を大切に感性が大事 実際に性的な言動が変わった児童もいた

保護者の思いについて、母の気持ちを3場面（おなかの中、生まれたとき、現在）で。

【ルーム4】 ファシリテーター：島俊彦（福岡市立七隈小学校）

1) 村上雄太先生(奈良市立平城小学校)

小学校第4年 総合的な学習の時間「広めよう！地域の文化・日本の文化」

(1学期：実践済み)

- ・文化勲章を受賞した日本画家、上村淳之（昨年逝去した地域住民）が平城小学校に寄贈した絵から学習が始まる。
- ・松伯美術館を訪れ、上村淳之の絵に対する子どもの興味が高まっている。
- ・日本画や上村淳之について調べたことを、Canvaを使ってスライドでまとめた。

(2学期)

- ・日本画以外の文化として、奈良墨を取り上げる。(Gtを招いて、体験活動を行いたい)
- ・学生時代に日本画を専攻した先生が学年団にいたので、奈良墨を使って日本画を書く活動も取り入れたい。

(3学期)

- ・平城万博を開き、学んだこと（地域や日本の文化）を保護者や地域住民に発信したい。

(悩み①体験活動とESDの関係性)

- ・教材と出会わせたり没頭させたりする上で体験活動は効果的。しかし、求める子どもの具体的な姿や学習のねらいが明確でなければ、活動あって学び無しとなる。

(学習の流れ)

- ・ゴール像が明らかになれば、自ずと学習の流れが定まってくる。児童の実態と、児童の思考の流れを教師が想定できれば、学習計画がより具体的になるはず。

2) 佐藤亨樹先生(山形市立大曾根小学校) 小学校5年 社会科「米づくり」

(みつめる)

- ・備蓄米を取り扱う（ニュースなどから入る）。「なぜ備蓄米が必要？」

(しらべる)

- ・備蓄米について調べる（備蓄米って何？なぜ、備蓄米？）
- ・Gt：田んぼの先生から、米づくりの課題について教えてもらう。
- ・総合で農業の学習（ミニ田んぼづくり）を経験している。

(ふかめる)

- ・Gt：菅野さん（渋谷でトラクターデモを行った、山形の米農家さん）
- ・備蓄米の意義について話し合う。「備蓄米があれば、これからの自分たちの食糧は安心？」

(ひろげる)

- ・「自分たちの食を守るために、私たちがしなければならないことは？」
- ・Gt：東北農政局の職員。

(学習の流れ)

- ・ねらいは消費者としての変容（エシカル消費）。社会科の学習だけでは行動化が難しいので、行動化にかける時間は総合を使って捻出する。

第5回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2025年8月26日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者 44名

◇内容：単元構想案の相互検討②

【ルーム1】 ファシリテーター：阪本さゆり（奈良保育学院）、長谷川かおり（奈良教育大学）

1)木戸香里先生(滋賀県草津市立老上こども園) 5歳児「ポップコーンパーティーをしよう！」

昨年度から栽培したいものをグループで決め、当番で水やりや収穫をするなどしている
栽培の土は、廃棄食材で作った堆肥を給食センターからもらい再生土壌として作っている
ポップコーンの原料となるトウモロコシを自分たちの園の畑で育てるという経験から、食べ物と自然との繋がりをより実感している
ポップコーン屋さんになって、4歳児にはお客さんになってもらう

話し合いから

トウモロコシの実がポップコーンに形を変えるところに注目させたい。科学の目の基礎になる。
→ ホットプレートに透明の蓋だと、安全で中も様子も見られる。
まずは5歳児が、自分たちが育てたトウモロコシを味わう喜びを感じることが大事ではないか。
→ 活動はいろいろと広がるだろうが、ある程度重点を明確にする必要があると思う。
あまり最初からかっちりした流れを組まずに、子どもの発想や思いを大事にしたものにしたい。

2)中川珠紀先生(滋賀県草津市立玉川こども園)

5歳児「萩染めで『世界で一つだけのTシャツづくり』をしよう

玉川学区は古くから「萩の玉川」と言われるほど、萩を題材にした歌が詠まれてきた
今も園庭や通学路など、子どもの身近なところに植えられている 色水づくりの経験
Tシャツづくり・・・保護者とともにつくった萩染めのシャツを運動会や発表会で着ている（4年目）
地域の祭り「萩まつり」の実行委員の方にもTシャツを贈る
間接的に祭りに参加すること、地域に貢献することになる

話し合いから

地域の教材を使ったり、地域の方との関わりがあったりするのが素敵だと思う。
卒園生がこの経験を大事に持っているようで、萩のこともずっと興味を持ってきている。
幼児ではなかなか味わえない「感謝されることの喜び」を感じられると思う。
社会に参画できる経験

【ルーム2】 ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1)吉田宏先生(奈良県立磯城野高等学校)

高校1年 生物基礎「生態系とその成り立ち(土壌)」

単元展開の概要

単元前の生徒の考え 「グランドの土より畑の土の方がいい土だ」

発問 植物がたくさん生えているところと生えていないところでは何がどう違うのか比較する

A: 植物がたくさん生えているところ : ①果樹園の土 ②残渣捨て場の土 ③造園見本園の土

B: 植物が生えていないところ : ④栽培中の畑の土 ⑤耕起直後の畑の土 ⑥グラウンドの土

予想 Aの方がいい土

比較方法

○腐植の量 目視で比較

○土壌間隙 コーヒー缶での簡易実験

○土壌生物 ハンドソーティング法

結果 いずれの観察・実験においても②が一番良かった、次が①、次が③

④・⑤・⑥にはミミズがいなかった

新たな疑問 「耕すことは、農業にとって本当に必要なことなのか？」

自然農法や不耕起栽培の学びへ ミミズ糞、カブトムシ糞を用いた土壌改良剤の開発へ・社会実装

話し合いから

- ・非常に専門的な内容だと思った。
- ・バブル型課題解決モデル 研究テーマがどんどん生まれていく
1学期に五感を使った体験的な学習を十分に行ったからこそ、広がりや深まりが出てくる
1学期なら「ホームセンターの土」などがよい土という意見が出ていただろう
- ・研究成果の発信 小中学校では花壇の整備で困っている。ぜひ伝えてほしい。
- ・生徒自身が自己の変容を実感できるよう、記録を詳細に作成させている。

2)永原智子先生(天理市立福住小中学校)

小学校第3学年 総合的な学習の時間「氷室の歴史にせまる！」

復元氷室・氷室跡を見に行こう 校区にある氷室神社と何か関係があるのか？

中心発問：なぜ、復元氷室をつくったのだろう？

氷室・・・冬に池の氷を切り出して、山に掘った穴に埋め、夏まで氷を貯蔵した場所

「なぜ地域の人たちは復元氷室を建て、氷まつりを始めたのだろう？」

辻沢さんへのインタビュー

- ・町おこしの一環として始めた。
- ・25年前は2000キロも氷が残っていた。今は少なくなっている。温暖化の影響かもしれない。
「地域の人たちの思いをつないでいくために、私たちにどんなことができるだろう？」

話し合いから

- ・3年生で実践するか、6年生で実践するか。
→ 6年生で歴史学習として取り組むと知識・理解が中心になる。行動変容を促すことを目的として3年生で取り組む方がよいだろう。
- ・地域アイデンティティを育てる学びになる。氷まつりに参画することで、自分事化していく。
- ・残った氷の量と気温の関係を記録より確認する。
- ・3年生はこおりのつくりかたも知らないだろう。
- ・当時の池の水の美しさと現状の比較から、森林環境の役割への関心を高める。

3) 釜付祐也先生(城西大学附属城西高等学校)

高校2年 総合的な探求の時間「食べるものを見直そう～昆虫食の偏見をなくそう～」

「我々は日ごろ何を食べて、どこから調達しているんだろう？」

生姜焼き→豚肉の自給率は49% ゴーヤチャンプルー→大豆は80%を輸入

→ フードマイレージ：輸送距離×輸送量 (T) 輸入食料はフードマイレージが大きくなる
外来種を運ぶ要因にもなっている
食材コストも高い

食文化の継承と環境保全のバランスが重要 コストが低くて生産性の効率の良い昆虫食に着目

「実際に食に携わっている人は、何を考えているのだろうか？」

- ・畜産農業：食から幸せを感じてほしい。昆虫食は環境保全的にはすばらしいが…
- ・商社：昆虫食が拡大すると輸出入量が減少する。クリーンエネルギーを活用した輸送方法を考えていきたい。
- ・昆虫食カフェ：無理を強いるのはよくない。おいしいという食体験を味わってほしい。

「昆虫食を広めるには、どのように偏見をなくせるだろうか？」

幼少期からの食体験 大人へのアプローチで、子どもの食体験のハードルを低く

昆虫食体験会を継続的に開きたい「日常で食するようになること」

話し合いから

- ・食文化の維持（現状では維持できない）と環境保全のバランスについて考える機会に
- ・大人の固定観念を崩す必要がある 結構ハードルが高い
- ・甲殻系アレルギー、残留農薬に留意する必要がある
- ・カンボジアで初めて昆虫食を体験したことで、ステレオタイプが打破できた。食文化を見つめなおすきっかけになった。 → まず、体験することが重要
- ・若者の方が考え方が柔軟。若者向けにSNSで発信すると効果があるかも。

【ルーム3】 ファシリテーター：新宮済（奈良女子高等学校）

1) 斎藤夢月先生(山形市立第十中学校)

中学校第2学年 総合的な学習の時間「町づくり 福祉」

生徒会活動を通じてESDとして行動化させる探究をつくりたい

山形十中は、ショッピングモールの開発などが影響して子育て世代が急増している地域である

新たに福祉センターの開発が予定されていて、地域住民の意見を反映してセンターをつくっていく計画
夏休みに取材にいったところ、中学生と連携して、民意を集めるお手伝いをしたり、意見交流したりできそうである

生徒会活動やクラスの探究として、地域に貢献していく計画

話し合いから

- ・学習展開についてSDGsは後付けでよい。地域の福祉施設に関われる話は導入で紹介するとインパクトがある。
- ・地域課題に対して行動化を起こした生徒に、価値づけていく際に活用した方がよい。
- ・福祉センターの開発に関われるのは、面白い。先生の教材研究のおかげです。
- ・住民の意見の聞き取りは、クラスごとにインタビューをした地域の声を模造紙にまとめることで、盛り上がる

- ・7 クラスあることを利用して、たくさんの住民の意見を集めてまとめることができれば、住民によりそった施設になる
- ・問いを連続するイメージで、ワクワクするような展開にしていきましょう

2)辻本貴大先生(滋賀県草津市立高穂中学校) 中学校第2学年 社会科(地理)「EU」

草津のESDは琵琶湖や山や川だけじゃなくても実践したい

EUの学習を進めていくなかで、イギリスが欧州連合(EU)を脱退した「ブレグジット」がESDの視点とつなげて考えていく

メリット・デメリットがありながらも、選択した。これを認めていく社会をつくることで多様性を学ぶ話し合いから

- ・若者の貧困問題についてイギリスとEUの考え方を比較できる。
- ・民族の問題も調べてみる必要がある。
- ・国民投票70%で決めたことは、日本の社会参加の低さと比較して学べる。
- ・国民だけの損得で選んでいるが、その意思決定に「地球市民」としての視点で考えてみる展開がESDにつながるのでは。
- ・新聞記事などを読むと、これだけ若者が真剣に国の進む道について考えている。
私たちは、どうなのか？ 滋賀の条例など深く考えたことがあるか？
何ができるか考えてみることで地域の視点からESDにつなげていこう。

【ルーム4】 ファシリテーター：中澤哲也(大和郡山市立片桐西小学校)

1)長江昂大先生(大和郡山市立片桐西小学校)

小学校第2学年 生活科「とびだせ！町のたんけんたい！」

- ・自己有用感を高めたい。社会のマナーやルールを守れる心を育みたい。
- ・町たんけんて地域の「いいな」を見つけに行く
いいな→楽しい場所・ワクワクする場所・親切にしてくれる人の三つの視点
- ・深める「問い」を悩んでいる。

話し合いから

- 地域の中で先生なりのいいと感じるところはあるか。→モツを食べるイベントなどがある。
- 「いいところ」という表現は難しい。当たり前を感じているのではないか。
→「いいな」と思えるような仕掛けはないか。
- 子どもの「いいな」と、大人の「いいな」のズレがあるのではないか。
- 地域の人から直にインタビューをする方がいい。
- 人につなげるためにどうすればいいのか。低学年はモノに目が行きがち。
→あれている公園との比較
- 人につなげるために、生き物にまずは視点を向けるようにした。
- 公園や、川の生き物など、自然が維持していくためにはどうすればいいかという視点で「人」に焦点化していく。
- 子どもがよく行く店など取り入れてもいいのでは。
- 町たんけんて案内してもらおう地区の人に地区のことを紹介してもらおう機会を持つ。

2)津田歩先生(熊本県菊池市立花房小学校) 小学校第1学年 生活科「じぶんで できるよ」

- ・ひろげる発問が悩んでいる幸福感が味わえているかどうか？

話し合いから

- 保護者の方の返し方が重要になってくる実践。保護者との関わりでは、どんなつながりがあるのか。
→家庭に学習内容を周知するようにしている。
→保護者の方から児童にリアクションをしてくれる
- 保護者の方へのインタビューも取り入れてみては？お家の人の思いを聞いてみるとお家の人との関わりを増えるのでは。
- 自分のことでも家族のことでもオッケー。
- 取り組んだ後の振り返りが大切。自分が役にたったという
- さらにどんなことをやってみたいかという視点をもたせる。
- 家庭で対話が少なくなっている。親子で話をするきっかけなくてもいいのではないかな。
- 「ありがとう」は伝える以外に、行動で示すこともできるのではないかな。
- 参観日にお家の人にインタビューするのはどうだろうか。

【ルーム5】 ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1) 中村文子先生(奈良市立西大寺北小学校)

小学校第4学年 音楽科「春日若宮おんまつりの舞の魅力を探ろう」

各都道府県各地に伝わる舞や踊りについて調べる活動 盆踊りや神楽など

鬼滅の刃ブームもあり、児童の興味・関心が高い

南都楽所の方たちによる雅楽・舞楽の鑑賞 「将来の聞き手が育ってほしい」(南都楽所)

自分たちにできることは？・・・踊ってみる、おん祭に行く、カンボジアの学校との交流 など

話し合いから

- ・上北山村でも神楽はあるが、後継者の問題がいちばん。
- ・音楽専科として担任との連携がポイント。担任の協力は不可欠。
- ・南都楽所の方の思いと子どもをつなげる授業展開がいい。
- ・ならまちセンターで「子どもおんまつり」というイベントがある。そこで発表できれば。

2)大東実穂先生(奈良市立西大寺北小学校) 小学校第6学年 家庭科「すずしい住まい方で快適に」

「猛暑を乗り切るにはどうすればいいだろう？」

家族や祖父母にインタビュー 日本の伝統建築にも触れたい

打ち水、グリーンカーテン、すだれやよしず、風鈴、うちわ など

葦や荻で室外機カバーが作れないだろうか

環境の視点に気付き、自分たちの意識次第で地球環境に貢献できるということに気付かせたい

話し合いから

- ・平城宮跡で処分される葦や荻を活用するというアイデアがおもしろい。
- ・調理実習でラムネのような清涼感のあるものをつくってみるのもいいのでは。

3)高山翔伍先生(王寺町立王寺北義務教育学校)

小学校第6学年 総合的な学習の時間「平和の思いを未来へ～戦後80年の平和学習」

戦争はダメだと分かっている、いまいち実感が伴っていない

身近な地域の戦争の傷跡や被害について調べる 達磨寺の戦没者慰霊碑など

王寺駅にも空襲があった 語り部の方から話は聞ける

平和を維持していくために「自分たちにできることは？」

話し合いから

- ・奈良の空襲を調べるなら過去の新聞を使うとよい。
- ・語り部さんから当時の様子を伝えてもらってからの活動が難しい。
- ・「暴力の三形態」を理解しながら授業を行うと、行動化につながりやすいかもしれない。

【ルーム6】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1)地海拓未先生(滋賀県草津市立玉川中学校) 中学校第2学年 理科「化学変化と原子・分子」

質量保存の法則について学ぶ学習について提案があった。授業者からは、現時点では ESD としての位置づけができていないということが課題となっていることが伝えられた。そのため、参加者からは ESD の見方・考え方を踏まえて、どのように ESD としての実践にしていくかという意見が多く出された。理科で学ぶ内容は、実際にどのようなことが起こっているのか、どうすれば解決できるのかということを知ることができる教科でもある。そのため、例えば気候変動教育の一環として、CO₂の移動に着目し、カーボンニュートラルの仕組みや、二酸化炭素を回収・利用する仕組みなどを学ぶことにつながれば、ESDとして地球規模の課題に迫っていくことができるのではないかという意見が出された。

2) 田中菜々子先生(城西大学附属城西高等学校)

高校2年 理科(化学)「きれいな水を守る ～水質調査から考える持続可能な環境づくり～」

身の回りの水の水質検査を通して、また高校化学の学習で扱う COD の調査や過マンガン酸滴定なども生かして、身の回りの水環境に課題を見出す学習。住宅地の近くの水資源は汚濁が進んでいることや、どのように自分の家庭に水が届いているのか調べていくことで、自分たちが安心して飲める水が生産されていることに気づくことができる。浄水の仕組みは、小学校でも学習するので、その学習をうまく使って単元を構成していくことが求められる。また、高校の化学で扱う知識（今回の場合は COD に関する知識）がどのように持続可能な社会づくりにつながるのかを考えていくとより ESD らしくなると思われる。例えば、COD の度合いと住むことができる生き物の様子や、水不足に苦しむ国や地域でどのようにここで学ぶ化学技術が役立つかなどを学んでいくこともよいのかもしれないという意見が出された。

【ルーム7】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1)吉岡真志先生(奈良学園小学校) 小学校第6学年 理科「電気の利用」

教科書では、電気を「つくる」「ためる」「変換する」がバラバラになっているが、これを統合したい

- 手回し発電機、光電池と豆電球と発光ダイオードをとりあえず子どもに渡して、自由にさせる
- つなぐもので相性が違う 数値がないと分からない ためるものが必要

電圧計、電気二重層コンデンサを出す

教科書では LED の方が省エネとなっているが、本当にそうなのか？

実験結果から省エネについて考える プログラミングはここでは扱わない

話し合いから

- ・豆電球は発熱している分、雪国では信号はLEDではない。
- ・「ひろげる」ところの工夫が必要。ただ省エネについて考えるだけではもったいない。
→ 電気を生み出す仕組みが分かったところで、子どもが自由に電気を生み出す方法を考えては。そういう研究が世界中で行われている。でも実用化、普及ができていないのはなぜ？
だから、今は「省エネしないと」という実感が出てくるのでは。

2)堀口大地先生(奈良学園小学校)

小学校第3学年 「めざせ エコな生活！ 地球の危機を救うために！」

琵琶湖宿泊学習をメインとした展開

事前学習で琵琶湖や琵琶湖の生き物などについて調べる→ヨシ帯の観察、琵琶湖博物館での聞き取り
琵琶湖は自分たちとの地域とつながっていることを知る 琵琶湖の問題は自分たちの問題でもある！

地球全体の問題でもある！ 水の汚れ、ごみ問題、外来種、プラスチックなどの問題へ

話し合いから

- ・教師が引っ張っている感が強く、子ども主体の活動になっていないのでは。
- ・せっかく琵琶湖に行くのだから、水に絞って環境を考える方が3年生としてはいいと思う。
- ・奈良との関係に気付くのは、「琵琶湖の水とめたるか！」という滋賀の人の言葉を使うのがいい。
- ・人に焦点をあててもいいのでは。4年生の美山での学習につながる。

3)栗谷正樹先生 小学校第3学年 総合的な学習の時間「クビアカツヤカミキリを扱った学習」

7月末、文科省からクビアカツヤカミキリを発見したら直ちに駆除するよう通達があった

クビアカツヤカミキリ・・・幼虫が桜や梅、桃の木の幹を食べて枯らす 輸入木材に紛れて侵入、繁殖
堺市がセレッソ大阪と連携して、駆除イベントを行っている 和歌山でも被害の発見に懸賞金
校区で「クビアカツヤカミキリ『夏の陣』』という駆除作戦をする

「クビアカツヤカミキリは悪者なのだろうか？」 国語科「カミツキガメは悪者か」との関連

話し合いから

- ・虫が苦手な子もいるだろうし、「捕まえて殺す」ということ自体がどうなのだろうか。
- ・理屈は分かって、子ども自らが駆除することに抵抗がある。
- ・メンタル的なケアの部分では繊細な部分もあって、少し慎重に扱うべきかもしれない。
- ・日本各地で熊が出没して駆除されるというのと、これは同等なのだろうか。そんな共通性や相違点を3年生なりに考える活動が大事なのではないか。

◇日時：2025年9月16日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者 48名

◇内容：単元構想案の相互検討③

【ルーム1】 ファシリテーター：長谷川かおり（奈良教育大学）

1)伊藤華子先生(滋賀県草津市玉川こども園) 5歳児「カレーパーティーをしよう！」

- ・園庭や畑で様々な野菜を育て、世話をしたり収穫を楽しみにしたりする姿があり、その野菜を使ってカレーパーティーをする
- ・カレーパーティーにむけて話し合う機会をつくり、主体的に活動できるようにする。地域のスーパーに買い物に行ったり、消防署の方においしいカレーの作り方を聞きに行ったりして、地域とのつながりを感じながら活動が進められるようにする。
- ・異年齢の友達を招待するための話し合いや準備も行うことで、クラスのみinnで協力する、最後までやり遂げる、自分たちでできたという達成感を味わう経験できるようにする。
- ・カレー作りは先生方に手伝ってもらっているので、地域の方も含めみんなに支えてもらったことを実感し、感謝の気持ちを感じられるようにする。

話し合いから

- ・カレー作りは今年度で4年目であり、貴重な体験として根付いており、ESDの視点で計画することで、実践をブラッシュアップしてきている。園内で活動を完結せず、家庭や地域とつながることを意識している。例えば家庭でカレーの作り方を聞いて、それをもとに作り方について相談したり、買い物の時にお店の人との関りに加えて、産地を意識させたりなど、工夫次第で活動の幅が広がり、経験が深まると思っている。
- ・カレー作りの話し合いで、意見が分かれた場面はあったのか？
→キノコを入れるか入れないかについて話し合った。みんなが満足できるような方法を考え出した。
→「コミュニケーションを行う力」に「カレーの作り方について相談する」という内容も加えてはどうか。
- ・環境についての視点が足りなかったように思う。
→野菜の皮などをコンポストに活用することができたのではないか。食べ残しの扱いについての視点も環境にかかわるかもしれない。

2)川村桃佳先生(滋賀県草津市立老上こども園) 3歳児「おがくず粘土で遊ぼう！」

- ・1学期から、様々な感触遊びを行っている。砂を使った遊びでは、全身を使って感触を楽しんだり、見たて遊びを楽しんだり、身近な自然物を加えて遊んだりしている。粘土遊びでは米粉粘土、もち粉粘土、油粘土を使って遊ぶ中で、それぞれの粘土の特徴を存分に感じている。
- ・アレルギーの子どもも使える、自然に返すことができる、米粉粘土やもち粉粘土のように時間経過に伴って水分が飛ぶようなことがなく、継続して形作りができる、などを鑑みておがくず粘土を教材として使えるよう研究中である。
- ・粘土遊びをする中で、保育者が様々な思いや表現を尊重したり認めたりすることで一人一人が大切

にされていることを感じてほしい。また再利用やリサイクルについて知ったり、ものを大切にしようとする態度や無駄にしない気持ちをはぐくんだりしたい。

話し合いから

- ・おがくずの大きさや量はどの程度か
→粉となって舞うほどの細かさが必要。それとのりを混ぜて成型できる程度の硬さにするのでおがくずは大量に必要。
- ・子どもたちが作ったものを見ることで「多様性」に気づいたり、それぞれの作品が大事にされることを通して、「公平性」を感じたりできるようにするために「形作れること」を重要視されているということが分かった。
→3歳児の発達を踏まえると、まずは感触を楽しむ経験が十分にできることを大切にしてほしい。
- ・おがくず粘土で遊ぶ前におがくずに触れる経験ができるとよいのではないかな
- ・おがくずを地域やご家庭に協力していただいで集めることができれば、園外とつながりを持てる活動になるのではないかな。
- ・子どもにとって必要と思う教材を先生自身が楽しみながら開発しているところが素晴らしい。

【ルーム2】 ファシリテーター：阪本さゆり（奈良保育学院）

1)坂田初美先生(滋賀県草津市立玉川こども園) 5歳児「立命館大学の留学生と交流しよう」

学区内に立命館大学があり、4歳児のときも留学生を招待して交流会を行った
外国からの転入児や外国籍の園児もいる

留学生と関わる中で、いろんな国のことを「知りたい」「話をしたい」と感じさせたい
万博に行った子も多く、国旗を描いたりする子もいて外国への興味関心は高い
母国紹介、互いに自己紹介、いっしょにゲーム 5か国ぐらい来てもらえたら

話し合いから

- ・ただ教えてもらうのではなく、子どもたちからの発信（自分たちのことを知ってほしい）も大事にしたい。
- ・子どもらが今夢中になっている遊びや活動をいっしょにできればいい。何か一緒につくってもいい。
- ・ジャンケンだって国によって違う、そこから文化の多様性を感じられると思う。
- ・いろんな国との違いから、「じゃあ日本は・・・？」と考えてくれたらいいのではないかな。

2)高松美香先生(滋賀県草津市立玉川こども園)

5歳児 「からだのはなし ～自分の体も友だちの体もだいじ～」

保健指導は、「自分の体を守る」という健康教育でもあり、人権教育でもある
導入で絵本「うみとりくのからだのはなし」を利用

「プライベートパーツは、見るのも触るのも自分だけ」

「自分の体にだれがどんなふうに触れるかは、自分で決められる」

みんな一緒ではない私だけの自分 自分の気持ちと友だちも気持ち → プライベートパーツ

話し合いから

- ・「からだのはなし」だけではなく、「からだと心のはなし」だと思おう。
- ・「人を大切にするためには、まず自分を大切にすること」を幼いころから感じさせたい。
- ・園のトイレの中が廊下から見えるのは、誰がトイレに入っているかを教師がつかむためではあるが、

- それは当たり前ではないというクリティカルシンキングが教師にも必要だと気づかされた。
- ・子どもたちの行動変容に期待したい。

3) 清水智佳子先生(奈良教育大学附属こども園)

4・5歳児(長時間・預かり保育「なかよしタイム」)「みんなで育てたお花を新しいこども園に植えよう」

工事中の園舎の花壇に花がない → 新しくなる園舎を飾る花をみんなで育てよう

腐葉土をふるいにかける中で、ミミズや虫の幼虫、においや手触りに興味をもつ

「みんなが笑顔(幸せ)になる」という視点を持ち、人の喜びを自分の喜びと感じられる子どもに

「役に立つ喜び」を感じさせたい

成長記録をiPadで撮影し、掲示するなどして生長を楽しみにできるように

話し合いから

- ・子どもは小さいながらも「人の役に立ちたい」と思っている。きっと豊かな体験になると思う。
- ・幼保連携型のため、来年度からは0歳児も入ってくる。
- ・異年齢でこういう活動ができると、積み上げになってこのあとの活動につながる。
- ・工事の人に対して、「暑い中、ありがとうやな」という言葉が出てきたのはうれしいこと。

【ルーム3】 ファシリテーター：中澤哲也(大和郡山市立片桐西小学校)

1) 野口詩歩先生(愛媛県新居浜市立北中学校)

中学校第1学年 外国語科「Happy New Year! ~年末年始のすごし方~」

- 日本に住んでいるものの、日本のことをあまり知らないので、「日本の年末年始」についてタブレットで調べる。
- 転校生(インドネシア)に、日本の文化を伝える。
- 調べることを通して、「価値観の違い」に気付かせたい。
- 自国の文化を学ぶことで他国の文化を尊重する。
- 文法重視だったのを内容重視に転換した。全10時間くらいの設定。
- インドネシアからの転校生の困りごとは日本語がわからないこと。
- 教えた文法をいかせてないのでは? →国際理解という分野を担えるようにしたい。
- 万博をネタにして世界各国の文化に触れさせたい。
- 単元構想図の中に現在進行形をどこで使っているか明記する。
- 「違い」だけでなく、「同じ」ところを見つけてもおもしろいのではないか。
- 日本、アメリカ、インドネシア言語感覚の違いを見るのもいいのでは。
- 最後にその国の人になり切って、現在進行形で発表させる。その中で文化の違いに気付かせる。
- 決められた学習内容を学ばせつつ、ESDの価値観にも気付かせることの難しさを感じた。

2) 吉田剛先生(茨城県つくば市立竹園東小学校)

小学校第3学年 総合的な学習の時間「竹園のまちのたからもの~地域のまつりを調べよう~」

- まつりつくばは今年で40年という歴史の浅いまつり。
- 一般的な「神様を祭る」という目的ではない。
- ひろげるは地域の「竹園フェスタ」が何のために行われているのか再度考えなおしたい。
- 単元構想の作成時点で子どもに身近な教材を準備しているのがすごい。

- 地域の愛着を持っている児童はいるのだろうか？が授業づくりの出発というのがすばらしい。
- 吉田先生ならではの山場は？ →子どもが主体的に学べることを大切にしている。
- 祭りつくばの起源が、「人とつながりたい」という思いが生んだもの。これからの新しい祭りの見本になる。
- 新しい祭りを作り上げた素晴らしさを受け継いだ子どもたちが、新しい地域で自分たちも！という気持ちになればいい。
- 「地域をつなげる」ために行われている祭りを知った児童が、「学校のみんなをつなげる」ための「ひろげる」活動になればいい。

【ルーム4】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1)藤田恵美先生(愛媛県新居浜市立垣生小学校)

小学校第3学年 総合的な学習の時間「地域に伝わる史跡や自然を調べ、地域の魅力を調べよう」

- ・恒例となっている学習をESDで自分ごと化できるようにしたいと考えた。「シビックプライド」(地域に対しての愛着だけでなく、自分たちがつくっているという思いが大切だ)が身に付くこと、またはその素地となるように学習を展開することを考えている。
- ・流れとしては、宝泉寺や垣生山史跡めぐりなどをもうすでに行っていて、「昔のものがどうして残っているのか」をグループごとに調べたり、地域の人や公民館の館長などにインタビューしたりして、発表するという流れ。発表は校内のESD発表会で行う予定もある。

話し合いから

- ・発信として、公民館に掲示などで地域に向けてすることも可能ではないか。
- ・「～について学ぶ」ままで留まっているように感じてしまう。それでは、「自分ごと化」「シビックプライド」といった到達点にたどり着かないのではないか。「～を通して学ぶ」ことでどんなことを学ぶのかを明確に持ち、それに向けた発問も考えてみた方がいいのでは。例えば、垣生山清掃をしている地域の方の話を聞くだけでは、「すごいな」で終わってしまうが、実際に垣生山清掃を自分たちでもしてみることで、気付いたことから啓発のための発信や課題に向けての行動化・発表につながっていくと、ねらいとする到達点までたどり着くのではないのでしょうか。
- ・そう考えるとタイトルも「調べよう」から「伝えよう」にした方がいいですね。
- ・3年生という学齢を考えると、いろんな史跡に意識が散らばるより、例えば垣生山に焦点をあててもいいかもしれないですね。
- ▶学校の総合の流れで、3年生では地域の史跡などに触れておきたい。
- ▶だとすると、いろんな所を調べた共通点などから課題を見つけて、行動化といった流れでもいいですね。

2)富樫智子先生(山形県立鶴岡中央高等学校)

高校2年 総合的な探究の時間「自分の生き方・働き方の探求」

- ・まず、仕事(働き)が社会とどうつながっているのかを考える。これは、仕事と社会のつながりを考えたり、調べたりしていく。
- ・次に、自分の目指す仕事はどうかを考える。ここでは、具体的に自分の目指す仕事はどう社会につながっていくのかを考えたり、庄内地域に暮らす社会人をゲストティーチャーとして、調べ学習だけではわからない生の声を聞いたりして、さらに生き方・働き方を具体的に知ることになる。例え

ば、「仕事をしながら好きなことに打ち込むのか?」とか「大学で学ぶことへの具体例」などである。

- ・そして、自分がどのように働いて、社会に貢献していきたいかを考える。

話し合いから

- ・ゲストティーチャーは何人くらい? 1人に対して大人数ではねらいにたどり着くような話になっていくのか? また、学生が興味のある人の話を聞くことができるのか?
- ▶ 20人くらいで毎年同じ人に頼んでいる。本当は1人に対してもっと少ない学生の組み合わせにしたいが、予算問題がある。
- ▶ 卒業生や保護者を利用して予算のかからない人数を確保していくといいかもしれない。
- ▶ オープンキャンパスを活用するのもいいかもしれない。全員に同じ機会を与えられるわけではないが、自分たちよりも1つ社会人に近いステージで学ぶ先輩から話を聞くことでも、自分の目指す仕事に具体的に近づけるのではないか。
- ・発問について、「自分の目指す仕事」について具体的に持っていない生徒もいるだろうし、好きなこと・興味のあることがどんな仕事につながるかを考えるといいかもしれない。
- ・私自身、仕事をしながらサッカーのコーチをしているし、コーヒー好きでバリスタから教師になった人もセミナーの仲間にはいるし、そういった人材を利用するなり、探すなりするのもいいですよ

3) 井上岳海先生(奈良女子高等学校)

高校 総合的な探究の時間 「万博の学びを通じた奈良らしい共生社会」

- ・1学期に万博についてテーマや伝えたいこと、社会の動きなどを学び、一部の生徒ではあるが、未来の地球学校のイベントで国際交流の体験も行っている。そして、万博の建設に関わっている奈良発祥の企業である大和ハウスの示した未来は自然との共生であることを学んだ。
- ・そこから自分たちの住む奈良に目を向け、シカとの共生に注目する。そこで感じる奈良の素晴らしさを観光客や中学生に向けて発信するというので、今までのように SNS を利用して発信していくのもいいが、今回は「SDGs 学び旅」とコラボを行う。
- ・さらに、次の万博も「共生」や「カーボンネイティブ」がテーマとされるようなので、この学びがつながっていくといいなとも考えている。

話し合いから

- ・発信の形をもう少し詳しく教えてほしい。
- ▶ 「SDGs 学び旅」を企画している。(株) 学びの旅に、自分たちで考えた企画を提案して考えを具体的な形にしたり、一緒に活動することで観光客や中学生の反応を直接感じたりしながら発信できる形を考えている。

【ルーム5】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1) 浅野稜太先生(千葉県立柏陵高等学校)

高校3年 英語科「各地の災害と繋げる、地元“千葉県”の災害について」

English Communication III (6時間) + LHR (2時間)

英語の教科書では、厳島神社とヴェネツィアの共通点として、美しい水の景観があり、一方で水害の危険があることを紹介されている。これを活かして防災の学習を構想した。子どもたちは、自分の住んでいる地域の災害リスクや備えておかなければならないことなどについては、ある程度の知識を持って

いる。一方で、実際に備えている生徒は一部に限られたり、十分な備えができていなかったりすることもある。自分の住んでいる地域での災害リスクについて学び、他者への発信まで促したい。外国語の授業として計画するのであれば、外国語を使ったり、異文化理解につなげたりするなどしていくと外国語の授業として実践する意義になるのではないか。

2)濱岡桜さん(NPO 法人 NELIS) 高校2年 総合的な探求の時間「パレスチナ問題」

日本の子どもにとってなじみがうすいパレスチナとイスラエルの問題について、何が起きているのかを調べ、自分たちに何ができるのかを考えさせる学習。単元構想図では、調べて分かる問いだけでなく、考えなければならない問い、複数の解が生まれる問いなどを設定すると学びが深まるのではないかという意見があった。わかりやすく理解させる工夫として、ゲーム形式でできることを考えるのは一つの方法として考えられるとの意見もあった。海外の紛争について「できること」を考えさせることは難しく、「人に伝える」ということに落ち着くことが多い。場の設定をどのようにすべきか検討することが必要であるとの意見が出た。

【ルーム6】 ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1) 奥村健介先生(比叡山中学校)

中学校第3学年 保健「衛生的な飲料水の供給にわたしたち自身に関わる大切さ」

単元展開の概要

自分たちの行動と飲料水の供給の関係に気づかせたい

安心安全な飲料水が供給されていることを当たり前と思っている

途上国の飲料水は危険であるという認識

発問1 水道水がそのまま飲める国はどれくらいあるのだろう？

10カ国程度／195カ国 なぜ、こんなに少ないのだろう？

水質に問題がある インフラが整備されていない お金や時間がかかるから

発問2 日本ではなぜ水道水を飲むことができるのだろう

- ・水質がいいから 森林環境が国土の77%もある
- ・インフラが整備されているから
- ・浄水場の方々が努力されているから

発問3 普段の生活で、どのような場面で水を使っているのだろう。またその時の意識は節水が大切だという認識はある

発問4 節水するとどのような影響があるのだろう

水を作るのにもエネルギーが必要（浄水場） エネルギーの節約になる・温暖化を緩和

話し合いから

- ・1時間では少なすぎる。総合などにつなげて、机上の学習に終わらせない工夫が必要。
- ・単元の学習を通して、期待する生徒の姿への変容をどうやってとらえるか？
単元前後に感想文を書かせて、生徒本人に変容を自覚させるとよいのでは。
- ・自分が使う水の量を把握・意識化させるために、「ペットボトル何本分」という提示の仕方がいい。
「京（みやこ）エコロジーセンター」に展示があるので、教材研究に訪れるように。
- ・ESDの価値観との関連で、クリティカルシンキングや生態系自然環境の保全も加えては。

2) 金谷双葉さん(教職大学院 M2) 中学校第3学年 音楽科「世界をつなぐ音ー平和を伝える「鐘」ー」
学校生活全体で合唱を根付かせたい。1つのテーマで1年間かけて合唱をつなぎつないでいきたい
「鐘」の持つ役割ー大きな音ー遠くの人にも届くように

- ・平和について、平和の大切さを考えてほしいという願い
- ・仏教における梵鐘 仏様の教えから自分を振り返らせたい

単元展開の概要

4月 《HEIWAの鐘》/中里幸広の合唱

なぜ、HEIWAの鐘というタイトルがつけられたのだろうか？ 東大寺の鐘の見学

8月 広島鐘 「広島平和記念式典の鐘」の映像を視聴する

鐘に込められた願いは「永遠の平和」 だから、子どもが代表で鳴らしている

○世界にも「鐘」のタイトルがついた曲がある。 《鐘》/ラフマニノフを聴いてみよう。

不気味、怖いといった印象

○どのような思いでラフマニノフは《鐘》を作曲したのだろうか ロシア人の「鐘」に対する思い。

○浅田真央のオリンピックの映像を視聴する (BGMがラフマニノフの「鐘」)

浅田真央が演技で伝えたかったことは？

○平和ってどんなことなんだろう？

○多くの人に平和の大切さを知ってもらうためにできることを考えよう

「HEIWAも鐘」の合唱をつくって聴いてもらおう。

話し合いから

- ・ラフマニノフを聴く前後の感想を比較して、自分の変容を実感させるといい
- ・「HEIWAも鐘」の歌詞に着目させ、生徒が「平和」について考え、対話する場面が必要
暴言・暴力・いじめがない 尊重すること CARE ステレオタイプにならないこと
- ・戦争状態にある今、ロシアの音楽を教材化する意味を教員は持つておく
指導者と国民は別。国民は平和を望んでいる。国民の音楽としてのラフマニノフ
- ・浅田真央を先に見せ、演技に込められた意味を考える過程でラフマニノフの曲解に取り組んではどうか

3) 藏前拓也先生(王寺町立王寺北義務教育学校) 小学校第4学年 総合的な学習の時間

「だるまさんがころんだ！ーだるま発祥の地(達磨寺)わたしたちのまち王寺町ー」

単元展開の概要

「だるまさんがころんだ」をやってみよう

だるまさんがころんだについて知っていることの交流

発問1 「なぜ『だるまさんがころんだ』は昔から親しまれてきたのだろうか。」

「どうして王寺町は、だるま発祥の地と言われているのだろうか。」

聖徳太子と達磨太子 校区に残る伝説や逸話を知りたい

○校区にある達磨寺にひみつがあるかも。行ってみよう。

王寺観光ボランティアの方からお話を聞く。

○王寺町文化財課の井上さん&岡島さんにも聞いてみよう

○だるまマーケットにも行ってみよう

発問2 「だるまさんがころんだ」の魅力は何だろうか？

- ・異年齢の人たちが楽しめる・なかまづくり。健康づくりにもなる。

発問3「達磨寺」「だるまさんがころんだ」の魅力を伝えるために、自分たちにできることを考える

★だるまプロジェクト発進！

話し合いから

- ・達磨寺があることは知っている。「雪丸像」のあるお寺。知っているけど、よく知らない。教材化することで、校区についてもっと知りたくなる。地域愛が育つ。
- ・達磨寺が1400年間も受け継がれている理由を考える。インタビューする。今後も受け継がれていくために大切なことを考え、行動化する。
- ・だるまさんがころんだ選手権はぜひやってほしい。

【ルーム7】 ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1) 笠松誠司先生(和歌山県白浜町立日置中学校)

中学校第1学年 家庭科「日常食の調理と地域の食文化 ―紀州うめ豚の生姜焼き―」

中学1年生の家庭科調理実習において、地元の「紀州うめ豚」を使った生姜焼きを題材とする。本実践は、単なる調理技術の習得に留まらない。梅の産地である地域性を活かし、飼料に梅酢エキスが使われている「紀州うめ豚」を通じて、地域の農業（梅農家と養豚家）の連携やつながりを学習する。

話し合いから

- 地域のブランド豚を調理し、実際に味わう体験そのものに価値がある。
- 家庭科での探求的な活動は、そのまま生徒の「生きる力」に直結するのではないか。
- 生徒の関心を高めるため、導入の工夫や「紀州うめ豚」の魅力（梅の循環性など）をより効果的に伝える方法が重要。
- 調理実習の運営面では、生徒だけでの実施の難しさから、外部支援者と連携し、より深い学びに繋げる工夫が求められるとの意見が出た。

2) 加藤佳緒里先生(愛媛県新居浜市立浮島小学校)

小学校第5学年 総合的な学習の時間「地元食材の魅力発見プロジェクト」

小学5年生を対象に「地元食材の魅力発見プロジェクト」と題し、地域の特産品である里芋に焦点を当てる。多くの児童が身近な里芋畑の存在に気づいていない現状から、実際に農家を訪問して話を聞き、地域の伝統行事「いもだき」を自ら作り、販売するまでの一連の活動を行う。

話し合いから

- 地産地消の推進が、地域とのつながりを生み、町おこしにも繋がる可能性が指摘された。
- 農業の後継者不足や耕作放棄地の問題といった、地域が抱える課題にも目を向ける必要がある。
- 教育実践上の課題として、ゲストティーチャーへの謝礼等、学校の予算不足の問題が挙げられた。
- 児童の学びをより深めるために、「里芋のキャラクター作り」のような楽しみながら学ぶ工夫や、ポスターセッション等の地域へ発信する活動を取り入れることで、郷土愛の育成や主体的な行動化に繋がるとの提案があった。

2) 藤原萌さん(音楽教育専修3回生)

小学校第6学年 音楽科「郷土に伝わる民謡『八木節』を知ろう」

小学6年生の音楽の授業で、発表者の地元である足利市に伝わる民謡『八木節』を取り上げる

樽や笛を使った演奏の楽しさだけでなく、夏祭りの開催困難や後継者不足といった『八木節』が直面する課題にも触れ、伝統文化の継承が地域の絆を強める意義を学ぶ

話し合いから

- 学習の着地点として、学習発表会での披露や中学校の体育祭で踊るなどの発展的な活用案が提案された。
- 魅力的な衣装や傘、踊りの背景にある由来や歴史に着目させることで、生徒の関心をさらに引き出せるのではないか。
- 授業者が自身の地元の文化を扱うからこそ生まれる「熱量」が、教育活動において大きな価値を持つことが確認された。

◇日時：2025年10月7日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者 36名

◇内容：単元構想案の相互検討④

【ルーム1】 ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1) 黒柳新奈さん(英語教育専修4回生)

高校3年 総合的な探求の時間「私たちの身の回りにおける差別や偏見」

「私たちの中に差別意識、偏見はあるのだろうか？」→ ないと思う

読み物教材：自分にもジェンダー的意識があることに気づかせる

トランプ大統領の発言「性別は男と女の2つしかない」について考える

→ ジェンダー的意識が潜在的に定着している場合があることに気づく

私たちはどのような偏見や差別意識をもっているのだろうか？

ジェンダー的意識はどうして生まれたのか → 経験に由来するのか？

ジェンダー的意識は、すべての国の人にあてはまるのだろうか？

LGBTQの方へのインタビュー

会って、話をしてどのように感じたか

↓

表面的な部分や特徴だけで決めつけているのではないか。

国籍や性別などではなく、その人を見ることが大切

どうしたら差別・偏見を減らすことができるだろうか？

日本：LGBTQを自認している人は少ない 日本ではいやな思いをされている方が多いだろう

学びの発信についてアドバイスが欲しい

話し合いから

・ポスターだけでは弱い → 大きなアクションを起こしてほしい

・万博のトイレ事情 性的マイノリティへの配慮がある。

・SOGIについて

「SOGI」の「SO」：性的指向

「SOGI」の「GI」：性同一性

SOGIはすべての人に関わるため、性的少数者のみのLGBTという言葉よりも広い範囲を指す。

カテゴライズはよくない。すべての人を巻き込むことが大事

・発信方法に劇化がある。他の生徒や保護者にも見てもらえる

・ラジオもメリットがあるのでは

・掘り下げる時に。指導者の考えを押し付けることなく、子どもに深く考えさせるように。

・子どもの考えさせるにおいて、配慮すべきことが多くあることに気付かされた

・ウェルビーイングを大切にすることを子どもに伝える。

2) 芝田椋伍さん(社会科教育専修3回生)

中学校第3学年 社会科・公民「選挙ってなんだろう？」

最近の選挙にはSNSの影響が大きい

→ 若者の参加が多くなった。参加しながらよりよいものにしていく姿勢が重要

問い：選挙はなぜ行われるのだろうか？ → 大切な仕組みだということに気づかせたい

民主主義を支える選挙は、どのように行われ、どのような人が関わっているのだろうか？

※調査活動（グループ活動）

国によって、権利ではなく義務になっている 無投票者に罰則規定

メディアの影響力が大きい

※地元の首長を決める模擬選挙をする（AIを用いて、3名の候補者の演説を教材にする）

→ 何に着目して投票するのかは、人によって違うことに気づかせたい。

← 民主主義の意義理解につながる

多くの人が投票することは民主主義にとって大切

投票率の推移のグラフの提示 投票率を上げるためには、社会が変わらなければならない

投票権獲得の歴史をおさえる 投票権がない国があることを伝える

話し合いから

- ・ AIを活用した模擬選挙を試みるのはよい。AIはそれらしい演説をしてくれるので、生徒にとっても、どこに着目するかで迷いが生じるのが良い。
- ・ なぜ投票しないのかを考えさせる → 変わらない
- ・ 公民権運動の歴史を持つアメリカなどは投票率が高いのではないか
- ・ 自治会活動を教材にするのもよい←この街をよくしたいという思いで設立されている
- ・ 変わらなくてもいい、という意見の人も一定数いる。
- ・ ネット炎上のニュース 政治や選挙を左右する
- ・ 日本財団の18歳意識調査 中国・インド・韓国・アメリカ・イギリス・日本
自国の将来 よくなる 15.3%（最下位）
国や社会に役立つことをしたい 64.3%（最下位）
自分は責任がある社会の一員だと思う 61.1%（最下位）
ボランティア活動に参加したい 60.4%（最下位）
慈善活動のために寄付したい 58.4%（最下位）
自分は大人だと思う 49.6%（最下位）
国や社会を変えられる 45.8%（最下位）

自分はどうなのかという内面を見つめさせ、発信する

3) 小南舞桜さん(社会科教育専修3回生) 小学校第6学年 総合的な学習の時間

『NEW』白樫ニュータウン～住み続けられるまちづくりを考えよう』

白樫児童センター

昭和46年白樫南幼稚園として開設（樫原ニュータウン開発による人口増加）

平成19年幼稚園撤退（園児数減少による北幼稚園との統合）

平成21年 児童センター・子育てセンター・放課後児童健全育成センター化

白樫ニュータウンは高齢化による人口減だが、児童センターに通う子は多い。

→ 人口はこれからも減り続けるのだろうか。故郷がなくなってしまうのだろうか？

白檀小学校の効果は宮下学長が作曲した「白檀北・南小学校の児童や白檀ニュータウンの住民から公募された歌詞に軽快なリズムをつけました。いきいきと楽しく元気に歌い、校歌をいつまでも愛し続けてくれることを願っています。」

→ 地域外の方にも応援してくれている人がいる。→ わたしたちにも何かできないか。

私たちにできることを考える

話し合いから

- ・「続けられる町」と「住みたい町」を比較して考える。
- ・地域の人にニュータウンの魅力や課題を聞くことは大切。
- ・ニュータウン特徴　　ダーッと増えてダーッと減る
- ・5年後の町について具体的に考える。
- ・田原本町の福祉交流花壇の実践　まちづくりを地域の人に手伝ってもらうという発想
- ・同様のテーマで取り組んでいる学校と交流すると気づきを得られる

【ルーム2】　ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1)加地優太さん(数学教育専修3回生)

中学校第1学年　総合的な学習の時間「フードロスについて考えよう」

単元目標：恵方巻の作りすぎや不揃い野菜の流通など身近な問題から課題意識を持ち、体験学習を通じてフードロスへの無力感をなくし、行動へ繋げる。

- みつめる　　恵方巻の作りすぎ、不揃い野菜の流通（なぜ均一なものしか売られないか？）
- しらべる　　顧客によるフードロスの助長、農家やスーパーの方へのゲストティーチャー
- ふかめる　　フードロスの体験（アレルギーを考慮した料理をクラスで作成）
- ひろげる　　文化祭での発表（ポスター、プレゼンテーション）

話し合いから

- ・規格外野菜の課題は、農家の方の話聞くことで真に直面できる大切な視点であり、学びの核となる。
- ・スーパーと地元の朝市の違いを比較し、なぜスーパーは不揃い野菜を扱いにくいのかという流通の問題や、不揃い野菜への消費者の偏見にまで踏み込むべきである。
- ・体験学習の「焼きそば作り」がフードロスにならないかという問いかけから、体験活動の目的をより明確にする必要性が確認された。
- ・消費期限・賞味期限の違いや、加工食品の「手前撮り」など、フードロスを多角的に捉える視点を段階ごとに取り入れることが重要。

2)井上愛香さん(家庭科教育専修3回生)

中学校第1学年　家庭科「1枚の制服が作られるまで」

単元目標：身近な制服から課題意識を持ち、生産地（岡山県）の特性や企業の対策を調べ、服の生産背景について深く振り返る。

- みつめる　　私服と制服のどちらが良いか、卒業後の制服はどうなるか
- しらべる　　岡山県の高い制服生産量（全国2位）の背景、制服工場への見学
- ふかめる　　自分が着ている洋服、ファストファッション、企業の対策
- ひろげる　　生産背景について振り返り、自分事として考える

話し合いから

- ・単元の生徒のゴールと課題意識をどこに設定するかが重要。
- ・「服育」という新しい視点を取り入れた活動は示唆に富んでいる。
- ・「なぜ制服の工場が多いのか？」という発問は、地域と産業を結びつける良い問いである。
- ・活動を「私服か制服か」の二元論で終わらせず、制服のジェンダーや残したい文化など、幅広く活動を展開することで学びが深まる。

3)池本翔真さん(教職大学院 M1)

小学校第5学年 社会科「これからの食料生産」

単元目標：食料を選ぶ際の基準や日本の自給率の低さに着目し、食料生産に関わる人々の取り組みを調べ、日本の食を守るために自分たちにできることを探る。

- | | |
|------|----------------------------|
| みつめる | 食料を選ぶときに大切にしていること、食料自給率の低さ |
| しらべる | 食料生産に関わる人の取り組み（朝市の方、漁業・農業） |
| ひろげる | 日本の食を守るために、わたしたちに出来ることは何か |

話し合いから

- ・単元に「ふかめる」の段階を設け、より実のある学びにする必要がある。
- ・朝市への見学を1回で終わらせず、「メイドイン王寺」といった地域産品への着目や、地産地消の活動を「ふかめる」に取り入れることが有効。
- ・朝市で見つけた「不揃いでも美味しかった」という生徒の気づきを深掘りすることが大切である。
- ・自給率が高い米についても、価格や消費者ニーズといった多角的な視点から課題を探ることで、学びの幅が広がる。

【ルーム3】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1) 勝田南美さん(国語教育専修3回生)

小学校第6学年 国語科「古代に生きた人々といまを生きるわたしたち～『古事記』のなかの自然」

みつめる①天岩戸を読む

みつめる②ヤマタノオロチ→自然災害につなげる

調べる お祭りの起源から、地域のお祭り 文化の保存や地域の交流は社会科になってしまう？
→人々の協力でお祭りが成り立っている。今も続いている。

主発問「昔の人々はなぜ、自然を神様や生き物の姿にして物語を作ったのだろうか」

深める 物語が作られた理由

広げる 現代の自然災害、その対策 →自分で物語を創作する

話し合いから

- ・お祭りは唐突感ある。ボリュームミーな単元になっている。
- ・祭りの内容が、ボリュームが出てきてしまっている原因。子どもたちが現代に準えて、物語を作ることが、活動の中心。お祭りを省いてもいい。
- ・私たちも古事記みたいに、自然災害や環境問題を伝えてみよう。（わかりやすく。）
- ・「鳥獣戯画を読もう」から、表現の仕方は文章やイラストなど多様な方法を考えられるのでは

2) 山下恵さん(音楽教育専修3回生)

小学校第3学年 理科「音を作る、未来をつなぐ ―グラスハープで広がる音ともののひみつ―」

- 見つめる 音はどうやったら出るのか
- 調べる 材質で音が違うことを調べる
- 調べる 水の量を増やすと音はどのような変化があるのだろうか。
- 深める グラスに水を入れて縁を擦ると音が出るのだろうか。
→音は振動によって伝わる
- 広げる グラスでできたコップをどのように扱うべきか。

話し合いから

- ・音の実験は3年生にとって面白い。理屈をわかると楽しい学習になる。音楽に繋がる。
- ・手作り楽器で資源を使ってみては？自然を表す鑑賞をしてみても？
- ・最後の流れとしては、音の良さに気づくように・・・「人権文化を尊重する」
- ・木琴や鉄琴など、大きさが違えば、音が変わる。

【ルーム4】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1) 光延ひなたさん(家庭科教育専修3回生)

小学校第6学年 家庭科「災害時の食生活:防災クッキングから学ぶ」

自然災害が発生したときに起こる食生活の課題に着目した実践。食事の質が低下したり必要な栄養を補えなかったりするというだけでなく、水や食材、調理器具などが不足する状況について課題を感じさせ、防災クッキングに取り組んで、限られた資源を用いて調理する方法を検討させる。

検討会では、家庭科という教科で扱う上では、家庭科の目標をカバーすることが必要である。必要だからと言って、自由に調理実習ができるわけではないのでどのように単元に位置付けるべきか検討する必要がある。またそれまでに学習した内容（衛生面への配慮など）を子どもたちが活用できるよう、単元構想を検討するとよいという意見もあった。また、家庭科として扱う際には「調理の基礎」（調理実習等）として扱うだけでなく、「食事の役割」「家族や地域の人々との関わり」のような単元で防災食を取扱うことも可能ではないかとの意見があった。

2) 峯松拓哉先生(比叡山中学校)

中学校2年 外国語科「海外で生活をするということについて」

英語科の授業と関連させて、海外からの移住者が増加していることに着目した実践。外国の方の困りごとを解決することを目指して実践している。外国語科の授業として、ホームステイに関する英文を読んで解決策を提案する表現を学ぶことを目指している。

検討の中では、英語圏ではない移住者に対してどう対応すべきか（英語でのアウトプットでよいのか）という意見があった。非英語圏からの移住者にどのように向き合っていくかという点も、子どもの思考を促すきっかけになると思われる。また、「外国の人が国内で生活することに困っている」ということに気づかせる手立てが重要であるため、どのように気付かせるかについて検討した。例えば、移住者をゲストティーチャーとして招いたり、自分が海外に住むとしたらどんな困りが生まれるかなどを考えさせたりする手立てが提案された。また、英語の授業だけで収めるべきか、総合的な学習の時間や合科的な授業にする必要がないかという点でも検討が行われた。

第8回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2025年11月4日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：38名

◇内容：学習指導案の相互検討①

【ルーム1】 ファシリテーター：阪本さゆり（奈良保育学院）、長谷川かおり（奈良教育大学）

1)木戸香里先生(草津市立老上こども園) 5歳児 「ポップコーンパーティーをしよう」

12月に実施予定 収穫したトウモロコシを現在乾燥中

栽培・収穫を通して、喜びを感じるとともに、いろんな食べ方があること、他にも利用できるものがあることにも気付かせたい 「多様性」

給食の残菜を肥料に活用して栽培してきた 土の再生活動 「自然環境・生態系保全の重視」

ポップコーンを調理しているときも、はじける様子を子どもに見せたい

意見交流から

- ・「ESD との関連」については、あまり欲張らない方がいいと思う。
- ・世界各地でトウモロコシが主食になっていることを知ることや、同じトウモロコシでも様々な種類のものがあることに気付かせたい。→ 興味・関心をもつ程度で。
- ・トウモロコシの葉やひげはコンポストに入れられるが、芯は自然になかなか還らない。
→ 遊びに使ってもいいのでは。葉っぱやひげも使える。

2)中川珠紀先生(草津市立玉川こども園)

5歳児「萩染めで『世界で一つだけのTシャツづくり』をしよう」

子どもにとっても、地域の人にとっても萩は身近で大切にされている 親子での活動

つくったTシャツを地域の人にプレゼント 「萩まつり」実行委員の方に

地域の人でも萩染めができることを知らない人が多い 地域の自然と文化の価値への気づき

自分たちで作ったものを自分で着ることの喜び（世界にこれしかない）

地域の人とのつながりがより強まった印象がある

意見交流から

- ・「つながりを尊重する態度」を中心に実践されたことがよく分かる。
- ・自然由来のものが染料になるという点から言えば、批判的思考力も入れられると思う。
- ・地域の素材を取り上げた充実した実践は、様々な資質・能力を育むことができる。

【ルーム2】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1)西田有吉先生(生駒市立俵口小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間「飛行塔の96年」

生駒山上遊園地に100年近く残っている飛行塔を題材とした平和学習の授業。現在「この飛行塔を残していくためにはどんな意味があるだろうか」という問いで考えているが、より良い問いがあるのではないかという悩みをもって本日のセミナーに参加した。

どんな平和のシンボルであったとしても、戦争のために使われてしまうということに気づくことができる教材であり、ESD教材としての価値は高いと思われる。参加者からは、この飛行塔を作成した方の願いに目を向けて探究させることがよい、当時の時代背景をつかめるものを取り入れることもよい、などの助言が出された。

2)竹田光陽先生(生駒市立生駒東小学校)

小学校5年 総合的な学習の時間「命の尊さを考え、人と生き物が生きる道を考えよう」

私達が気づかないうちに生き物の命について、軽重をつけて扱ってしまっていることを考えさせる授業。自分たちが当たり前に行っていることについて、立ち止まって考えさせ、揺さぶるような工夫が多くなされている。ただ、生き物の命をすべて尊重すると、生態系が成り立たないこともある。また命のつながりのネットワークについて子どもたちがどの程度イメージできるか、また子どもたちにとって考えやすい問いか、という点について、さらに工夫が必要だと考えられる。

【ルーム3】 ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1)栗谷正樹先生(大阪市立今川小学校)

小学校3年 総合的な学習の時間「クビアカツヤカミキリを題材にした生態系学習」

クビアカツヤカミキリについて 外来生物 サクラやモモ、ウメなどの食害被害

特にサクラの被害が拡大している。→ セミやミツバチの減少にも影響していると考えられる

2015年頃に輸入した貨物や外材などに付いていたのではないかな？

その裏には、安さや便利さなど、現在の自分さえよければいいという人の営みがあるのではないかな
被害状況の確認：川沿いの公園で生き物探し → (気づき) 多くのサクラの木が枯れ始めている。

専門家の講義を聞く「外来種や生物多様性について」

→ 公園の木の中でクビアカツヤカミキリの幼虫の入っている木を見つけよう

木の根元にフラス(木の粉)

カミキリムシなどは幹に穴をあけて産卵し、その後、食害しながら成長する。食害した時に排出されたもの

「サクラや生き物を守るために自分ができることは何だろうか？」

大阪市の「わがまちナイススポット(都市景観資源)」の取組への協力

「カミツキガメは悪者か」松澤陽士・小学3年生国語科教材

意見交流から

- ・地域教材を開発する際の着眼点が素晴らしい
- ・駆除と命の大切さとのあつれき 道徳教材になる
- ・サクラで終わらせるのではなく、命の大切さについて考える機会にした方がいい
- ・「外来種は本当に悪者か？」 答えは出ないが、対話をすることで考えが深まる

2)菊池甲餘子先生(姫路市立水上小学校)

特別支援学級自立活動「かけがえのないいのちと共に生きよう」

生まれてきたことを喜んでもらっていたことを知る

命との向き合い方を考える - 宮城幸貴奈さんの詩「命」

養護教諭との連携

絵本作家である保護者の協力

子どもたちに考えてもらいたかったこと

- ・命との向き合い方 精一杯生きることの大切さ
 - ・生きる権利と自分を守ることの大切さ
 - ・成長するにともなって増えていく「命のつながり」
 - ・他者の命も大切にすることの広がり
- 友達を大切にすることは具体的にどのようにすること？

意見交流から

- ・外部人材との連携では、目的の共有化がとても大切。アプローチは多様であってもいいが、目的は明確に持っていく。
- ・自傷行為やパニックのある児童—自分も他者も大切にできない実態
← 大切に思われていること、思われていたことに気づかせたい
- ・命の大切さを安全教育につなげる。
- ・命の大切さをアートで表現するのはとてもいい。
- ・「一人一人の生きる力を感じよう」
感性のダイレクト表現であり、誰にでもできる（文章は苦手な児童もいる）

3)三笠日向先生(大阪市立歌島小学校) 小学校1年 道徳「新ももたろう物語」

鬼のイメージについて話し合う → いろいろな鬼がいる

ももたろうの鬼退治 暴力的解決でいいのか声掛けするほうがいいのか

- ・ももたろうはオニにあったことがない→人から聞いただけ、確かめていない
- ・急にももたろうたちにやっつけられて鬼たちはどう思ったのだろう？
- ・オニの子どもはどうなった？ももたろうたちのことをどう思った？
- ・ももたろうの方がオニかもしれない。

鬼がいつもおこっているのはなぜだろう？

食べ物がいないから？嫌われているから？「個別な事情がある」ことを想像する
本当にいつもおこっているのか？ そのように描く理由は何かな？

→ 対話の大切さ、知ろうとすることが大事

新ももたろうをつくろう 鬼退治の場面はどうしたらいいのか

意見交流から

- ・誰もが知っている話 当たり前と思っていたことを問い直すことで批判的な見方が育つ
- ・オニ＝怖がられる存在 その原因を知ることが大切
- ・身の回りの怖がられる存在。
へび：見た目 マムシ以外は安全 近づかなければ何もしない
幽霊：見た目 そのように描かれている理由を考える
- ・新ももたろうの劇は、保護者にも新鮮。ぜひ、保護者からのお手紙をもらおう。

【ルーム4】 ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

1)原田龍ノ助先生(奈良市立朱雀小学校)

小学校5年 総合的な学習の時間「3000年もつづいている日本のお米を守りたい」

単元の段階	内容
みつめる	米作りの仕組み、流通、自然条件、農家の働き方などを学ぶ。
しらべる	水の管理における手作業の負担、米作りの仕事の工夫、米が消費者に届くまでの過程について探求する。米作りの課題や工夫について米農家に話を聞き、米作りの歴史、スマート農業の工夫（特に水管理）や農家を支える人々について深掘りする。
ひろげる	米作りや農家の方々に対し、私たちにできることを考察し、実行に移す。

意見交流から

- ・ESD の視点である世代間の公平性を考慮するため、米作りの歴史を深く学ぶことで、未来の米作りについて考える揺さぶりにつながるのではないか。
- ・「米をなぜ守る必要があるのか」という問いを立てることで、米が日本人にとっての文化的・経済的な価値（日本酒、醤油、味噌などの食文化の維持）を具体的に考える機会になる。
- ・単元を通して、手作業での水の管理の大変さから、最終的にスマート農業の工夫へと繋がる構成は、技術による課題解決の流れが明確に示されており、論理的な繋がりを感じた。
- ・子どもたちが米作りの大変さを実感することで、「お米を大切に食べたい」という消費者意識の変容に結びつくことが期待できる。

2)吉岡真志先生(奈良学園小学校)

小学校6年 理科「電気の利用～電気をつくり、ためて、つかって」

単元の段階	内容
みつめる	「どうして電気は使えるのだろうか？」という問いから、手回し発電機を用いた導入・体験を行う。
しらべる	LED と豆電球を用いた比較実験を通して、同じ条件でどの程度の明るさが得られるかを比較する。LED が良い、豆電球が悪いという一元的な価値判断に留まらない視点を持つ。
ふかめる	電気エネルギーが熱、光、運動の形で使われる様相を整理し、効率的な使い方について考察する。「省エネは我慢ではなく、工夫でできる」という前向きな意識を持たせる。発電所の種類について理解し、タービンを回すという基本原理を「みつめる」の段階に戻って再確認する。
ひろげる	児童が自由に「電気を作る・ためる」方法を考え、創作する。

意見交流から

- ・手回し発電機（みつめる）からタービン（ふかめる）を経て、児童の自由な発想による創作（ひろげる）へと繋がる構成は、電気エネルギーの仕組みと未来への応用が一貫して関連付けられており、論理的な単元展開である。
- ・豆電球と LED の比較において、単純な優劣で判断しないという多角的な視点を持たせようとする姿勢が優れている。
- ・エネルギー供給を受けている側に位置する奈良に住む子どもたちが、この学習を通してどのような新しい発想や解決策に辿り着くのか、そのアウトプットが非常に楽しみである。

3)堀口大地先生(奈良学園小学校)

小学校3年 総合的な学習の時間 「琵琶湖とわたしたちの暮らし～水の大切さを考えよう～」

単元の段階

内容

みつめる 琵琶湖での体験学習、カヌー体験。

しらべる 琵琶湖での宿泊学習。

ふかめる 水について調べたいことをクラスで決め、子どもたち自身が課題設定を行い、調べる活動を深める。

ひろげる 新聞にまとめる。

意見交流から

- ・琵琶湖での宿泊学習という具体的な体験を、どのように「水を大切にする」という内面的な学びに昇華させるかが重要である。宿泊学習を単なる体験ではなく、問題提起の場として位置づける工夫が求められる。
- ・児童の居住地域が多様である奈良学園において、「琵琶湖と私たちの生活」というテーマを扱うことは、地域（水系）との繋がりが薄い生徒にとって、広域的な水の循環や環境問題を考える上での良いモデルとなる可能性を秘めている。
- ・子どもたちが水に対する疑問（課題）を自ら決めて調べるというプロセスは、主体的・探究的な学びを促す上で非常に価値がある。

【ルーム5】 ファシリテーター：新宮済（奈良女子高等学校）

1)井上岳海先生(奈良女子高等学校)

高校 総合的な探究の時間 「万博の学びを通した奈良らしい共生社会」

万博の目的にふれながら、現地見学し大阪関西万博のメッセージを体感する。

歴史教科で過去の万博の目的を探究し、次回のリヤド万博でのキーワードの「共生」について考察していく。

意見交流から

- ・教科で万博を調べて、探究で行動化に向けた体験をさせていくという方法がよい
- ・「共生」についてダイワハウスを出したがどのように学んでいくの？
- ・「共生」をどう落とし込むか？
- ・「共生」の考え方の変化を追っていく。
- ・万博マイナス発言が多かった。終わってみると希望がみんなに生まれている。
「共生」感情や希望

2)村上雄太先生(奈良市立平城小学校)

小学校4年 総合的な学習の時間 「広めよう！地域の文化・日本の文化」

文化勲章に地域の画家上村氏の鳥園を探検

松柏美術館から日本画を学ぶ

日本画を描く

錦光園でニカワを学ぶ

上村さんはどうして平城の地を選んだのか

意見交流から

- ・上村さんを通して、文化を学び地域の良さを考える考え方が素晴らしい。
- ・カリマネの表がみやすい。ニカワのつながりを体験でつなげてくれたらよい。
- ・学びが次につながるような、地域を考える機会をつくりたい。

3)佐藤亨樹先生(山形市立大曾根小学校) 小学校5年 社会科「米づくり」

備蓄米と新米の食べ比べから「なぜ備蓄米は必要なのか？」という学習問題から食料生産について考え、これからの日本の農業や地域の農業について考える。農業の多面的機能を守ることで農業についてみんなで考える。備蓄米がおいしかった予想外の反応があった。

意見交流から

- ・農業が自分の生活と関係しているよね。農業の多面的機能で落とし込むのがよい。
- ・身近に食料生産が感じ取れる展開を増やせるかもしれない。
- ・GT との対話を増やして、GT の願いに気づけたらいいと思う。

【ルーム6】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1)谷口晋吾先生(草津市立老上中学校)

中学校1年 総合的な学習の時間 「安心してすごせる社会をつくるために～障害者理解を中心に～」
誰もが安心して暮らせる社会をつくっていくためには何が必要か考える
障がいフォーカスをあて、ユニバーサルデザインの提案をする
登下校の中で、自分たちのまちの課題を見つけるようにする

意見交流から

- ・「ひろげる」段階で、中学生として何かしら行動化につなげていきたい。自分たちで考えたことを市に提案するなど。
- ・本当に困り感がないと、自分事として考えていけない。
- ・人権教育は普段からの教師の語りなども必要になってくる。
- ・人権教育は最後に自分にかえすような展開を大事にしてほしい。
- ・小学校からどんな学習をしてきているかを確認するのもいい。
→保育園で障がい者体験、車いす体験をしている。小学校でも部落問題学習をしている。
- ・同じ障害を持った人でもニーズが違う場合がある。
- ・クラスメイトにインタビューする。
- ・部落問題にしる、障がい者理解にしる、根底の部分は同じではないか。それを生徒が言語化できればよくなるのではないだろうか。

2)辻大吾先生(草津市立老上中学校) 中学校1年 総合的な学習の時間

「老上中学区防災プロジェクト ～みんなで創る安全・安心なまち OIKAMI～」

南海トラフ巨大地震が起こった場合のことを想定して、災害が自分たちの生活とどのように関わることかを考える

防災バックの中に入れるものは何か考える

地域の防災の課題は何か考える。空き家が多いことが課題。新興住宅も多く町の中で二極化している

意見交流から

- ・防災の学習は、優先順位が大事。何を大切にするかを考えさせる。(ダイヤモンドランキングといった思考ツールが使えるかも)
- ・中学生の役割とは、どんなことが考えられるか。地元において一番動ける中学生がどんなことができるのか、どんなことを期待しているのか知りたい。
- ・学んだことを近隣の小学校に伝えに、出前授業をするなんかもいいかも。
- ・理想は、ゲストは子どもが聞きたいタイミングで出会わせるといいかも。
- ・ゲストから聞くだけだと、受け身になりやすいので注意したい。
- ・避難所設営から見えてくることはたくさんある。
- ・防災教育では、いかにクリティカルシンキングを働かせることができるかが大切。「想定外を想定外にしない」ことが大事であることに気付けたらもっといい。
- ・階上中学校の児童のスピーチ（「天を恨まず」）を紹介するのも効果がある。

3)山本寛之先生(草津市教育委員会)

中学校1年 総合的な学習の時間「つなげよう！ 3(スリー)Lのボタン」(松原中学校で実践)

3L 命のつながり

琵琶湖の学習を通して、様々なつながりについて気付いたり考えたりする

水草堆肥について深く調べる。実物を用意している

水草堆肥を使った畑で効果がでればいい

水草を堆肥にしたり、取り除いたりする活動がなぜ行われているのか考えたい

松原ファームを中心にどの学年も3Lについて考えている

3Lを通して郷土愛を育ててほしいことが目的

意見交流から

- ・地域の野菜、ベジグサなど、地域のものに視点を向けることでより地域愛を育みたい。
- ・これからの学習は、子どもたちの発想で広がっていけばいい。
- ・水草堆肥を使い続ける値打ちは何か生徒たちに考えてほしい。

◇日時：2025年12月2日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：40名

◇内容：学習指導案の相互検討②

【ルーム1】 ファシリテーター：長谷川かおり（奈良教育大学）

1)坂田初美先生(滋賀県草津市立玉川こども園) 5歳児 「立命館大学の留学生と交流会をしよう」

多文化の理解には子どもによって差がある 直接遊びを通していろいろな国の人と関わらせたい
運動会も「玉ちゃん万博」として様々な国旗を描いたりした

5名（中国、バングラデシュ、インドネシア、パキスタン）が来園、交流会

自己紹介 質問（自分の興味のあること：お菓子、遊び、動物など）

「My name is ～」自分の名前を伝え、いす取りゲーム

「きらきらぼし」を英語で一緒に歌う

「もっといっしょに遊びたい」「また来てほしい」「日本はどうかかな？」

自分の国の文化に興味をもつ 「七五三で着物を着たよ」「お祭りでも着たよ」

意見交流から

- ・直接体験の大切さが実感できる。いっしょに遊んだり歌を歌ったりした経験は大きい。
- ・事前準備がしっかりできていたから大きな成果があった。職員もわくわくしながら準備していた。
- ・保護者にも子どもの変容についてアンケートをとったら、成果の新たな視点が見えてくるかも。
- ・評価の観点はできるだけ絞った方がいい。

2)高松美香先生(滋賀県草津市立玉川こども園)

5歳児「からだのはなし ～自分の体もだいじ 友だちの体もだいじ～」

国の指針に従い、健康診断でも他の子どもの裸を見ない対策をとっている

しかし、プールの着替えのときなど裸でうろうろする子どももいる 抱きつきに行く子どもも

→プライベートパーツの話をしたい 性教育の観点から「他人の体に触れるには同意が必要」

体のことだけでなく心も大事に 自分の体も友だちの体も

導入で絵本「うみとりくのからだのはなし」を利用

体に触れられたときにうれしいか、うれしくないか、プレートを使って判断させる

→「プライベートパーツは、見るのも触るのも自分だけ」

トイレが外から見えてしまう → パーテーションを立てる

意見交流から

- ・子どもの中で感じる視点、考える視点が変わったと思う。
「じーっと見るもんじゃない」「気を付けないと！」 価値観と行動変容につながっている。
- ・教えてもらうことで、自分の行動を見つめ直すことにつながっている。
スキンシップが過剰になっている友だち同士の場面は多くある。
- ・子どもの発達を踏まえた指導になっていて、このあとの様々な学びにつながると思う。

3)伊藤華子先生(滋賀県草津市立玉川こども園) 5歳児「カレーパーティーをしよう！」

地域の人に手伝ってもらいながら育てた野菜でカレーパーティーをする

年中、年少の子たちとも一緒に食べてもらう → みんなが食べられる具材を考える(取材)

おいしいカレーを作るために「隠し味」の研究

招待状づくり、会場の飾りつけ、買い物 自分たちでやりきる喜びを感じることができた

野菜の皮やくずはコンポストに入れて土に変える

意見交流から

- ・異年齢との交流や、地域の人との関わりがふんだんにあって、これまでになかった活動になっている。
- ・自分たちで考え、自分たちで行動して「やりきる」喜びを実感できた活動になっていると思う
- ・ESD との関連はもっと絞った方がどういうところを目指した取組なのかがはっきりしてくるのでは。

【ルーム2】 ファシリテーター：阿部友幸(山形県立上山高等養護学校)

1)浅野稜太先生(千葉県立柏陵高等学校)

高校3年 外国語科「各地の災害とつなげる、地元千葉県の災害について」

導入：世界遺産ベニスと巖島神社の写真を見せて、共通点を考える→水害がかかわっている

その後、英文の読解など、早足になってしまった。

自分たちにできる水害対策は？

外国人でも分かる、ハザードマップの作成、防災カード(被災時に役立つ英語のカード)の作成

ハザードマップは時間がなくてできなかった。

授業後、徐々に意識が薄れてしまっているところがある

意見交流から

- ・目標は外国語の目標にはなっていないのではないか。
外国語をベースにした上での総合などであれば、このままでもよいのでは。
- ・単元展開は良いと思う。いかに英語に寄せるかということが重要ではないか。
- ・英語の単元の指導例の言葉をもっと使えば、教科に寄せられるか。
- ・奈良県の王寺町は大雨が多い。ALTは英語表記が周りになくて困ったということもあった。
- ・地元の千葉県の川の様子について、英語の学習で活用するのはとても面白かった。
- ・「伝える」ことが大事。誰にどう伝えるか。防災カードより、ハザードマップを描いたりする方がよいなら、指導案は理想形に書き直してよい。
- ・実際に外国の方とつながって発信するなど、外部資源の活用も考えてみてはどうか。

2)吉田宏先生(奈良県立磯城野高等学校) 高校1年 理科(生物基礎)「生態系とその成り立ち」

生徒は理科嫌いが多いが、授業で興味を持つ子も多い。勉強の仕方が変わる子もいる。

「農業」の授業も同時進行で関連させながら実践している。

自分事として捉えるようになってきた。

どうすれば環境にやさしい農業ができるか、よく考えるようになった。

消費者のことも考えた農業も考えている。

農業クラブ活動(教科の農業の中に位置づけられている)

意見交流から

- ・農業は、環境に配慮することが大事ではあるが、仕事であるからには、生業として成立しなければな

らない。生業として成立する農業のあり方にも言及しても面白いのでは。

- ・身に付いた資質能力について具体的に述べられるとさらによい。
- ・農業と理科の連携は、実際に学校でするのは難しいこともあるが、その一例を知ることができてよかった。
- ・授業者が理科も農業も担当していたからこそそのカリマネが成立していた。異なる教員でそれらの授業を担当したら難しさもあったかもしれないが、実践の発信を校内外に行うことを続けることで、周りも賛同し、ESDの取り組みがしやすくなるのではないか。
- ・賛同する人が増えるといいが、誰かが困っているときにESDの観点を踏まえて話ができると仲間が増えていくのではないか。
- ・ESDについては、管理職を味方につけてやるとやりやすい。
- ・先生たちの負担感なくできることを強調して伝えるとよいのでは。

3) 富樫智子先生(山形県立鶴岡中央高校)

高校2年 総合的な探究の時間「先輩から学ぶ 自分と社会のつながりを考えよう」

外部の人に対しても、自分の意見を堂々と伝えてほしい

ゲストティーチャーを招いて、そのかわりを通して社会や職業について考えてほしい

生徒たちは地域への関心が薄い

夏休み中にインタビュー活動

地域で活躍している人をゲストティーチャーに招いて話を聞く

ゲストティーチャーの話をまとめ、自分が社会にどう貢献するか考える

意見交流から

- ・どんな人にゲストティーチャーで来てほしいか。
→これまでは自営業の人を招くことが多かったが、生徒が親近感をもてるように、市役所で働きつつプライベートでバンドをしているような人を招きたいと思っている。
- ・鶴岡から離れる生徒が多いという話があり、それに迫る活動があってもよいかと思った。鶴岡にいてもできること、地元の良さなどに関連付けられないか。鶴岡に住んでいる海外の方に話を聞くのも楽しそう。
- ・SDGsの「住みやすい街づくり」との関連で、どんな街に住みたいか、自分はこの街のために何ができるだろうかということから考えることもできるか。
- ・例えばサッカー選手であれば、競技だけでなく、仕事として社会貢献していることなどにも触れると、社会とのつながりを意識しやすいか。

【ルーム3】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1) 瀧村尚也先生(麗澤高等学校)

高校1年 地理総合「日本の自然環境と防災:東日本大震災から考える防災と共生」

東日本大震災で大きな被害を受けた福島を題材として学ぶ。

すでに高校一年生にとっては教科書の出来事となっている。

福島を題材とすることは、「環境学習」、「エネルギー学習」、「世界遺産や地域の文化財等に関する学習」、「国際理解学習」、さらには「気候変動」や「生物多様性」にも関連する学びを創ることができる単元は東日本大震災について概要を学び、自然災害と共生していく方法を学ぶ学習。次の単元として、

魅力的なまちづくりプランを考える授業につなげていく予定。

この次単元とセットで考えるとより行動化まで含めた計画となるのではないか。

2)真柴さなえ先生(愛媛県松山市立勝山学校) 中学校1年 総合的な学習の時間「地域に生きる」

身近な地域で去年起こった土砂災害時の経験を活かして取り組んだ防災の授業

災害時の行動を考えるマイタイムラインや避難地図(逃げ道マップ)を作成したり、防災街歩きをしたり、地域の方や家族に紹介したりした。

ゲストティーチャーは市がいくつか紹介してくれているので、そこから選んで招聘することができた地域の活動について知るというのは自分事として捉えやすい

活動が揺れているようにも思える。活動は子どもそれぞれがそれぞれに気づきを得ていく。その差をうまく使って活かすような、振り返りの時間を上手につくっていくことが大切だ。

3)濱岡桜さん(NPO 法人 NELIS)

高校2年 総合的な探究の時間「パレスチナ問題から考える世界と日本の関わり」

国際問題の一つであるパレスチナ問題について、歴史的背景や宗教、経済、国際社会のかかわりなどを多面的多角的に探究する。

高校生が調べたいと思えるかどうかポイントになる。

パレスチナ問題は生徒との距離が大きい。生徒たちとパレスチナとの関りがどこにあるのか、そのつながりを見つけておくことが大切だと思う

【ルーム4】 ファシリテーター：中村友弥(奈良市立朱雀小学校)

1)中村文子先生(奈良市立西大寺北小学校)

小学校5年 音楽科・総合的な学習の時間「ちいきにつたわる音楽に親しもう」

単元の段階	内容
みつめる	日本各地に「おどりや舞」があることを知り、興味のあるものを調べ、紹介文を作って伝え合う。(ソーラン節、阿波踊り、神楽など)
しらべる	奈良市に伝わる「おどりや舞」は何かを振り返る。「おんまつり」について、おどりや舞のイメージがわからないという課題を認識する
ふかめる	ゲストティーチャーとして南都楽所さんを招き、舞楽、舞について衣装や踊りのインタビューを実施する。
ひろげる	インタビューしたことを参考に発信し、舞楽や舞のインフルエンサーになろうとする。校内だけでなく、カンボジアに向けての発表を目指す

意見交流から

- 音楽専科であるため、学年をまたいだカリキュラム編成や多様性を取り入れる提案。
- 日本各地の祭りから奈良市に焦点化し、カンボジアと交流するまでのプロセスが重要である。
- 音楽を通じた文化的な交流に価値を見出すことや奈良の伝統的な教材の魅力が感じられる。
- 実際の国際交流における言語の壁や打ち合わせの課題解決として「やさしい日本語」の活用をしたい。
- カンボジアの学校では学習指導要領がなく、学校で学ぶことを決められる。

2)大東実穂先生(奈良市立西大寺北小学校) 小学校6年 家庭科「すずしい住まい方で快適に」

単元の段階	内容
みつめる	夏の過ごし方を振り返り、健康に快適に過ごすことができていたかを検証し、課題を見つける
しらべる	夏を快適に過ごす方法を、お家の人へのインタビューやタブレット調査、動画視聴、実体験を通じて理解を深める
ふかめる	ゲストティーチャーを招き、日本の文化や地域の話聞く。平城宮跡の荻や葦を使い、すだれや室外機カバーを作り学校に設置する
ひろげる	昔からの自然素材を使うことは環境にもやさしいという視点を発信する

意見交流から

- 計画停電など電気が使えない状況下での「すずしい住まい方」への問いかけが大事。
- エネルギーの問題は、子ども国会で興味関心を持っていた内容と関連付けできる。
- 室外機のカバーを作る目的が、なぜ冷房機能の低下を防ぐためなのかという「なぜ」を大切にすることが必要性。
- 日本の「昔の知恵」を活用する視点の重要性。

3)掛川良治先生(千葉県八千代市立睦小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間「SDGs プロジェクト ～みんなで考えよう世界のこと～」

単元の段階	内容
みつめる	SDGs スタートブックやサイトを活用して、SDGs のテーマを決める
しらべる	「ユニバーサルデザイン」「地域をきれいにする活動」「アートと活動の融合」「分別ボックス」など、いくつかのグループに分かれて活動する
ふかめる	児童の働きかけにより車椅子1台が寄付される。分別ボックスの設置、アート作品としてのペットボトルツリーの制作・展示を行う
ひろげる	地域のバザーでの発信や、地域の方の協力を得ながら、シンガポールと持続的に交流する

意見交流から

- 子どもたちが SDGs スタートブックを通じて「ごみ」にたどり着いた流れ（地域のごみのポイ捨てが多い様子を児童が観察したこと）が具体的に確認されました。
- アート活動が文化的な手法として評価される。
- 見せかけの SDGs だけでなく、子どもの行動変容を大切にしたい授業づくりの重要性。
- 教員の指導や子どもの活動の「足跡」をより詳細に残す指導案に。
- ユニバーサルデザインの活動で、児童が行政を動かし、車椅子が寄付された経緯がすばらしい。
- シンガポールとの交流は、語学留学のような形式で継続している。

【ルーム5】 ファシリテーター：新宮済（奈良女子高等学校）

1)吉田剛先生(茨城県つくば市立竹園東小学校)

小学校3年 総合的な学習の時間「竹園のまちのたからもの～地域のまつりを調べよう～」

「まつりつくば」を教材として取り上げる

筑波市は、先住民（昔から住んでいる人）と新参者とで構成されており、両者の軋轢が生じている

そのため、両者の交流を深めることにつながる実践にしたい

- ・つくばはAI活用が推奨されている。
- AIも大事であるが、人との出会いなども重要なのではないか？
- ・調べ学習を3回行う。調査方法として、自分の親への聞き取り、インターネット
 - ・昔から住んでいる人をGTに招き、人と人のつながりが疎遠になっているということをお話していただく。
 - ・間が開いたことで、筑波の未来を考えたいという方向性に変化し、想定していた先住民と新参者の軌轢という課題解決から逸れたことが課題。
 - ・ウェルビーイングを重要視している。→様々な立場の人々とのつながり
「つくばの未来を考える」を、「つくばの未来を考えきた人」に焦点を当てることで軌道修正は可能なのではないか。

2)長江昂大先生(大和郡山市立片桐西小学校) 小学校2年 生活科「とびだせ!町のたんけんたい!」

- ・人とのつながり濃いことは良いが、そのつながりが当たり前であるからこそ、良さに気づけない人が多い。
- ・町探検で、我がまちの良さを発見し、自分自身も町の良さをつくっている一員になることを目標としている。
- ・生活科だからこそ、児童の個人的な意見を大事にした方がローカルな学びに変わっていくのではないか。

3)中谷栄作先生(和歌山県橋本市立高野口小学校)

小学校4年 総合的な学習の時間「信太大好き!思い出の祭をとりもどそう!」

総合的な学習の時間を一から作るために、地域を巡った

しかし、児童の関心は、児童の数人が住んでいる信太地域であった。信太に実際に行ってみる。

「信太のことをもっと知ってほしい」 「信太ゴッドフェスティバル」の開催に向けて

「自律・協働・利他」を柱に

【ルーム6】 ファシリテーター:圓山裕史(奈良市立伏見小学校)

1)植木凡子先生(東京都白百合学園小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間 「伝統の心を受け継ぐとは~建学の精神を知る~」

みつめる 自分はどんな6年生になりたいのかを考える

しらべる マ・スール(修道女)の話をきく

ふかめる マ・スールの話を聞いて自分の考えたこと、感じたことをまとめる

ひろげる 学んだことをもとにステンドグラスを作ったり、他者に伝える活動をしたり、校歌の3番を子どもと一緒に考えたりしてみる

- ・建学の精神をもとに、子どもたちにマ・スール(修道女)の話を聞いたり、関わったりすることで様々な考えに触れ受け止める力と自分の中で学んだことをかみ砕いて実践できる力をつけたい。
- ・昔と今の「建学の精神」の違いに触れて、様々な考え方があることを知り、共有するだけでなく活動に繋げたい。

意見交流から

- ・話を聞いて、自分たちで考える活動で終わるのではなく、他者に伝える事で相手意識を持つことができていて素晴らしい。
- ・マ・スールのお話を聞いて、自分にできる事や何かしたい事まで繋がると良い。また、それぞれの内面の変化を促す活動であるため、発信の方法も子どもによって変えればいいのでは？
- ・学校の精神をもとにした実践で素晴らしいと思いました。
- ・持続可能性を捉えなおし、見つめなおせるため他の教科にもつながるため良い実践である。

2)大浦侑唄先生(和歌山県白浜町立南白浜小学校)

小学校4年 総合的な学習の時間「白浜みらいプロジェクト」

「10年後の白浜をどんな町にしたいのか」を中心に据えている。

また、3つのプロジェクトに分けて取り組んでいる。

K(環境)プロジェクト・D(伝統文化・産業)プロジェクト・B(防災)プロジェクト

1学期 地元の環境について調べ、話を聞き、新聞にまとめた

2学期 伝統文化・産業を引き継ぐために、地元の伝統や日本各地の伝統を学んだ。そこで学んだことを、HPにまとめた

3学期 自分たちの町は、学んだことと照らし合わせると地震や津波の被害が大きくなる予想ができる。そのため、地域の取り組みを知ること自分たちにも出来ることを模索している。

防災について学ぶことで、「おびえるのではなく、安心してらせる」ように自分がどのように行動するのかを考えさせたい。

意見交流から

- ・3つとも素晴らしい活動ではあるが、どれか一つのプロジェクトに絞って指導案を作成する方が、内容や視点が散らばらなくてよいと思う。
- ・子どもの価値観や行動の変容を防災の活動を通して促している為よい取り組みだと思う。
- ・保護者と学校は連携しながら防災学習を進めているのか？
→事前アンケートで防災バックを準備しているのか、防災意識の高さを聞いている。

3)鈴木郁香先生(千葉県柏市立高柳小学校) 小学校4年 総合的な学習の時間「SDGs 探究」

○SDGsの目標に照らし合わせ、社会課題の本質を捉えられる様々な活動を目指している。

・地域のごみのリサイクル・分別に注目をした。

・地域の方が、ペットボトルを集めて、イルミネーションツリーを作っていたため、4年生がペットボトルを集める作業を手伝った。

○様々な活動を通して、日常とSDGsを繋げたいと思っている。また、世の中の課題と学習内容が繋がっていることに気づき、行動をして、それらを広げられるようにしたい。

意見交流から

- ・子どもたちは、土日に開催されるツリー作りに参加するのか？
→習い事などがあり、参加率はよくない。
- ・まだ、それでは他人事で終わっている。自分たちで何かを作る活動を通してさらに学びを得ることができて学びの深まりにもつながる。3学期の6年生を送る会などで活用しては？

- ・ ツリーを作り終わった後の処理にまで考えが及んでいなかったため、その後のことを考えさせることが大切である。
- ・ SDGs について学ぶなら、教師が細かいプランを持っておくといい。
- ・ 既習事項を活かして、校内の課題に目を向けることも SDGs の学習において有効である。

【ルーム7】 ファシリテーター：藏前拓也（王寺町立王寺北義務教育学校）

1)高山翔伍先生(王寺町立王寺北義務教育学校)

小学校6年 総合的な学習の時間 「平和の思いを未来へ～戦後80年の平和学習」

- ・ 8月6日に広島へ行った際の式典の準備風景を取り上げ、その様子を子どもたちに伝えてから単元をスタートさせた。
- ・ 1学期に行った、遺跡巡り(町観光ボランティア)時のエピソードから広島での平和学習につなげ、研修旅行から帰った後、王寺町の戦争体験者からお話を聞く
王寺→広島→王寺(奈良)のことを扱う

意見交流から

- ・ 王寺町の戦争体験者と先生自身が出会い、そこから子どもたちとも出会わせたことに価値がある。
- ・ 平和式典の準備から扱ったのがよい。自分も何度か式典に足を運んでいる。お参りをされている方からお話を聞くと、より切実に受け止めることができる。
- ・ 「平和教育を問い直す」という書籍がある。被害―加害―抵抗―加担などの立場を構造的にとらえさせることが大切。
- ・ 5年生で学習した国語科の「たずねびと」を6年生になってもう一度読ませた。川に着目する児童が多かった。
- ・ 平和学習のまとめを低学年の子どもたちにも分かりやすく伝えるのが難しい。伝え方を工夫する必要がある。
- ・ 生駒の遊園地、人を楽しませるものが、飛行搭は戦争につながっているものになる。
- ・ 自分の親戚に、王寺町に住んでいて、赤紙をもらって戦死した方がいる。何かお役に立てるお話や資料を親族から提供できるかもしれない。

2)中川純一先生(生駒市立俵口小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間 「みんなが安心安全に住み続けられる暮らし」

- ・ 福祉の学習を進めるうえで、人の営みや温かみを感じられるようにしたかった。
- ・ 福祉の新たな視点、単に社会的弱者のインフラのためでなく、同等の関係、ネガティブからポジティブに変えるように本質をとらえて展開できるように心がけた。
- ・ 「赤い羽根共同募金」の取り組みを導入に活用した。また、優先座席の長所と短所も考えさせる教材にした。(優先座席があることによって、生まれぬ優しさ)
- ・ 手話、点字、車いすなどの体験学習に力を入れた。
- ・ 福祉を支える方、車いすバスケットの日本代表選手等の出前講座を充実させていく。
- ・ 単元終盤の課題設定、福祉を「生かす」とはどのようなことだろうか。は適切か。

意見交流から

- ・ 福祉の学習は、車いす、アイマスク体験など、やっておわりになりがちだが、出前講座を入れるなど、単元の学習が充実している。

- ・本質にせまる部分で、どうしても健常者が障がい者を見下してしまうような姿勢（助けてあげる）になってしまう。配慮されているものを悪用したり、不本意に扱われたりしている事例を紹介するのもよいかも。
- ・優先座席を取り扱うのが面白い。以前、阪急電車が優先座席をなくしたが、結局もとにもどるエピソードがある。
- ・優先座席の個数や場所は昔から変わってないのはなぜ？高齢者は増えているのに。というようなことを取り上げて面白い。
- ・思いやりと心遣いは違う。思っているだけでは伝わらない。行動化を促す。
- ・社会的弱者＝不幸 ではない。
- ・福祉は、社会全体の仕組みや取組のこと、健常者も障がい者もみんな公平でなければいけないという視点。
- ・福祉をハード面にとらえているのは、教材の魅力的なところ。福祉のマイナスをゼロに、フラットにだけで終わるのではなく、プラスにかえる。すべての人にとって平等で、公平なものと豊かに捉えられるような態度を育めるとよい。

第10回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2026年1月20日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：41名

◇内容：学習指導案の相互検討③

【ルーム1】 ファシリテーター：阪本さゆり（奈良保育学院）、長谷川かおり（奈良教育大学）

1) 荒井梨菜先生(奈良教育大学附属こども園) 3歳児 「ひつつき もつつき」

6月実施 自分から「〇〇したい」と園の生活に意欲的になってきた時期

どのようにしたら上手く引っ付くことができるか考えながら遊ぶ

歌やリズムに合わせて体を動かしながら、友達や保育者と触れ合う活動

どこをくっつけるか（手、背中、足の裏など）を子ども自身が自由に考える

くっつく部位を少しずつ難しくすることで、遊びが発展し、挑戦する気持ちも引き出せる

ふれあいの楽しさ、他者との関係の心地よさ

意見交流から

- ・3歳児の親子活動にはとてもいい活動だと思う。（特に初めて子育てされる親には）
- ・恥ずかしがって積極的に自分から行けない子はいないのか？
→3歳の6月でここまでできるのは、2歳児から進級している子が核となっているからかも。
- ・折に触れて1年中やってもいい活動だと思う。
- ・ふだんの保育をESDの視点で見たときに、「ESDとしての保育」が見えてくる。

2) 川井桃佳先生(滋賀県草津市立老上こども園) 3歳児 「おがくず粘土で遊ぼう」

米粉粘土、もち粉粘土、油粘土を使った遊びを経験してきている

おがくず粘土で遊ぶことで、今までとは違った感触、匂いや味わいを楽しむ

何度も形を変えて遊んでほしい 作品は作品棚に飾れるようにする

しばらくすると固まるので、その不思議さを感じてほしい

おがくずという不要なものも生活に生かすことができる（再資源化）

意見交流から

- ・おがくずに水のりを混ぜる。（混ぜる分量が難しい） 販売されているものもある。
- ・小麦アレルギーの子がいて、小麦粉粘土ができない。→ おがくず粘土を見つけた。
- ・計画では8時間だが、途中をスリム化すればもう少し短い時間でできるかも。
- ・おがくず粘土はあまり知られていないので、教材についてのところに説明してほしい。
- ・粘土のなる前のおがくずに触れる活動も大事なのでは。そこは入れたい。
- ・おがくずができる工程があっても。（木を切る、穴をあける）

【ルーム2】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1) 鶴木明日香先生(福岡市立室見小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間「チャレンジマイドリーム」

キャリア教育の指導案。

自己理解を深めることを通して、自分らしいあり方や将来の生き方を考えることをねらいとしている。実際に社会で活躍されている人（企業）や保護者（おやじの会）の話聞き、働くことの楽しさや難しさなどを学んでいく。キャリア教育においては自己理解がとても重要になると思われる。それを踏まえて、これからの在り方を考えることになるので、自己を振り返る時間を設定することが重要だとの意見があった。

また、ネット上で利用可能な「職業診断」を使用することについて、質問に答えていく過程で自分に対して改めて問い直すきっかけとなる一方で、自らキャリアをつくっていくのではなく、他者に適・不適を判断されることから利用には十分留意しなければならないことが話された。

2)丸山清史先生(三郷町立三郷中学校)

中学校 道徳（自然愛護）『ソーセージ』の悲しい最期』

観光客の安易な行動で人馴れし、街に出てくるようになり、最終的に駆除された通称「ソーセージ」と呼ばれる熊のエピソードを通して、持続可能な社会の形成に関する私たちの行動について考えさせる。ふとした人の行動が野生生物にどのような影響を与えるのか、知らないことが怖いことであり、正しく知ることが大切であることを感じさせたい。

そのための手立てとして、単元の導入において、近年のクマのニュース、アーバンベアの問題について考えさせることで、自分も生物との共存を妨げる要因をつくり出しかねないことを気づかせることもよいのではないかとの意見が出た。

1 主題 1 時間ではなく、2 時間計画の道徳であるが、2 時間目に野生生物との共存ではなく環境問題に展開しているので、1 時間目をふまえた野生生物との共存について深める 2 時間目にするという代案が出された。

3)加地優太さん(数学教育専修3回生)

中学校1年 総合的な学習の時間「ふぞろい野菜から見るフードロス」

不揃いであるだけで廃棄される野菜に着目し、フードロスの問題を考える授業案。

フードロスの問題は日本ではとても重要なテーマであり、良い視点だと感想が出た。

また食品の購入は中学生が日常的にすることではないので、自分たちが学ぶだけでなく、保護者や地域の方に見てもらふ機会を設定していることは良い取り組みであるとの感想が出た。

意見としては、ゲストティーチャーとして農家やお店の方に話を聞く場面もあるので、野菜を使ったフードライブについて取り上げるというアイデアも取り入れられるのではないかとの意見が出た。

また、不揃い野菜が廃棄するのは農家や商店であるが、なぜそれらが廃棄されるのかを追究していくと、消費者が選ばないということ、つまり自分たちの考え方を改善していくことが必要であり、自身の生活スタイルや価値観をクリティカルに捉え直しさせることが重要であるとの意見が出た。

【ルーム3】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1)勝田南美(国語教育専修3回生)

小学校6年 国語科「古代に生きた人々といまに生きる私たち～『古事記』のなかの人と自然～」

教材観：『古事記』日本最古の書物であり、自然現象と人々の暮らしを物語として継承しているものであるという説がある。その『古事記』から新たな教育的価値や可能性を探ることができるのではないか。

取り上げるのは、「天の岩戸」と「ヤマタノオロチ」。「天の岩戸」は太陽が隠れるという自然現象に対して、神様の仕業として、舞や雅楽の奉納などで祈ったり、お祭りをしたりすることで向き合っていた。「ヤマタノオロチ」は洪水という自然災害に対しての対応としての話である。

そういった話に触れ、現代の自然災害や環境問題について伝えるような物語をつくる。物語を作る際には、個人では難しい児童もいるだろうという考えから、グループ活動にしている。

意見交流から

- ・国語科として物語はもちろん、漫画や絵本などでも「表現する」ということが大事である。
- ・他教科ともつながっていていいが、「神様」という話で宗教的な見方をされる心配。→宗教教育とはならないように配慮する。また、昔話として神様が出てくる程度であり、宗教教育ではないと返せるのではないか。
- ・小学校6年生の教科書に『古事記』が取り扱われているのか？→現行の教科書をすべて確認していないが、6年生の教科書にはなく、低学年で「いなばの白うさぎ」はあるのではないか。
- ・人と関わらせたいという思いから、ゲストティーチャーから学ぶ時間を設定されているが、国語科としてではなく、総合的な学習の時間として行う方がいいのではとも発信として、災害対策センターの人に見てもらったり、地域の幼稚園などに読み聞かせたりといった方向もいいのかもかもしれない。

2)黒柳新奈さん(英語教育専修4回生)

高校3年 総合的な探究の時間「私たちの身の周りにおける差別や偏見」

自分の留学時のいじめや差別を受けた経験から、このような実践を行いたいと考えている。

トランプ大統領の性別に関する発言を取り上げたり、身の回りにある差別的意識や偏見について当たり前と思わずに考えたりすることをスタートとし、国や性についてなど偏見や差別の意識が生まれた原因について考える。さらに実際にいじめや差別を受けた人へのインタビューを通して、今後の課題について自分たちにできる活動を行動化するところまで持っていきたい。

意見交流から

- ・アメリカ留学時の実体験を差し支えなければ聞きたい。→アジア人差別と思われる態度や、同じ留学生からも嫉妬の感情からと思われるいじめを受けた。
- ・実習時に現状を受け入れてしまっている高校生と感じたのはどんなことがあったか？→道徳の人権的な内容の授業の中で、「おかしい」と思うようなことが生徒からなかなか出てこず、女性専用車両などの具体的な例を出してあげないと出てこなかった。意識下で現状を受け入れてしまっていると感じた。
- ・自分も日常の中で偏見をもっていたり、悪気なく発言したりしていることもあると思う。そういった日常の中にある偏見に目を向けることが大事なのではないかと思った。
- ・自分がされた時の対処も学べるといいなと思った。

3)詫間菜月子先生(福岡市立小呂小中学校) 中学校1年 理科「溶解度と再結晶」

対象学年は女子生徒2名であるが、友達と一緒に考えることを「楽しい」と感じており、いろいろな考え方を共有できることにメリットを見出している。互いに観察・実験中には声を掛け合い、「ともに学ぶ喜び」に重点を置いて行いたい。

塩化ナトリウムと硝酸カリウムの再結晶化が温度によって結晶の析出の仕方が違うことに気づき、溶解度のグラフを読み取ることで考察する。そして日常生活との関わりの例として、食塩などの食卓にある物質や精製所の動画を用いて紹介する。

意見交流から

- ・海水から食塩を取り出すこと自体は生活に関わってくるが、小呂島の日常とつなげるために工夫が必要なのではないか。例えば海水から結晶化させた塩の結晶と塩化ナトリウム水溶液から取り出した結晶を見比べて、後者はきれいな四角形であるが、前者は他にもいろんなミネラル分を含んでいてちがう形になることや、小呂のきれいな海からとれる天然塩にはどんなミネラル分が含まれているのか、他地域との違いはあるかなどを見ていくことで、小呂の海に目が向き、自然環境の保全に意識が向くのではないか。
- ・2名でもお互いの意見交換を大切にしているのがいい。SSH である青翔高校でもそれは同じように大切にしている。

【ルーム4】 ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1) 芝田椋伍さん(社会科教育専修3回生)

中学校3年 社会科(公民的分野)「現代の民主政治」

- ・選挙の歴史：教科書等を用いて選挙権獲得の歴史を学ぶ
選挙についてのイメージを交流する（プラスイメージ・マイナスイメージ）
なぜ、選挙が必要になったのか。
多数決の原理、少数意見の尊重など選挙が民主主義を支えるものであることを理解する
- ・選挙について調べる→グループ発表
日本の選挙の実施方法と関係する法律
選挙の海外との比較
- ・模擬選挙の開催：奈良市の市長を決める模擬選挙を実施する
生成AIを用いて、3人の候補者の主張を準備する
今の段階で自分の考えや価値観にあう候補に投票する
- ・模擬選挙の振り返り
なぜその候補に投票したのか意見交流する
- ・選挙の現状を知る→低下する投票率
より多くの人投票するようになるには社会科が変わらなければならない
→自分たちにできること
→自分が取り組んでいきたいことを「行動宣言」にまとめる

意見交流から

- ・政治教育で公平性を担保するのは難しい
- ・生成AIで候補者の主張を作成するのは面白い。ただ、プロンプトの出し方に注意が必要
党名は出さない どのような市にしてほしいのかをアンケートしてみるのもいい
- ・11月に実施する生徒会選挙と関連付けてはどうか
- ・最近の子どもには選挙に興味のある子が多い傾向にあると感じる。大人世代とズレがある。

2) 作見優樹先生(福岡市立小呂中学校) 中学校1年 数学科「データの活用」

小呂島の水道使用量を教材に、身近な水の使われ方への関心を高めるとともに、データを度数分布表に整理する学習を通して、データを読み取る力や考える力を高める。

- ・ルーラーキャッチを通して、2つのデータを比較する方法を学ぶ

どちらの記録が反応が速いといえるか

着目する数値：最大値，最小値，範囲，分布の理解

- ・度数分布表への整理

階級値について学ぶ、ヒストグラムや度数折れ線を書き、データの傾向を読み取る。

- ・相対度数，累積度数，累積相対度数について学び，2つの集団の傾向を比べる

「相対」と「比較」の結び付け

「割合」や「蓄積」の意味を理解し、データを「数」ではなく「割合」「範囲」として捉える。

- ・実験を行い、確率の必要性和意味を理解し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取る。

- ・スプレッドシートの使い方を学ぶ。

- ・「令和6年度小呂島地区簡易水道配水量年表」から、浄水量と生産水量，配水量に着目し、月毎のヒストグラムを作りデータの傾向を読み取る。

- ・他の情報の収集・整理を行い、読み取ったことを説明する。

意見交流から

- ・小呂島という離島における水使用量の教材化は、身近であるとともに切実感がある。

- ・生徒が2名と少ないので、福岡市のデータと比較するのもいい。

- ・生徒の反応は予想通りであったか。

海水から作る水と雨水から作る水があるが、1～3月は少雨であった。→ 節水の張り紙の活用
節水の張り紙から単元に入るのもよいのでは

3)小南舞桜さん(社会科教育専修3回生)

小学校6年 総合的な学習の時間「白樫ニュータウンの未来」

白樫児童センターの歴史からまちの移り変わりを把握する

白樫南幼稚園 → 白樫南小と北小の統合・児童センターへ → 子育て支援センターへ

1967年から団地開発が始まる。児童数の増加 → 人口減少

今後も人口は減少し続けるかもしれない

- ・白樫ニュータウンの未来を予想しよう

北小と南小が統合し、白樫小学校になったときに、新しい校歌がつくられている。

校歌に込められた意を読み取る。

校歌の歌詞に入れたいフレーズを白樫北・南小学校の児童、白樫中学校区の住民から募集し、参考資料として使用し、それをもとにした歌詞を白樫中学校区出身者から募集した。作曲は奈良教育大学学長の宮下俊也氏が手掛けた。

- ・町を大切に思う心を育てる。

- ・住み続けることができる町にするために自分にできることを考え、行動する。

独居老人との交流、子どものお祭りを企画、団地に絵を描いたり、飾ったり、夏祭りの花火大会など。

意見交流から

- ・発信が大きすぎ、外部との交渉・連携の労力が大きすぎる。単発的なイベントだけでなく、地道な活動を考慮する。

- ・新しい校歌を導入で紹介し、歌詞に込められた願いと現実を比較するために、足を使った調べ学習ができる。そのうえで、地域社会の課題や価値を把握し、自分にできることを考えた方がよい。

【ルーム5】 ファシリテーター：阿部大輔（山形大学教職大学院）

1) 上園弘太郎先生(鹿児島県鹿屋市立鹿屋小学校)

小学校5年 総合的な学習の時間「わたしたちの食といのちをつなぐプロジェクト」

- ・5年生の米づくりについての実践。地域の食べ物や学校の給食がおいしい。
- ・上園先生の悩み、課題 → アイデアはいろいろあるがうまくできないこともあること。
- ・みんなちがってみんないいという認め合える雰囲気がよいところではあるが、みんなが同じことをできない、集合できないといった子ども達の一面もある。
- ・米作りを通して地域の方から思いを聞く。農業高校の米づくりの工夫を聞く。その中で学んでいく。
- ・代掻き体験 タニシ 五感で気付き 稲が生長 ジャンボタニシに食べられているから何で農薬を使わないのだろうという思いを子どもにもってもらいたいと考えた。
- ・農業高校の生徒から学校に来てもらい、授業をした。虫やカナヘビの餌がなくなる、農薬をつかわないことは環境を守ることに繋がるという話をしてもらった。
- ・保護者には農薬つかってもいいと考える人もいるため、一方的な否定にならないように気をつける必要がある。
- ・高校生の探究について知ることができた。藁 燃えたら地球温暖化につながる あまった藁で何か作れないかな
- ・収穫後 子ども達は食べ比べをしたい。おいしいという感想が欲しかったが、お米が焦げてしまった。あんまり味変わらないじゃないか。だったら無農薬の米は味が変わらないのに値段が違うのか。
- ・売れ残り。どうやったらお米の魅力を知ってもらえるのか。ポスターでしらせる。

KANOYA RICE EXPO (おにぎりパーティー)

意見交流から

- ・米農家さんの実際を知ること、次の世代に米作りを繋いでいくのかを考えることができる
- ・先祖代々の歴史を知ることができる。
- ・後継者の話 結果 無力感で終わってしまう 進路にもかかわる
- ・最後はどうするのか → 最後は「食べる」でしめたい 保護者 地域の人を食べる
「食べる」で終わらずに 地域の人にも伝えたい それをかねての発表会
- ・カリキュラムの組み方が難しい
一連の流れ 総合化へ なのはなプロジェクト できること 企業 観光

2) 齋藤夢月先生(山形市立第十中学校) 中学校2年 総合的な学習の時間「町づくり 福祉」

- ・社会人って何？を子ども達と考える
- ・ゲストティーチャー 自分が選んだ講師の話を聞く
- ・未来のことについて考える SDGs と社会人って何？へ
- ・山形版のSDGsカードの使用
- ・総合学習 なかなか時間がとられていない 学年200名 行動化は難しい
→特活に絡めることでできることがあるのではないか
- ・体育祭 誰でも楽しめる種目 自分たちで0から作る それで終わらずに SDGsのゴールとどのように絡んでいたか。1度行動化した後に社会人講話を設けるようにした
- ・テラステラス ポーチェ 医療的ケア児 地域の居場所 現在建設中 それにかかわる
- ・地域に触れ合う お互いに大事にしたいことがマッチングする

- ・山形ユース基地をつくろう 中学生の居場所にするためにはどのようなことができるだろう
- ・生徒会選挙 自分達の生徒会活動をSDGsに絡める 当選 生徒会の取り組みとして何かできないか

意見交流から

- ・具体的にどんな取り組みをしているのか
→体育祭 実行委員 どういう種目になったのか アイシェード 多種目 自分たちで考える 目が見えない人
足が不自由な人も楽しめる 社教から借りてきた 問いが連続している 子ども達がこう思うかなあと予想していた 行動化 高校生と絡んだ 今は点 いつから線 面になるのか
- ・生徒会執行部だけでなく、全生徒を巻き込むためにとった取り組みがあるのではないか
→各クラスから2人選出し、運動会についての話し合いを進めた
- ・ESDの見方・考え方、価値観の項目を多く掲げているので、あえて焦点化し、ねらいを絞ることでフィールドを狭くすることで学びを深められるのではないか
- ・学生目線でこのような職業についての話を聞くことができる機会が中学校時代に経験できることに価値がある

3)山下恵さん(音楽教育専修4回生)

小学校第3学年 理科「音を作る、未来をつなぐ ―グラスハーブで広がる音とものひみつ―」

グラスハーブ 水に入れる量によって音の高さが変わる

振動 小学校3年生 ものが震えているという感覚

資源に着目させ、プラスチックのグラスをあつかうことで 大切に扱うことにも気づかせることができるのではないか

音楽的な視点 1人一音 合奏 大きな栗の木の下で 水不足 入れ込んだ ドレミファソラシド全部の音が出る

単元の前半は理科、後半は音楽で考えている 5限目から音楽 歌を歌う 音のチューニング 体験を大切にしたい ジュース 牛乳 プラスチック 炭酸 なんてこうなった

意見交流から

- ・理科と音楽を扱うことが魅力的。
- ・スムーズな流れではあるが、どっちメインでもっていいのか悩んでいる。
- ・社会のゴミについても扱えそう。
- ・教科横断型 理科 音楽 枠組みをつくるのが悲しい。
- ・生活の中から子ども達が自然と入っていける。
- ・ゲストティーの活用
- ・「理科やってたら音楽だったら」はおもしろい。 あえて教科を決めずに実践してもおもしろそう。

【ルーム6】 ファシリテーター：大西浩明（奈良教育大学）

1)溝田友気先生(福岡市立小呂小中学校) 中学校1年 社会科(地理分野) 「北アメリカ州」

「大量生産・大量消費」に気付かせたいが、島の子にはイメージできない

経済発展と環境問題に関する視点を、身近な大国アメリカを題材に考えさせる

便利さとともにデメリットがあることに気付く → デメリットを減らす方策を考える

「アメリカ型社会」の持続可能性と改善案について考える

意見交流から

- ・グローバルな視点での「豊かさ」に気付かせるのがいい。日本の公害問題にも通じる。
- ・「アメリカ=すごい」だけのイメージを壊せると思う。
- ・島との比較で考えさせているのが面白いと感じる。
- ・この学習を発展させて、総合で島おこしに取り組んでいる。カリマネで工夫したい。

2)高川妃美樹先生(福岡市立東吉塚小学校)

小学校3年 総合的な学習の時間「東吉塚探検隊『私たちと吉塚に住む外国の人々』」
外国の方が多く住む地域 「吉塚リトルアジアマーケット」地元の商店街
外国の方たちの困っていることは？ それに対して自分たちにできることは？
リトルアジアマーケットを作った方をGTに 「外国の方を助けたい、共生したい」
「愛和外語学院」に通う外国の方と交流
→ 日本語が難しい、ごみの出し方が分からない・・・ 自分たちが表現物を作成する
外国の方たちだけでいい？ 地域の人たちみんなとともに生きていくには？
「みんなが助け合う町にするためには、私たちにどんなことができるだろう？」

意見交流から

- ・人との出会いを通して子どもの考えがどんどん変容している。人との出会いが大事。
- ・学級に外国籍の子がいるのは当たり前なので、どう共生していくかが大事になる。
- ・外国の方への取組から、地域全体への取組に広げていくところが重要なのかと感じる。
- ・「助けてあげたい」も悪くないが、「いっしょに生きていくためには」という視点を大事にしたい。

3)金谷双葉さん(教職大学院 M2) 中学校3年 音楽科「世界をつなぐ音 -平和を伝える『鐘』-

合唱曲「HEIWA の鐘」(仲里幸広作曲) 「鐘」(ラフマニノフ作曲)を題材に
「HEIWA の鐘」なぜこのタイトルなのか、歌詞や曲想を手がかりに鐘の意味や役割について考える
身の回りにある鐘・・・チャイム、お寺の鐘など
東大寺の鐘、広島「平和の鐘」 鐘が時代や場所によって違う役割や意味をもっている
ラフマニノフの「鐘」鑑賞 鐘が文化や宗教、歴史と深く結びついている
「HEIWA の鐘」の歌詞を読み返し、自分たちの中にある「平和」について考える → 合唱発表

意見交流から

- ・鐘のもつ光と影の部分を考えるというのは新しい視点。合唱に生かせると思う。
- ・音楽の授業の中に様々な視点があり、教材研究の深さを感じる。
- ・ゲストティーチャーがどこかで入ると、さらに深い学びにつながるのでは。
鐘について新たな視点を与えてもらったり、広島の鐘の意味を教えてもらったり。
- ・鐘の響き一つで、勇気や畏れも感じる。聞いたときに何かしら感情が生まれる。奥深い題材。

【ルーム7】 ファシリテーター：中澤哲也(大和郡山市立片桐西小学校)

1)光延ひなたさん(家庭科教育専修3回生)

小学校6年 家庭科「災害時の食生活—自分たちが家庭や地域のためにできること—」

- ・防災クッキング、パンフレットを作成したい。

- ・パンフレットの目的は、学習のまとめとして自分たちでふりかえるのと、地域の人たちに配布して地域とのつながりを深めるようにしたい。
- ・調理はガス火を使う？ 実際には、学校ではプロパンガスがメイン。
- ・家庭科では啓発活動はいらない。目的は自分の生活に落とし込むことが大切。
- ・パンフレットではなく手元に残しておいてもらえるカードのようなものはどうか。
- ・総合とも十分絡められる。
- ・アレルギーに関しては、作るのと食べるのは別に考えてもいい。
- ・アレルギー成分も一緒に考えられるようにしたい。

2)池本翔真さん(教職大学院 M1)

小学校 5年 社会科「これからの食料生産とわたしたちの食」

- ・子どもと食料生産をつなげるために、地産地消をキーワードにした。
- ・地元の産地直売所を取り上げる。
- ・実際に子どもたちがお店に行き、生産者の思いを聞くことがよかった。
- ・学習問題②の「安心」の捉えは？→「安全」？とも言い切れるのかな。
- ・農薬を使っている野菜は本当に安全なのだろうか。学校では実際に扱いにくい。
- ・地産地消は本当に ESD なのか？授業者のバイアスがかかっているのではないか。
- ・身土不二の考え方を大事にしている。

3)高川翼先生(福岡市立姪浜中学校)

中学校3年 数学科「データで見つける地域の課題と未来」

- ・市のごみのリサイクル率を標本調査
- ・「協働」みんなで高めていく意識をもつ。
- ・ペットボトルキャップを集めるのは最近やめていっているのはなぜか。その背景を見るのが ESD として大事。
- ・子どもたちがやりたいと思っていることを大切にしたい。
- ・標本調査ができれば、総合や探究にもつながっていくことができる。技能として身につけさせたい。
- ・数値で見られるよさもある。
- ・標本調査＝推定値
- ・ペットボトルキャップ集めは本当にエコなんだろうか。
- ・算数、数学は教科をこえることが難しい。落としどころが教科的な所で落ちにくい。
- ・標本調査をどういう風に表すのがわかりやすいのか、伝わりやすいのかを教科として落としどころになるのではないだろうか。
- ・教科書などの問題ではなく、実際に自分たちの生活に結び付けて考えるのは深い学びにつながる。
- ・期待する数値になるようにするには、自分たちの行動をどう変えればいいのか考えるのもおもしろいかも。
- ・各自のタブレットを活用していることもある。

◇日時：2026年2月3日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：26名

◇内容：「ネイチャーポジティブについて考えよう！」 中澤静男（奈良教育大学）

【講義内容】

12月ごろから中小企業の経営者向けにネイチャーポジティブについて話をさせてもらっている。
SDGsの流れからも、今後非常に注目されている考え方である。

→ 経済・社会・環境のバランスが主張される

経済成長、ウェルビーイングの向上、自然環境の保全・回復

しかし、環境課題に関する目標は、12・13・14・15だけ。（社会課題の方が多い）

1992年のリオデジャネイロサミットで採択された2つの条約

- ・気候変動枠組条約 → 早い段階から環境省を中心に取組がなされてきた
- ・生物多様性条約 → ネイチャーポジティブ 生物多様性世界目標

ESG投資の加速化 物流部門も含めたSDGsバリューチェーンへの着目

消費者の変化

・「あなたはSDGsという言葉を知ったことがありますか？」ある88.7% ない11.3%

10代「学校で学んだ」55.0%（全体では7.9%） 20代でも12.5%

→ 10代、20代の認知、興味・関心が非常に高い

・「SDGsに沿った商品であるか、SDGsに熱心な企業のサービスであるか購入・利用に考慮するか？」

全体の考慮層が35.4%であるのに対し、10代は52.0%

・「SDGsに沿った商品であるか、SDGsに熱心な企業のサービスは、他に比べて価格がどうなら購入・利用するか？」

価格が高くて（やや高くても）購入・利用する割合が、10代では29%

5年後、10年後には、今の10代、20代が主たる消費者になっていく。

→ 今から企業の戦略としてどういう経営をしていくかを考える必要がある。

2. 新しい潮流：ネイチャーポジティブ

1992年 地球サミット 生物多様性条約の採択

2020年 EUは2030生物多様性戦略を採択

2022年 生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)
昆明・モントリオール生物多様性枠組(GBF)の採択
生物多様性に関する世界目標

2030年ミッション：自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

2050年ビジョン：自然と共生する世界の実現

日本政府の対応 2022年30by30ロードマップの公表

2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する

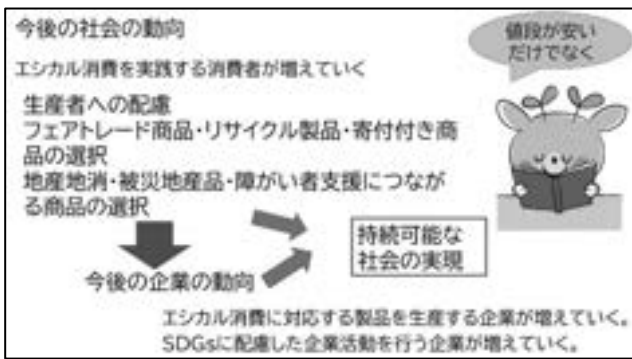
→ ○サプライチェーン全体の継続的な改革
○顧客体験価値の向上による市場創造
○投資家とのエンゲージメントの高度化 が必要
○学校教育においてもネイチャーポジティブに関する授業実践が始まっている

奈良県環境総合計画
3. 人・地域づくりを つうじ『未来へ紡ぐ』
(3)環境に配慮した企業経営の促進(企業×環境)
「ネイチャーポジティブの実現を目指します。」

日本政府の方針が、いまだに「保全する」ととどまっているが、それではもうだめ！

「回復」させることが求められているはず。

ネイチャーポジティブ経営・・・環境課題、特に生物多様性への対応



今行われている取組例

- ・東洋ライス（和歌山市）
・・・無洗米の製造販売、糠の有効利用
- ・明豊建設（長浜市）
・・・琵琶湖の水草の肥料化、土壌改良剤化
- ・ネイチャーポジティブ宣言都市（亀山市）
・・・市を挙げて「自然共生サイト」に協力
- ・ビーフォレスト（奈良市）
・・・ハナバチを増やす

これらの取組と子どもを会わせることで、あこがれが生まれ、行動変容が期待できる。

ネイチャーポジティブ経営の企業の見つけ方

- ・「出る」と「入る」に着目する
原材料などは、どこから、どんなものを、どのように入手しているのか？
環境によい製品であるか？（生産時も廃棄時も）
- ・社員の働き方に着目する
民主的運営、ジェンダー、働きがい、騒音、におい、振動、空気 など
- ・販売先に着目する
近くでの販売であるほど、移送距離にかかるエネルギー消費が少ない
- ・製品、商品の移送手段
鉄道や船舶が望ましい

【意見交流から】

- ・「そもそも季節に合わないものを栽培することはどうなのだろう？」ということをつい考えてしまう。
「これってちょっと違うんじゃない？」と考えることが重要。
「今の農業で、プラスチックがないとできないというのはおかしいよね。」
批判的思考力を高めて、価値観を変えていきたい。
- ・環境教育をしていかなければならないという背景をきちんと理解させる必要がある。
- ・先進国と途上国では、ネイチャーポジティブに対する考えも違うと思うが・・・。
→ 先進国が失敗したような途上国の開発であってはならない。
- ・野外活動でも、とにかく安全に終わらせることが優先されているが、ネイチャーポジティブに関わって、何をどのように学ばせるかをもっと考える必要があると思う。
- ・ネイチャーポジティブに関しても、こうやって学べる場がある者はいいが、そういう場のない人たちは知らないままですぎていってしまうのでは。
- ・ネイチャーポジティブを推進する上では、学校と企業が連携することが大事だと思う。
- ・ネイチャーポジティブは教育的立場としたら理解できるが、企業はやはり利益を生み出すためにそんなことは言われていられないという部分がある。難しい現実がある。

【補足資料】

3. ネイチャーポジティブと企業経営

(1)先人の言葉

「経営というものは、人間が相寄り、人間の幸せのために行う活動だと考える。」
(松下幸之助)

「事業を通じて社会貢献するという使命と適切な利益というものは、決して相反するものではない。その使命を遂行し、社会の貢献した報酬として社会から考えられるのが、適正利益だと考えられるのである」(同上)

「人間は理想とする目標をもたなければならない。金儲けは最悪の目標である。人格を高めるような生き方を選ぶように気を付けなければならない。」(カーネギー)

「社会の役に立つ仕事をしていれば、お金はあとからついてくる。」(千本俵生)

企業経営の第1の目標は社会貢献

(2)企業経営にとって一番重要なこと 信頼

1回限りの契約であれば、利己的な不正行為をした者が利益を得る
継続的な契約であれば、利己的な者は信頼を失い、排除される。
長期的視点で考えたとき、利他的な活動をすることで、信頼と利益を得ることができる。

近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」

※利他的な企業が、投資家・消費者より選ばれる企業になる。

令和7（2025）年度 近畿ESDコンソーシアム・奈良県立万葉文化館
「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

ESDを指導できる教員の資質・能力の向上には、継続的な研修を実施する必要がある。近畿ESDコンソーシアム活動の一環として、奈良県立万葉文化館と連携し、「万葉集・明日香村」を中心とした国語科・社会科や総合的な学習の時間等での授業づくりを中心とした連続セミナーを開催する。研究員による万葉集の内容や時代背景等に関する情報提供、大学教員等による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員および学生が指導案を作成し、授業実践を行うことで、教員としての資質・能力の向上を目的とする。

2. 主催 奈良教育大学 ESD・SDGs センター、近畿ESDコンソーシアム

3. 協力 奈良県立万葉文化館

4. 会場 奈良県立万葉文化館（〒634-0103 奈良県高市郡明日香村飛鳥10）

5. 実施日

- | | |
|----------------|-------------------|
| ①令和7年 5月24日(土) | 近隣のフィールドワーク |
| ②令和7年 7月19日(土) | 万葉集についての話題提供、館内見学 |
| ③令和7年10月25日(土) | 授業構想案の検討 ※開催中止 |
| ④令和7年12月20日(土) | 学習指導案の検討① |
| ⑤令和8年 1月24日(土) | 学習指導案の検討② |

※ いずれも10時～12時

6. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等
奈良教育大学の学部生・大学院生・教職大学院生
奈良万葉文化館 企画・研究係長 井上さやか氏
奈良万葉文化館 主任研究員 中本和氏
奈良万葉文化館 主任研究員 榎戸涉吾氏
奈良教育大学 特任教授 中澤静男
奈良教育大学 准教授 河野晋也
奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究部員 加藤久雄
奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究部員 米田猛
奈良教育大学 特任准教授 大西浩明

第1回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2025年5月24日(土) 10:00~12:00
◇場所 明日香村内
◇参加者 【学生】田中、勝田、松原
【現職教員】藏前(王寺北義務教育学校)、平井(大三輪中学校)
【万葉文化館】井上、中本、榎戸
【大学教員】加藤、米田、河野、大西 計12名

- ◇内容 明日香村内のフィールドワーク
蘇我入鹿首塚 → 甘櫛丘 → 飛鳥坐神社 → 大伴夫人墓 →
→ 大原神社

あいにくの小雨であったが、中本研究員に上記のコースで案内していただいた。



万葉文化館内の飛鳥池工房遺構

1. 蘇我入鹿首塚



首塚

飛鳥寺の境内から西にそびえる五輪塔。乙巳の変の折、飛鳥板蓋宮で蘇我入鹿が中大兄皇子たちによって暗殺された際、その首がこの地まで飛んできたと言われ、あるいは襲撃された首を供養するためにここに埋葬されたとも伝えられている。五輪塔自体は鎌倉時代または南北朝時代に建てられたものと考えられ、高さ149cmの花崗岩でできている。

2. 甘櫛丘

采女の 袖吹き返す 明日香風

都を遠み いたづらに吹く 志貴皇子(巻1-51)

甘櫛丘の中腹にある志貴皇子の歌碑は、昭和42年に建立された。揮毫は万葉学者の犬養孝による。当時、ここに8階建てのホテルを建てるという計画が持ち上がり、何とか阻止しようと村が犬養に揮毫を頼んだところ、犬養はしぶしぶ揮毫したという。歌碑が建立された途端、ホテル建設計画がなくなった。万葉歌碑が開発の防波堤になるということで全国各地で歌碑が建てられ、犬養が揮毫した万葉歌碑は全国に141基あるという。万葉歌碑が都市開発から地域を守る役目をしたという事実は、ESDの教材としても価値があると思う。



甘櫛丘中腹にある歌碑



甘櫛丘の頂上にて

明日香村が一望でき、大和三山といわれる耳成山、畝傍山、天香久山も眺められる。かつて蘇我蝦夷・入鹿親子が権勢を天下に示すために、丘の麓に居宅を築いたといわれる。入鹿暗殺の報を聞いた父蝦夷は、迫りくる軍勢をここから見て自らの死を悟ったといわれる。

景観を守るために、ここからは万葉文化館の建物は竹林に覆われて見えないようになっている。

3. 飛鳥坐神社（あすかにいますじんじゃ）

みもろは 人の守る山 もとへは あしび花さき すゑべは 椿花さく うらぐはし 山そ
 佐く子守る山 作者不詳（巻13-3222）

大君は 神にしませば 赤駒の はらばお田居を 都となしつ 大伴家持（巻19-4260）

齋串立て 神酒すえ奉る 神主部が うずの玉蔭 見ればともしも 作者不詳（巻13-3229）

境内に上記三首の歌碑がある。

毎年2月の第一日曜日には奇祭「おんだ祭り」が行われ五穀豊穰・子孫繁栄を祈願する参詣者でにぎわう。「おんだ祭り」は西日本三大奇祭の一つにあげられ、神事の前後には天狗、お多福、翁、牛がささらで参拝者のお尻を叩き周り、奉納神事では田植えの所作、結婚式、夫婦和合の儀式など参詣者の笑いを誘う所作や有名である。



飛鳥坐神社にて

4. 大伴夫人墓・大原神社



大原神社にて

藤原鎌足誕生之地とされる大原神社の門前に、「大織冠（たいしょっかん）誕生之旧跡」という石碑が建っている。神社の奥を流れる「中の川」のほとりには「藤原鎌足産湯の井戸」も遺されている。

この地は、現在「小原」と書いて（おおはら）と呼んでいる。神社の近くには、鎌足の母である大伴夫人（おおともぶにん）の墓と言われる円墳がある。

わが里に 大雪降りり 大原の 古りにし里に 降らまくは後 天武天皇（巻2-103）

我が岡の おかみに言ひて 降らしめし 雪のくだけしそこに散りけむ 藤原夫人（巻2-104）

「わが里」は天武天皇の居所であった飛鳥浄御原宮で、「古（ふ）りにし里」は都に対して田舎を表す表現。「私の住んでいる里には、こんな大雪が降ったぞ。大原のさびれてしまった里に降るのは、おおかたのちのことだろう。」と大原を茶化す天皇に対して、「あなた様のところへ降ったのは、わたしが住んでいます丘の雨竜にたのんで、わたしの慰みに降らした雪の碎片が、そこまで散って行ったのでありましよう。」と歌を返す后（鎌足の娘）とのやり取りが微笑ましく感じる。

第2回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2025年7月19日(土) 10:00~12:00
◇場 所 県立万葉文化館
◇参加者 【学生】東(教職大学院)、田中、勝田
【現職教員】平井(大三輪中学校)
【万葉文化館】井上、中本、榎戸
【大学教員】加藤、米田、大西 計10名

- ◇内 容 館内見学、万葉集に関する情報提供
中本主任研究員、榎戸研究員から説明をいただきながら館内を案内していただいた。

エントランスの大型ビジョンが開館以来のリニューアルを終え、万葉文化館の案内や万葉集に関する基礎的な情報が精細な画面で分かりやすく紹介されていた。



飛鳥池工房遺跡の説明を受ける→



館内のいくつかの箇所に AR Point が設けられ、QR コードを読み込み対象の展示物にカメラを向けると、キャラクターが登場して説明をしてくれたり、関連する情報へアクセスしたりできるようになった。

飛鳥池工房遺跡は飛鳥時代の大規模な工房跡で、ここでは鉄製品や金・銀、銅製品、ガラス玉など様々なものが作られていた。また、最古の鑄造銭である富本銭が大量に作られていたことが調査から分かっている。ここで作られた製品は、寺院や皇族などに提供されていたようである。

この遺跡からは、木簡が8000点以上見つかっており、「天皇」と書いた最古の木簡や、万葉集にもその名が見える大伯皇女(おおくのみめみこ)の木簡が注目される。

井上企画・研究係長より、万葉集に関する基礎的な情報や授業で活用する際のポイントなどをお話しいただいた。



・万葉集は国語だけでなく、いろんな教科・活動で活用してほしい。

・万葉集は、都に限らず日本各地の地名が詠まれているので、日本中どこの学校においても授業化できる。

・奈良では当たり前風景でも、他地域の人からすれば、それが 1300 年経ってもあることの感動が得られる。

→導入で地元で万葉集の歌がないか調べる活動

当時の人の「感じ方」を大事にして、万葉集が身近に感じられるようにしたい。

・国語の教科書やこれまでの学校教育では、古典における文法を学ぶことが中心だったが、それだけでは退屈な授業になってしまう。「読み手の心情に寄り添うために学ぶ文法」でありたい。

あきによし 寧樂の京師は 咲く花の 薫ふがごとく 今盛りなり (小野老)

都人である作者が、はるか遠い都を懐かしんで太宰府の地で詠んでいる。

「今盛りなり」の「なり」と断定している表現はなぜか？

「けり」ではなく「なり」と断定することの効果は？

万葉の時代、「にほふ」は鼻で感じる香りだけでなく、目で見て感じる色合いを含む言葉。

花は、いわば植物の生命力があふれ、内面から輝くという意味の表現と見られる。

「今盛りなり」と都の繁栄を讃える言葉には、そんな都に早く戻りたいという思いが読み取れる。

・歴史と文学の融合という視点が大事である。

白村江の戦いに大敗し、唐・新羅からの防衛対策として防人が必要となる。

→ 東国から遠く離れた九州の守備にあたった防人の歌が多く収められている。

大陸や朝鮮半島との交流の歴史から、多言語・多文化の社会があったのではないか。

→ 万葉集には 145 首も遣新羅使に関連する歌がある。

国語と社会科のカリキュラムマネジメント

・万葉仮名クイズ

表音文字・・・伎弥乎麻都 「君を待つ」

表意文字・・・寒過暖来良思「冬過ぎて春来たらし」 寒「冬」 暖「春」

丸雪降 「あられ降り」 形状を表した

戯書・・・山上復有山 「いで」(出) 山の上に復た山有り あえて 5 文字で表現 (文字の分解)

・浦島太郎伝説

日本書紀に「水江浦島子」の話があり、それをもとに詠まれたと考えられる歌が万葉集にある。

「浦島子歌」 水江の浦島の子を詠める一首 併せて短歌 (巻9・1740)

第4回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

◇日時 2025年12月20日(土) 10:00~12:00

◇場所 県立万葉文化館

◇参加者 【学生】勝田

【万葉文化館】井上、中本、榎戸

【大学教員】加藤、米田、河野、大西 計8名

◇内容 授業構想の検討、卒論中間報告

1) 授業構想「魅力発見！万葉集 —万葉カルタをつくろう—」 勝田南美(国語科教育専修3回生)



小学校6年国語科(総合) 国語科だけだと8時間程度で
総合を入れたら15時間程度

百人一首などを用いた和歌の学習を経験している

→ 万葉集について基本的なことを知る

→ 万葉集をモチーフにした現代の作品について知る(「令和」、「君の名は」、「言の葉の庭」など)

「なぜ万葉集は今でも親しまれているのだろうか？」

万葉集の魅力について探る活動

→ どうすれば万葉集の魅力を伝えたり、親しんだりしてもらおうことができるだろうか？

カルタづくり(万葉カルタ) 百人一首のような形にしたい

どんな歌を選んだらよいか？ 百枚は数が多いかも

万葉カルタ大会・・・下級生と、地域の方たちと

解説書の作成・・・現代語訳、歌の意味、作者や背景、評価ポイント、歌に沿ったイラストや写真

意見交流から

・いろいろな活動が盛り込まれすぎでは。もっとスリム化していいと思う。

まず、この学習のいちばんの目標(ねらい)が何かを明確にしたい。

・小倉百人一首の成立は13世紀、カルタになってきたのは江戸時代。

・そもそも「親しむ」とはどういう状態？

身近な地名が入っているとその歌がぐっと近づいてくる。

植物や虫、花、動物などが入っている歌なんかも身近に感じられるのでは。

・万葉集の魅力と言われても、小学生ではなかなか感じることは難しいのではないかな。

・きれいな「五七五七七」になっていない歌も多い。長歌もある。身分などにとらわれることなく様々な人の歌があるのも万葉集の魅力だと感じてほしい。

・先にカルタづくりをしてはどうだろうか。いろんな種類の歌を取り上げて。

リズム重視なら東歌、早口言葉の歌や双六の目を詠んだ歌など。

→ 百人一首とは違って、いろんな歌(おもしろいもの、身分の低い人のものなど)があることを気付いてくれるといいのでは。



2) 卒業論文中間報告

「万葉集を教材とした国語科授業実践についての研究 ―ESD の理念に照らして―」

田中愛花（国語科教育専修4回生）

第1章 万葉集のESD的価値

万葉集が内包するESD的価値観

万葉集とESDが結びつくと考えられるのは、^①歌を選定した大伴家持をはじめとする貴族が広く庶民の歌も歌集の中に取り入れようとした点、空や山、水の音といった自然や自然と人との関わりを歌ったものが少なくない点、^②防人の歌の中に戦争によって家族と離れたくないことを歌ったもの等がある点である。これらは、ESDの視点(見方・考え方)の「多様性」、育てたいESDの価値観の「自然環境・生態系の保全を重視する」「人権・文化・平和を尊重できる」の項目にそれぞれ該当する。

だが、^③防人の歌の中でも天皇への忠誠心を歌ったものもあることから、「人権・文化・平和を尊重できる」の項目に都合の良い歌だけを当てはめているだけだという批判の声も予想される。^④そこで防人の歌98首3を「妻・恋人を思う」「両親を思う」「子を思う」「防人を思う」「望郷」「悲哀」「忠君」「奮起」「批判」「その他」の項目で分類して、防人の歌の内容を分析し、防人の歌に含まれる主流の考えとその流れがESDの価値観や考え方に即しているか追っていく。

① 広く庶民の歌も歌集の中に取り入れようとしたかどうかは疑義が呈されている。

論者によって捉え方は異なるが、いずれにしても現代の我々が想像するようないわゆる「庶民」の歌は入っていないというのが現代の通説。

② 防人は、戦争はしていない。防御が主たる任務。

③ 「防人歌と戦争下におけるその受容」(2022 小川靖彦)を参照されるといい。

④ 分類の仕方が間違っているとは言えないが、なぜそういう分類にしたのかという筆者の意図について説明があるのがいいと思う。誰かの分類を引用できればいちばんよいが。

万葉集を教材とした学習指導の変遷

時代	万葉集から読まれる内容
戦前	・万葉集は日本人の純朴な精神、忠誠・愛国・自己犠牲の象徴 ・防人の歌は、天皇の命に従って遠く国を離れ、国を守る男たちという構図が、軍国主義的な忠君愛国の理想像と重ねられていた
戦後	・日本民族が万葉集のようにすぐれた文学遺産をもっていることに喜びと誇りを感じさせる ・生徒たちに祖国に対する愛情と民族的自覚をめざめさせることが古典教育の究極の目標 ・万葉集に描かれた自然の姿と自然と人間との関係性や、心をおどらせる万葉人の幸福感 ・自然と人とが情緒的で密接な関わり方をすることが日本人であるとする。
現代	・万葉集から身近さを読み取らせようとする。 ・身近さ→万葉人の感性と現代人の感性を比べさせるもの。 解釈の揺れが少ない歌を用いて、テキストから自分で身近さを感じさせる方法と、感情が大胆に表現されている歌を用いつつ、時代背景や歌を詠んだ人物にまつわる出来事も理解させながら身近さを感じさせる方法がある。 ・身近さ→地域性のつながりを感じさせるもの。

・「戦前・戦後・現代」という時代区分で果たしているのかどうか。戦前でも「明治・大正、昭和」で大きく違うと思う。

・学習指導要領でも、以前は「関心をもつ」という表現だったものが、「親しむ」に変化している。

この違い

・万葉集の中にESDの要素を見出そうとする教育者としての立場を明確に打ち出した方がいいと思う。

第5回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2026年1月24日(土) 10:00~12:00
◇場所 県立万葉文化館
◇参加者 【学生・院生】勝田、田中、東
【現職教員】藏前(王寺北義務教育学校)、平井(大三輪中学校)
【万葉文化館】井上、中本、榎戸
【大学教員】加藤、米田、大西 計11名
◇内容 学習指導案の検討、卒論報告、実践報告

1) 学習指導案の検討 勝田南美さん(国語教育専修3回生)

「みりょく発見!『万葉集』(小学校6年:国語科)

前学年までに百人一首で遊んだ経験

→ 五音七音のリズムへの親しみ

「万葉集って何だろう?」自分たちで調べる 万葉カルタ遊ぶ

万葉集の歌を鑑賞する 万葉カルタの中から一首選び、現代語訳、内容、背景などについて調べる

万葉集の魅力を考える 万葉集をモチーフにしたものがいろいろある
(現代につながっている)

万葉文化館の方のお話を聞く

特徴的な歌、歌人、長歌や旋頭歌、万葉画、万葉仮名など

魅力を発信する 万葉画を描く(ポストカードに)、万葉カルタ大会の開催、和歌の解説書 など
(意見交流から)

・百人一首と万葉集の違いを考えることから始めてもいいのでは。

作成された時代が違うので、時代が違えば言葉の使い方も違ってくる。その方が子どもは考えやすいかもしれない。

・万葉集の特徴として長歌を扱いたい。(百人一首と大きく違うところでもある)

・長歌は読んでみると面白いし、いろんな歌があるという万葉集の多様性にも触れられる。

・多様性で言うと、いろんな地方の歌があるということもそうである。

・自分たちの地域のことを詠った歌を調べさせる方がいいのでは。長野県には歌碑も多い。

・万葉画を描くというのはとてもいいと思うが、子どもにとっては歌のどこを切り取って描くかは難しいかもしれない。

・最後の成果物はグループで一つでいいかも。

絵を描く子、文字を書く子、読みあげる子など役割分担できる。

QRコードを付けて、読み込むと音声が出るようにすれば。



2) 卒論報告 田中愛花さん(国語教育専修4回生)

「万葉集を取り上げた教材及び授業実践についての研究 —ESDの理念に照らして—」

万葉集に内包するESD的価値観や視点を見出しつつ、これまでの万葉集の授業実践をESDの視点

から捉え直し、新たな授業構想を行う。

多様性を学び取れる手立ては、万葉集の詠み人の身分の幅が広いという特徴や北海道と沖縄県を除く日本各地に万葉歌があるという特徴を活かしてそれぞれの立場で読まれた歌を比べる活動や、それぞれの場所で読まれた歌を比べる活動が有効であろう。

クリティカル・シンキングを育むための手立ては、万葉集が歴史的にどのように受容され、どのような意図のもとに利用されてきたかという「教材史」を学習者に知らせる活動が効果的であろう

本研究を通して明らかになったのは、国語科における万葉集の授業が、もともと ESD の理念と接続し得る視点や価値観を内包しているという点である。さらに、そのような視点を意識的に位置付けることで、既存の実践を基盤としながら、ESD の観点からより発展的な授業構想の可能性を提示することができた点に、本研究の意義があると思う。(発表資料から一部抜粋)

(意見交流から)

・多様性について述べるとしたら、例えば言語学的な多様性という視点があってもいいのでは。

古典文法、拍などに視点をあててもいい。

・「仮名のない時代に漢字という外国語を用いて作られた」ということも「多様性」ではないだろうか。

・万葉集を ESD の視点で論じること自体、とても意義深いことだと思うので、継続して取り組んでもらいたい。



3) 実践報告 藏前拓也先生 (王寺町立王寺北義務教育学校)

「だるまさんがころんだ! —だるま発祥の地(達磨寺) わたしたちのまち王寺町—」(小4 総合)



体育館で学年全員の「だるまさんがころんだ」をやる

→ 「校区にある達磨寺と関係が？」

「なぜ王寺町は、だるま発祥の地と言われているのだろうか？」

達磨寺へのフィールドワーク 町の観光ボランティアガイドの方に協力してもらう

- ・聖徳太子と達磨大師の出会い
- ・歌を詠み交わしたとされる「問答石」
- ・聖徳太子の愛犬「雪丸」
- ・古墳が斑鳩につながっている？
- ・境内での「だるまさんがころんだ」

達磨寺について詳しい帝塚山大学の先生との出会い GT に来ていただく

家族に達磨寺の話聞いても、誰も知らない → 王寺町の多くの人に知ってほしい

「だるまプロジェクト」発進!

・だるまマーケット(達磨寺で月1回日曜日に開催)でのブース出展

・「だるまさんがころんだ選手権」への参加 など、現在も進行中

万葉文化館の方に来ていただいて、万葉集についてお話を聞く

「歌」とは? 万葉集の基礎的な説明のほか、数え歌や万葉仮名などの話を聞く

浦島の話に子どもたちが興味を抱く

令和7年度 森と水の源流館 ESD授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

奈良教育大学を中心とする「近畿ESDコンソーシアム」の活動及びESDティーチャープログラムの一環として、川上村森と水の源流館と「水の恵み」や「森林環境」に着目した授業づくりセミナーに協働的に取り組みます。「水の恵み」は、SDGsの目標6「すべての人々に水と衛生へのアクセスを確保する」だけでなく、目標2「飢餓の撲滅」、目標11「防災・減災」、目標15「生物多様性の保全」などともかかわるテーマです。森と水源流館スタッフによる、自然環境保全の取組や水生生物などに関する情報提供、大学教員による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員が指導案を作成し、授業実践を行います。これによりESDを指導できる教員としての資質・能力の向上を目的としています。

2. 主催

近畿ESDコンソーシアム（奈良教育大学内）、森と水の源流館

3. 会場

ZOOMを用いたオンラインによる開催

4. 開催日時と研修内容

第1回 第1回 令和7年7月12日（土）

川上村及び森と水の源流館の紹介 ・ ESDの授業づくりの基本

第2回 令和7年7月19日（土）優良実践事例の分析

第3回 令和7年8月2日（土）授業構想の相互検討

第4回 令和7年8月30日（土）学習指導案の相互検討

第5回 令和8年2月7日（土）授業実践報告会：森と水の源流館にて

※ 開催時間はいずれの回も10時～12時30分

第5回は源流館での対面方式とオンラインのハイブリッドで開催

5. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等

奈良教育大学の大学生・大学院生・教職大学院生

森と水の源流館 事務局長 尾上忠大 及びスタッフ

奈良教育大学 及川幸彦、河野晋也、大西浩明、中澤静男、杉山拓次

2025年度 第1回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2025年7月12日(土) 10時～12時30分
- ◇開催方法 ZOOMによるオンラインセミナー
- ◇参加者 新宮(奈良女子高等学校)、加藤(川上村水源地課)、島(福岡市立七隈小)、
西原(宇和島市立遊子小学校)、橋本(福岡市立三宅小)、
吉田(奈良県立磯城野高)
森と水の源流館:尾上・古山・成瀬・上西・高田・木村
奈良教育大学:大西・中澤、河野、東(院生)

◇内容

1. 源流館の紹介

【尾上事務局長】

- ・「地域資源の教材化」にこだわって進めている。テーマは「水の恵み」
- ・大滝ダム(発電)と大迫ダム(農業用水)の2つのダムがある。そして3つ目のダムが、自然のダム 水源地の森
大迫ダム 常に水不足に悩む大和平野や紀の川流域の灌漑用水確保
大滝ダム 治水、利水、水力発電の多目的ダム
- ・昭和34年の伊勢湾台風による甚大な被害 死者・行方不明者72名
- ・昭和40年頃より急激な人口減少 高い高齢化率
- ・子ども・若者の移住者数は増加傾向
- ・川上宣言(水源地の村づくり)1996年～

【高田次長】

- ・条例に即した村づくり:環境保全、防災、景観、地域振興
- ・「吉野川源流水源地の森の設置及び管理運営に関する条例」
- ・川上宣言の具現化
「下流にはいつもきれいな水を流します」「すばらしい見本となるよう努めます」

【木村さん】

- ・コケが専門
- ・水源地の森隣接地までパルプ材伐採が進んでいた
- ・コケは大気汚染の指標として授業でも生かすことができる
- ・フィールドワークで水源地の森を実感してもらう
BUT 2013年以降、小学校の利用がなくなっている
- ・水源地の森で感動を味わってほしい

【上西さん】

- ・学校教育機関バス代補助の紹介
対象は学校教育機関 3件 1回あたりバス代83000円の助成
川上村や村の取り組みへの理解を深めるための川上村フィールド学習での利用
ESD 授業づくりの一環としての利用
- ・先生方へ 水源地の森での体験学習をお手伝いします

【古山さん】

- ・昆虫が専門
- ・昆虫は環境そのものである。昆虫の状況を把握することが地域の自然環境を把握することになる
- ・昆虫から生活環境の変化を把握できる。

2. 「ソマティック・マーカー仮説など脳科学の援用」(中澤静男)

教えることと学ぶことの違い 学んでいなければ、教えたことにならないのではないかな?

→ 学び方を研究する必要がある。← 構成主義の研究

教えなければならぬもの(絶対的な知識)は存在しない。教える側と教えられる側、その場にいるものが交流する過程で、学ぶ必要のある知識が明らかになっていく。

ESDは、人々の価値観と行動の変革を促す教育

→ どうすれば人は行動を変革するのかを研究する必要がある。

それを経験だけでなく、脳科学の知見を援用しようという試み。

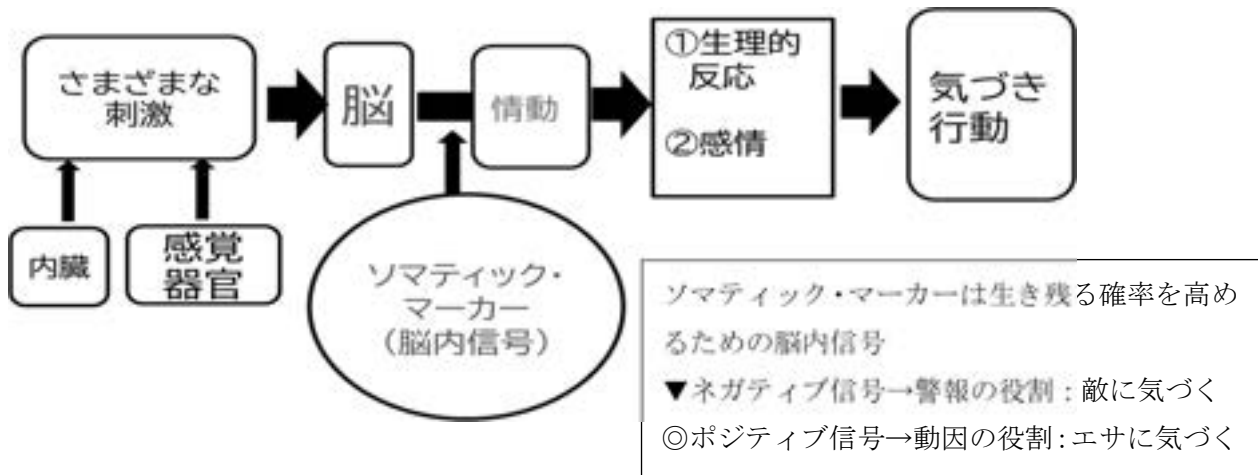
→ 問い. 「人の行動の変革を促すのは、理性か感性か？」

「行動の変革は、何が正しいかという単なる感覚から生じることが最も多い。」

(1) ESD で育てたい価値観のまとめ

CARE できる児童生徒を育てる

2. 脳科学の援用：ソマティック・マーカー仮説 (アントニオ・R・ダマシオ)



全ての動物が持つソマティック・マーカー発生装置 本能・先天的

人が持つソマティック・マーカー発生装置 後天的 (学習や経験が影響)

人だけが持つものと言えば (言語) : 生き残る確率を高める道具でもある

見えていても気づくことができない場合がある。

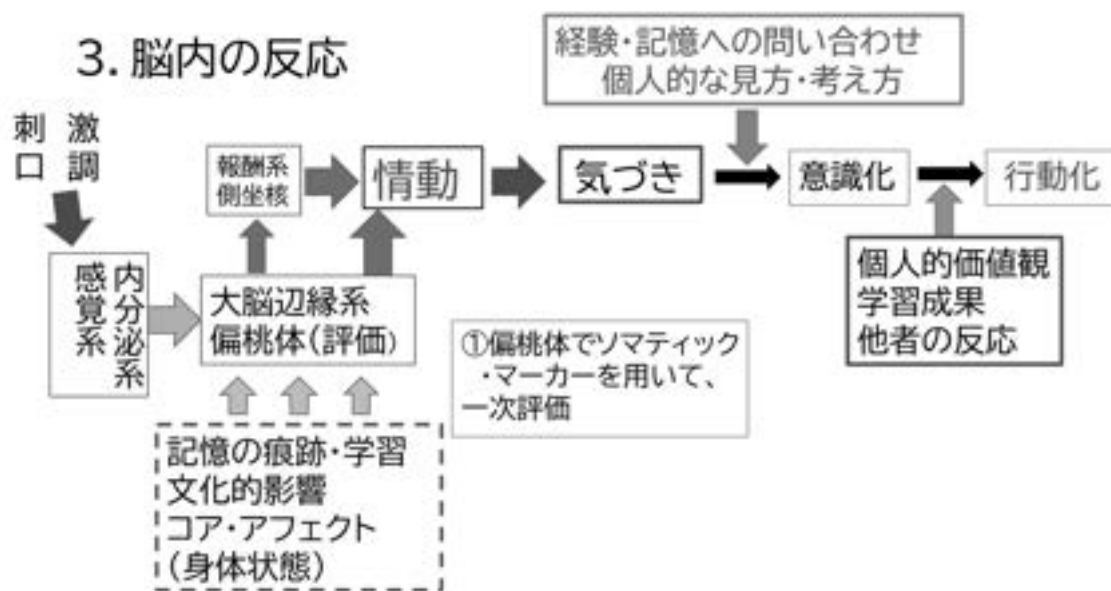
→ 脳は外界からの情報と記憶として蓄えられている情報 (記憶の痕跡) から情報処理を行う

そのため、次回からはすぐに気づくことができる

- ・意識化を促し、「気づく力」を高める方策

① 仲間と共に学ぶ (友達からの刺激)

- ②記憶の蓄積を図る。(繰り返し学ぶ、繰り返し経験する、多様な場面で多様な方法で学ぶ)
つまり、多様なESDが持続可能性に関する「気づく力」を高める。
- ③感性を伴って学ぶ。
- ④人から学ぶ(あこがれ、共感力、模倣化)



4. まとめ

どこからでもいいので、多面的に。まずは、①先生がやってみたいネタで。②児童生徒の関心の高いもので(切実感) ③地域課題に即したもの

→ ESD授業実践で、子どもたちの知性を磨いてください。

『ESD授業実践のコツ』

- ・多様な他者とつながっておく。(保護者・同僚・専門家・地域人材)
- ・ひとりで考えない。仲間を作る。単元構想案で相談開始。
- ・他の事例を参考にする。シンポジウムや研究会に能動的に参加する

2025年度 第2回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2025年7月19日(土) 10時～12時30分
- ◇開催方法 ZOOMによるオンラインセミナー
- ◇参加者 加藤(川上村水源地課)、島(福岡市立七隈小)、西原(宇和島市立遊子小学校)、
吉田(奈良県立磯城野高)、中谷(橋本市立高野口小)
森と水の源流館:尾上・古山・木村
奈良教育大学:河野・中澤、

◇内容

1. 信太ってどんなところ 高野口小学校中谷先生

フィールドワークで信太の魅力を見つけよう 森、滝、人が優しい、神様を大切に続けてきた地域
さが谷水の水質検査 COD パックテスト 水がきれい!

- ・信太の豊かな自然を残しながら、どうやって人を増やしていくかがポイント
- ・私たちには言葉を選んで伝えることができる
- ・人間以外の立場に立って考えてみよう

【川上村ダムづくり説明会ロールプレイ】 道德:中谷先生

前時の子どもたち:全員がダム建設に反対

どちらの立場でも意見が言えそうな児童にダム建設賛成派の役割を割り当てる

ロールプレイ中の思いに着目するよう指導する。ルール設定をする

場面設定 ・村は人がへってきている。

- ・伊勢湾台風では、あちこちに被害が出て、多くの人が苦しんだ。
- ・災害を減らすダムは、地形の条件的に、ここの場所しかない。
- ・工事の人が「ダムを作りたいわけ」を説明し、みんなに納得してもらいにきた。
- ・村人は「それを聞いてどう思うか」をこたえる「村の集会」

→ 関係人口を増やすことの大切さに気付く

→ 20年間の話し合いの後で、川上宣言がつくられた その言葉の重さを考える

2. 農業クラブ活動 専門知識を生かした地域の課題を解決する 磯城野高校農業クラブ

- ・奈良県立磯城野高等学校にいる野生生物の数 786
 - ・奈良県には自然史博物館も生物多様性センターもない。生き物に関する情報を集約するところがない。
- ミニ生物多様性センターをつくる

実践①野生生物目録の完成

奈良県レッドリスト記載種:28種、奈良県野生生物目録未記載種:27種

実践②バタフライガーデン

高齢者の健康増進、障がい者の社会参加

地域ケア推進会議を設置 よく来る蝶の図鑑も作成

実践③田んぼの水族館を校内に常設

実践④生き物調べサポーター(生き物調べの手伝い)

実践⑤しきの生き物観察会の開催

実践⑥いろいろなところでの発表 多くの方々よりアドバイスをいただく 林野庁長官賞を受賞
実践⑦様々な研究

- ・今後の予定：ネイチャーポジティブ
- ・生徒たちの変容

自然を見る目が変わる、課題を見つける力が育つ、社会の一員という自覚が育つ
学習意欲が高まる。日々の学習・生活を大事にする。

3. 小学校におけるESD実践の意義と可能性 宇和島市立遊子小学校 西原先生 様々な学びが1つになっていく面白さを感じながら

遊子小学校：ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成

(1) 遊子の防災大作戦 一年間の核となる学習をしっかりと考えることが大切

避難路に関する学習 コロナの間に避難路がつけられた

地域の人たちが頑張ってくれた イエローフラッグ作り

防災マップ作り「第20回小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」文部科学大臣賞受賞
他教科との関連 国語科・算数科・理科

地域新聞づくり 共助につながると知った

防災学習 暗いイメージ → いつか来るかも(暗い影) から いつきてもなんとかなる →
年度初めに計画をつくることで、単発に終わらせるのではなく、学びを重層的に

事前復興教育プログラム 5時間 防災に対する思考の芽生え

→ 平和学習との共通点(戦前責任 火種になりうる火種を育ててしまっている)

(2) 海の学習(25時間)

養殖博士になろう 海も山もいろいろな環境を大切にしないといけないことに気が付いた
おさかな教室

EMせっけんづくり、鉄炭団子づくり(海をきれいにするために)

海洋ごみをテーマとした学習 清掃活動を実際にして感じたこと

4. 水の恵み 川上村に学ぶ持続可能な水の流し方 福岡市立七隈小学校 島先生

おにぎりパーティーで水の恵みを実感する

水源地の村・川上村の責任性を学ぶ 川上宣言のもときれいな水を下流に流す取り組み

⇄地元の富雄川の現状把握

奈良県環境政策課発行のパンフレットから水質汚濁の原因と対策を調べる

○自分たちにできることを考える

「給食の食べ残しをしません！」← 授業者が撮影した給食食べ残し画像を見せる

「本当にできるのか？」

○再考する

・食べ残しはしない 11名

・汚くなった水はティッシュにしみこませて捨て、流さない 8名

・お米のとぎ汁は庭木にまく 5名

・シャンプーやリンスは1回分だけ使うようにする 3名

○考えたことを実践する 1週間のチャレンジ期間

2025年度 第3回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2025年8月2日(土) 10時～12時
- ◇開催方法 ZOOMによるオンラインセミナー
- ◇参加者 加藤(川上村水源地課)、島(福岡市立七隈小)、橋本(福岡市立三宅小学校)、
吉田(奈良県立磯城野高)、新宮(奈良女子高等学校)
土田(滋賀県庁)、上野(GDI)
森と水の源流館:尾上・古山・木村・上西・高田
奈良教育大学:及川・河野・中澤、東(院生)

◇内容

「未来を支える食糧生産(水産業のさかんな地域)」 福岡市立七隈小学校 島俊彦氏の報告

導入:スーパーの魚調べ

中心発問:どこから、どんな魚が売られているのか?養殖魚・天然魚などについての調査活動

調べ学習:①とる漁業(沿岸漁業、沖合漁業、遠洋漁業)

②育てる漁業(養殖)

③輸送・加工

④我が国の水産業の現状や課題 漁獲量の低下、消費量の低下

→ベンナーズの取組紹介 未利用後を用いたフィッシュルの開発・販売

深める発問:井口さんはなぜ未利用魚を使って商品開発しているのだろうか?

井口さんへのインタビュー 「作り手よし」「使い手よし」「社会よし」

発展させる発問:これからの水産業に必要なことは何だろうか?

→持続可能な水産業の実現に関心を持つ人を増やす。まずは保護者から

◇意見交流

①魚種への着目

漁獲量の減少だけでなく、魚種も変化している。福岡湾のブリ、網走でシイラ

→気候変動の学習への展開も

②魚種変化への対応

福岡市立学校の給食に登場したギュロップ←気候変動への適応として捉えることができる

③GTとの連携について

新聞のコラム欄に海の環境を守る取り組みが紹介されていたのを見て、連絡を取った

④フィッセルに関する問題

流通・直販・漁家・漁業権など、これまでの取組との軋轢はないか
フィッセルは新しい可能性なのか

⑤連携企業について

ゼブラ企業に着目し、連携先を探す

(社会的課題の解決と経済的価値の創出を両立させる新しいタイプの企業であり、特に地域課題に取り組むことを重視している企業) ←中小企業庁の HP 参照

⑥地方創生 2.0 基本構想 (令和 7 年 6 月 13 日閣議決定)

教材選択の方向性を「地方創生 2.0 基本構想」を参考に探る

- ・地方での人口減少と東京圏への一極集中
- ・「若者や女性にも選ばれる」地域を目指す
- ・人口規模が減少することを前向きに捉え、人口規模が縮小しても経済成長し、地方を元気にする

⑦教科から総合的な学習に展開することを念頭に置く

2025年度 第4回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2025年8月30日(土) 10時~12時
- ◇開催方法 ZOOMによるオンラインセミナー
- ◇参加者 18名

◇内容

0-1. 源流館からの話題提供

- ①中谷先生のダムの学習記録を源流館に展示している
- ②8月11日(山の日)にトヨタソーシャルフェスタを開催した。大滝ダムの竜が見れる。

0-2. 中澤からのESD学会分科会発表報告

ESDにおける脳科学の援用

- ・ESDは持続可能な社会の創り手としての脳内モデルを形成する学び
- ・グリア細胞のアストロサイトの影響で、特別な状況下での事物は記憶に残る

ESD実践に特別な状況を組み入れる。特別な行事などをESDとして位置付ける。

1. 「わたしたちの食といのちをつなぐプロジェクト」：鹿屋市立鹿屋小学校5年生 上園氏の報告

1学期

総合的な学習：代掻き(泥あそび)体験

社会科「米作りのさかんな地域」

2学期

水田全体や稲の様子を見渡して

- ・ジャンボタニシの食害 コメが足りないといわれているのに、もったいない「なぜ、農薬を使わないのだろう？」

→ 農業高校生に聞いてみよう← 農業高校では有機栽培に取り組んでいるのでかつてはアイガモ農法にも取りこんでいた

- ・収穫量が少なくなるのに、なぜ？
- ・農薬を使って育てたお米と比べて、味は違うの？
- 家庭科での食べ比べ体験：あまり変わらない
- 栄養教諭からのアドバイス 身体にいい、アレルギーをおこしにくい
- ・校区を流れる肝属川の生き物に影響があるから 生態系についての学習への発展

○市役所農政課より：鹿屋市の有機農法の取組

→ 水田の多面的機能に気づく

3学期 KANOYA RICE EXPO2026 おにぎりパーティー

- ・食べ残しはどこでどのように処理されるんだろう
- ・食材の選び方
- ・耕作放棄地が広がっている。なんとかならないか？

◇意見交流

- ①1学期や夏休みの米作りはだれがしたのか？ 農業高校生が取り組んでくれた農業高校の課題探究と連携する

②テーマが広がりすぎる。絞った方がいいのか

コメ作りに関する知識を得ることが目的ではない。探究的な学び方を体験することが重要。高校生も課題探究でいくつかに分かれるはずなので、そこに参加する形にする（選択させる）。高校生が先輩研究者となって、学び方を学ぶ機会にする。高校生にとっても、やりがいになり、ウインーウインとなる。

③農薬使用について考える機会にする

答えのない問い。おにぎりパーティーにお世話になった高校生や保護者、地域の方を招き、今後の農業について座談会ができればよい。

④市役所も巻き込むことで、持続可能な鹿屋市についての学びに広がる可能性がある。

2. 「プロジェクトQ 福岡のギョロッケに秘められた願い」 小学校5年生総合 橋本先生の報告

社会科：水産業の課題

- ・日本全体の水産物の生産量と消費量が減ってきている
- ・安定して水産物が取れないと。近い将来、水産物が食べられなくなるかもしれない

導入：「今月の給食で食べる水産物を確かめよう」

中心発問：「毎年この時期に「福岡のギョロッケ」を給食で食べるのはなぜだろう？」

福岡市水産業総合計画：世界に誇る！魚の美味しいまち・福岡」

若年層への魚食普及・地元水産物の利用促進

深める発問：「ギョロッケに秘められた願い」をさぐってみよう

漁師、加工業者、運搬配送業者へのインタビュー 食品ロスを減らすアイデアが詰まっている！

VTR ギョロッケ加工の視聴

発展させる発問：自分たちにできることは何だろう（今&将来）

9月25日（木）ギョロッケを食べよう

ギョロッケ、水産業に対する自分の思いがどのように変わったか アンケート調査

意見交流

①給食では出されたものを食べさせられているという現状があり、食に対する関心は高くない

②市の水産業総合計画の再解釈に挑む

「出されるから食べる」ではなく「食べたいから食べるへ」

食材としてはエビフライと同じくらい高い。それでも給食メニューにするのはなぜか

③ソウルフードとしてのギョロッケ

食材を通して、地域の自然環境や社会環境を学ぶ・ふるさと学習、地産地消を学ぶ

食品ロスをなくすことの大切さを学ぶ

3. 食品ロスに関する学習：小学5年生 福岡市立七隈小学校 島先生の報告

1学期 水産業に関わる学習 → 海の食品ロスを減らしたいという思いが高まった

2学期 ①給食室の食品ロスを調べる

②「どうして食品ロスが発生するのだろう」

本やインターネットで情報を集める

食品ロス研究家の井出さん（あるいは市役所）にインタビューする

環境面、経済面、社会面での負の影響を知る。

③食品ロスを減らす福岡市の取組「フードドライブ」を調べる

市役所木村さんにインタビュー

- ・フードドライブの取組を広げたいが、地域住民の関心は低い
- よい取り組みでも参加者が少ないと食品ロスは減らない

④フードドライブを開催しよう

⑤食品ロスを減らすために取り組んできたことをまとめ、発信する。

意見交流

- ・食品ロスを実感させる手立て
映像を使いながら、「もったいない」だけではない、ダメな理由を考えさせる
 - ・処理エネルギーの無駄、二酸化炭素排出による温暖化
 - ・税金の無駄遣い
- ・給食室の食品ロス調べを福岡市全体に広げることで、何とかしなくては、という気持ちになる。
- ・給食室の食品ロスを金額で表すと実感がわくのではないか。
- ・学びをショート動画で発信し、フィードバックをもらおうと児童の意欲が向上する
- ・鹿屋小学校5年生と交流することを伝えておくことで、意欲が途切れない。

4 「いつまでも安全・安心な水を使い続けるためには…」小学4年生社会科

教職大学院1回生 東君の報告：9月に桜井市立初瀬小学校での教育実践演習時に実践予定

①単元展開の概要

導入：蛇口の水はどこからどのようにして送られてくるのか

中心発問：なぜ、私たちはいつまでも安心・安全な水を使い続けられるのだろうか？

浄水場、上水道などの施設、水の循環や水源などの自然環境

深める発問：いつまでも使い続けることができるだろうか？

琵琶湖での50年前からの取組 → 身近な大和川ではどうだろうか？

源流館に川上村の取組を教わる

発展させる発問：いつまでも安全な水を使い続けるために、自分たちにできることを考えよう

水を汚さない取組、身近な地域のゴミ拾い

学習成果の発信：初瀬川宣言。ポスターの作成

②意見交流

- ・源流館スタッフに出前授業をしてもらおう
- ・まず、個人の宣言を作成し、1週間程度実践したのち、みんなの宣言文を作成すると、絵に描いた餅にならない。
- ・海外では水道水を飲めないところがほとんどである。海外在住経験者にインタビューする。
- ・安全な水を手に入れられない途上国の現状を紹介するユニセフ動画の視聴
- ・蛇口からオレンジジュースが出てくるところの例を紹介し、オレンジジュースより水の方が大切であることに気づかせる。

2025年度森と水の源流館事業づくりセミナー成果報告会概要報告

奈良教育大学 特任教授 中澤静男

開催日時：2026年2月7日（土）10時～12時30分

開催方法：対面及びオンライン

対面参加者数 18名 オンライン参加者数 19名

1. 和歌山県橋本市立高野口小学校 4学年総合的な学習 中谷栄作先生

☆主体的な学びは「冒険」からはじまる

地域フィールドワーク：150分かけて歩いて森と滝に出会う。

児童のここでの感動が学習を推進する。

- ・川があってすずしくて、静かでいい気持ちになる
- ・いろんな植物や生き物たちに出会えてうれしい。 → もっと信太のことを知りたい



九重地区むら歩き
地域の人たちに出会う。いろいろとお話を聞く
「昔はみんなで祭をやった。つながりが強かった。」
「家はあと20件。なくなってしまふ。」

信太には何もないんじゃない。

自然のゆたかさと静かさ神様や人とつながるあたたかさがある！

つながり（きずな）・感謝（自然）・歴史（祭）→信太ゴッドフェスティバルを開催しよう
フェスティバルで伝えたい内容の整理

- ・信太は水がいい（パックテストの結果より）
- ・水の話は「源流館」に教わろう
→ 下流の人たちのためにダム建設にOKした
- ・小田井用水の水で自然農法をしている
- ・すべての生き物が水で生きている。水は大切だ。
- ・すもう大会、くるみもち、防災交流会
→ 237人もの参加者 自然に生まれた「ありがとう」の言葉
・おたがいに「ありがとう」。自分もだれかを守るように。

信太からも高野口からも協力者が集まる。神輿職人の宮田さんが神輿を作る。保護者も一緒にリハーサル。チラシ・ラジオ・新聞

○川つなぐ地域のかわり 祭の本当の意味は地域づくり」

当たり前と思っていること れってなくなるかもしれない。「だれかがやらなきゃ」を自分がやったら変だった。でも、だれかのために、なら力がわいてきた。

みんなでつくることで、もっと大きい幸せができた。 → 自分・域の人たちのエルビーイングの向上

2. 話題共有 東洋ライス株式会社（和歌山市）

（1）東洋ライス発明の歴史

- ・ ご飯の石混入による「石噛み」なくす 石抜き機の発明→無石米の販売
- ・ 社長が新婚旅行で訪れた紀淡海峡に 30 年ぶりに訪れた際、以前は青くきれいだった海が「茶色の海」に変わっていた。⇒「米のとぎ汁」が原因の一つだと知る！
- ・ 1991 年 B G 無洗米の開発
 玄米 → 精白米 → 無洗米
 約 10% のヌカの除去 約 1.5% の肌ヌカを取る
 普通米と比較し、お茶碗一杯当たり、CO2 を 4.6 g 削減できる。
- ・ BG 無洗米加工で取り除かれた肌ヌカは、「米の精」という有機質肥料に加工し販売。

（2）アップサイクルから健康づくりへ

廃棄する米ヌカから肥料の生産・販売 アップサイクル

2005 年金芽米の開発：

栄養と旨味が含まれる「亜糊粉層」と胚芽の基底部分の「金芽」を残して精米した
お米：栄養と美味しさを両立！

→ 国の医療費削減にも貢献

環境問題(SDGsの目標14)と健康問題(SDGsの目標3)の同時解決

3. 初瀬川プロジェクト～世界中の人々がいつまでも安全な水を使い続けられるために～

奈良教育大学大学院教育学部研究科 ESD マネジメント 東晃太郎氏

研究対象・関心

①へき地・小規模校教育の研究→小規模校での実習

②ESD を意識した総合的な学習の時間における地域学習の教材開発→実習校周辺の地域資源の探究
桜井市立初瀬小学校での課題探究実習

「地域に学ぶ、地域と学ぶ」：伝統文化や地域産業を体験的に学習する機会が多い

→地域の身近な自然に関する学習はどうか？

初瀬川プロジェクト

「小学校のすぐ南を流れる初瀬川の流域での位置づけを把握し、未来につなげるために自分たちが
できることを「初瀬川宣言」として表現し、ポスターにまとめる。」

（1）身近にある初瀬川

笠置山地→初瀬ダム→初瀬川→大和川→大阪湾

川の上流部は、川の中流・下流にきれいな水を流す役わりがある

（2）水の旅と森林の役割

飲み水は宇陀川・室生ダム、農業用水は初瀬川・初瀬ダム

森林の役わり→緑のダム

奈良盆地→雨少ない→水不足→吉野川分水

大台ヶ原山→吉野川→紀の川→和歌山の海

源流館の尾上さんに学ぶ、森を守る＝水を守る 水と生物のつながりと川上宣言の大切さ

(3) 宣言文の作成

身近な初瀬川を大切にしたい思い→多くの人につたえる。自分も行動する

- ・私たち初瀬は、ゴミを拾ってゴミを捨てない素敵な暮らしにします。
- ・私たち初瀬は、これから育つ子どもたちがすなおに「この川はきれい」と言える初瀬川にします。
- ・私たち初瀬は、初瀬川→大和川→大阪湾→雲→森林の順で水が流れているため、きれいな初瀬川の水を大和川や大阪湾に流します
- ・私たち初瀬は、きたない物やごみを捨てず、都会にはない、自然豊かな場所にします。そして初瀬川をもっときれいな場にします。
- ・私たち初瀬は、おいしいお魚が取れるような初瀬川にします。
- ・私たち初瀬は、魚を増やすために初瀬川のゴミを拾い、自然を守り続けます。
- ・私たち初瀬は、みんなが笑顔で初瀬川で遊べるように、ゴミを拾ってきれいな川にします。
- ・私たち初瀬は、森林や自然を潤せるようにします。
- ・私たち初瀬は、いつになっても初瀬川のことに興味を持ってもらえるように努めます。
- ・私たち初瀬は、森や山の中でポイ捨てをしないようにがんばります。

(4) 授業の構成

①水系の異なる吉野川・紀の川、そして川上村を参考にした理由

宣言文として表現することの価値

吉野川分水の役割を学ばせたい

②教科横断型の授業展開

③森と水の源流館との連携

④小規模性を活かした協同的な学び：ペアやグループでの学び

⑤ESD との関係

空間軸で捉える「流域間のつながり」と時間軸で捉える「環境のつながり」

世代内の公正

世代間の公正

(5) 成果と課題

○初瀬川宣言での表現を通して、児童に ESD の価値観を育むことが少しはできた。

○初瀬川がどこからどこへ流れるのか、奈良や大阪の各地域との川を通じたつながりを理解した。

▼体験的な学びの不足「学校内での調査や実物を五感で体験できる活動を入れるべきであった。」

▼実習での限界：ESD は継続的に進めていくことが重要

4. 「食品ロスを削減しよう」福岡市立七隈小学校 5 学年総合的な学習の時間 島俊彦先生

食品ロス削減に向けた活動や携わる方々の思いや営みを教材に、食品ロス問題の原因や背景を調べたり、フードドライブを企画・運営したりし、学習成果をショート動画にまとめ、地域社会に発信する
全 27 時間

導入：教職員の家庭から実際に発生した食品ロスの重さを測ったり、種別に分類したりする。

- ・ どうして食品ロスが出るのか。(原因、背景)、・なぜ、食品ロスは問題なのか。(影響)
- ・ どうしたら食品ロスを減らせるのか。(対策、取組)

調べる

- ・ 日本は年間約 643 万 t ロス。半分は家庭から出る。
- ・ 過剰除去、食べ残し、直接廃棄などが主な原因。

- ・企業、店、行政などで、減らす取組が行われている。

環境、社会、経済への影響を整理する

【環境】 温室効果ガス、仮想水のロス

【社会】 年間4兆損失、処理22、912億円

【経済】 雇用を奪う、労力のムダ

フードドライブについて調べ、自分たちで開催しよう。

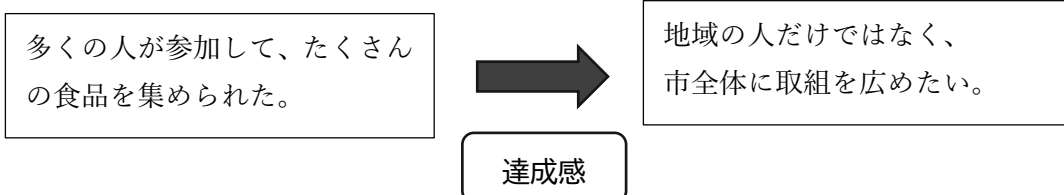
- ・フードバンク福岡の岩崎さんへのインタビュー。
- ・フードドライブの開催に、必要な内容について考える。
多くの食品を集めたい。開催について知ってもらいたい。

【対象】 学生、主婦、高齢者、など

【発信する内容】 ロスの現状、活動の目的、など

【発信方法、場所】 チラシ など 学校、公民館など

- ・フードドライブの準備をして、開催する。



食品ロスについて追究してきた情報や、行動してきたことを整理・分析して、全体の構成を考えながら、ショート動画を作成する。

【原因】 背景】 家庭や企業、大量生産消費

【影響】 環境、社会、経済、もったいない

【対策、取組】 企業や行政だけでなく家庭でもできる

これまでの追究を通して深まった自己の生き方を見つめさせるために、これまで関わってくれた方々から、学習の評価をもらう場を設定する。

児童の変容

これまでも、食品ロスという言葉は知っていたけど、実際に何か行動をしたことは無かった。でも、食品ロスの原因や暮らしへの影響を調べて、フードドライブを開催したり、ショート動画を作ったりして、校内や地域に呼びかけた活動を通して、これからも食品ロスを減らす取組を続けたいと思った。また、今回関わった大人は本気で食品ロスを減らしたいと願って行動していた。私も、日本や世界の問題を解決したり・SDGs を実現したりできるような大人になりたい。

2025年度 ESD ティーチャープログラム 「春日山原始林・奈良公園フィールドワーク」

担当：研究員 杉山拓次

世界文化遺産「古都奈良の文化財」の構成要素のひとつであり、特別天然記念物に指定されている春日山原始林と奈良公園周辺でフィールドワークを行い、奈良の自然と歴史文化のつながりを体験的に学びます。また、生物多様性、気候変動などの環境課題に関する視点や、自然の中で過ごすことを通じて人と自然の共生のあり方についても考える機会とし、ESD の題材として自然のフィールドをどのように活かすことができるかを考えます。

■第1回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

2025年4月27日（日）9:00～14:00 春日山遊歩道を抜けて若草山山頂まで歩きます。初夏の春日山を楽しみながら魅力と課題に触れます。

■第2回 雨の季節の森を歩く（春日山遊歩道北部）

2025年6月21日（土）9:00～12:00 梅雨時期の春日山を歩きます。コケやシダなどの小さな自然の観察のほか、雨が森に何をもたらすのか学びます。

■第3回 春日山の夕暮れ～夜（春日山遊歩道南部）

2025年7月12日（土）18:00～21:00 夕暮れの春日山へ足を踏み入れ、夜になる時間を過ごします。明かりのない暗闇を体験し森の息遣いを感じます。

■第4回 奈良公園の夕暮れ～夜（なら燈花会・二月堂周辺散策）

2025年8月9日（土）17:30～20:00 奈良公園の夏の夜の風物詩「なら燈花会」を見学すると共に東大寺二月堂からの風景や奈良公園の夜の魅力について体験します。

■第5回 高円山の自然（高円山）

2025年9月6日（土）9:00～15:00 春日山の南に位置する高円山を歩き、春日山との違いや共通の課題について考えます。大文字焼きの火床から奈良の風景を楽しみます。

■第6回 朝の春日山原始林（滝坂の道）

2025年10月4日（土）7:00～11:00 早朝に森を歩き、朝の清々しい空気を体感します。

■第7回 奈良公園の自然（奈良公園・飛火野周辺）

2025年11月1日（土）9:00～12:00 ←9/20 から日程を変更しました。

奈良公園をフィールドに身近な自然を活かした遊びを通じた学びのアクティビティを体験します。

■第8回 春日山遊歩道1周ウォーク（春日山遊歩道南部～北部）※開催中止

2025年11月29日（土）9:00～16:00

春日山遊歩道を1周歩きます。原始林の奥にある佐保川の源流、鶯の滝へも訪れます。

■第9回 春日山の石仏（滝坂の道・地獄谷）※開催中止

2026年1月31日（土）9:00～16:00

滝坂の道や、地獄谷国有林に点在する石仏群を巡り、なぜ、数多くの石仏が作られたのかを考えます。

令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第1回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第1回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

実施日：2025年4月27日（日）9:00～14:20

参加者：8名（学部生：5名、外部教職員1名、教職員：杉山、河野）

概要：春日大社から春日山遊歩道～若草山までを歩き、特徴的な自然環境と課題について学び・体験する。

スケジュール	
9:00	春日大社国宝殿前集合・挨拶
9:20	出発、藤棚、龍王社、水谷神社
9:40	春日山遊歩道（北部）を歩きながら解説（ウラシマソウ、ナギ、フジなどの植物、シカの影響と植生保護柵の効果の確認。）
11:00	五感の体操・みみをすます、森で寝転ぶ
11:30	遊歩道を歩きながら解説（ギンリョウソウ、原始林らしい風景、樹形、楠、樹幹の譲り合い）
12:50	若草山山頂・鶯塚古墳からの風景を眺める
13:00	昼食
13:30	若草山山頂出発・二重目からの風景を眺める
14:15	南ゲート・野上神社、地藏菩薩前にて解散

■概要報告

春日山遊歩道の北部コース（水谷神社～若草山山頂）を中心としたフィールドワーク。春日大社境内では、春日山と関連する龍王社、水谷神社の解説において、春日大社と春日山の歴史的背景について解説するとともに、水源地としての位置付けについて解説を行った。また、フジの花が満開だったため、藤棚ではなく木々に絡まりながら登っていく「野生の藤」が印象に残っていたようだ。

春日山遊歩道入り口付近では針葉樹の樹種の違いを葉の手触りや形の違いに注目して観察し、その後の木々や植物についても同様に細かな違いで種類を見分けていることを伝えた。

遊歩道を進みながら、洞の仏頭石、月日磐の史跡の解説を行いつつ、ウラシマソウやギンリョウソウなど、普段あまり目にする機会が少ない植物を中心に解説するとともに、シカの食害による影響についても触れた。ルート前半で情報量が多い解説が続いたため、途中で、五感を使ったアクティビティを行い、森の空気を吸い込んだり、森で寝転ぶなどリラックスする時間も設けた。

ルーペを使って観察する時間においては、興味深くコケやシダなどを見つめて楽しんだ。その後も遊歩道を歩きながら、木々の樹形の特徴や春日山原始林で起きているナラ枯れの現状や、台風等による倒木や土砂崩れなどを見学し若草山山頂駐車場にて、昼食をとった。これまで春日山を歩いた経験のある学生からも「森の見え方が変わった」との声も聞かれた。

若草山からは、春日山から奈良公園一帯への森（緑地）のつながりなどを意識しながら下山した。

■ 写真



挨拶。今回はすべて男性の参加であった。



森でねころぶ



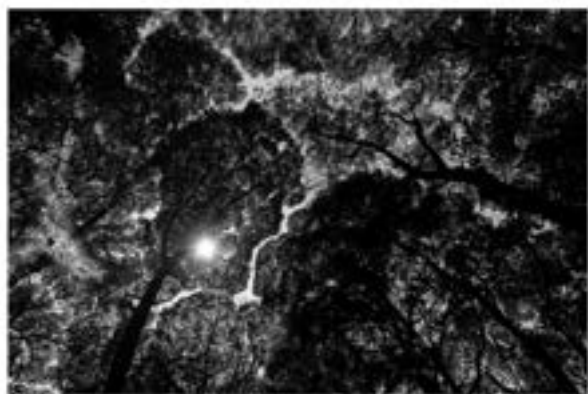
ルーペで観察する。



見つけた植物を解説（スマイレの仲間）



ギンリョウソウ



樹冠のゆずりあい



若草山から見た春日山



若草山一重目で集合写真

令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第2回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第2回 雨の季節の森を歩く（春日山遊歩道北部～若草山）

実施日：2025年6月21日（土）9:00～12:20

参加者：8名（学部生：5名、外部教職員2名、教職員：杉山、河野）

概要：梅雨時期の春日山原始林を歩きます。雨に濡れた森の美しさを感じるとともにコケなどの小さな植物を観察します。また、近年の豪雨の影響などについても触れ、春日山原始林の現状の課題についても考えます。（晴天でも実施します）

スケジュール	
9:00	春日大社国宝殿前集合・挨拶
9:10	出発、水谷神社
9:30	春日山遊歩道（北部）を歩きながら解説（カラスザンショウ、カヤ、イヌガヤ、モミの観察、フジの古木、仏頭石、イチイガシ、ナギとモミの比較、水谷川、月日磐、）
9:50	ムササビの食痕、ムラサキシキブとヤブムラサキ、匂いのする葉っぱ、ツクバネガシのギャップ、植生保護柵
10:40	五感の体操、耳を澄ます、スキヤキハイク、森で寝転ぶ、ルーペと鑑で観察
11:40	下山（ヤマナメクジ、ムカデの捕食、植生保護柵の観察）
12:10	水谷茶屋前で終了・解散

■概要報告

梅雨時期の湿った森を体験するフィールドワーク。生憎、週の初めから晴天続きで、当日も30度を超える気温となった。参加者は5名。今回も女性は1名のみで、外部教員含め残りは男性という構成となった。

通常よりも歩く距離を減らして、ゆっくりと観察しながら歩くことと意識した。今回初めて春日山を歩く学生のために、春日大社の境内を歩きながら、春日山原始林の背景等についても概要を説明しながら歩いた。

原始林遊歩道では、同じ場所にある似たような樹種の葉をさわって、違いについて観察したり、特徴的な植物のほか、仏頭石、月日磐などの史跡についても簡単に解説しながら歩いた。また、林間のギャップと、シカの採食圧の影響と植生保護柵の対応などについても説明した。その後、五感の体操や鏡を目の下に置いて歩く「スキヤキハイク」、森で寝転んで休憩などを行い、森を感じる体験を実施した。その後、貸出たルーペや鏡を使って自由に観察する時間を設けた。

ゆっくり時間を使うことで、普段目に留めない、苔のほか、変形菌（粘菌）や、昆虫、きのこなど森の中の小さな動植物等に気づき、それぞれ興味深く観察を行っていた。

■ 写真



挨拶



みみをすます



手鏡を目の下に置いて歩くスキヤキハイク



森でねころぶ



ルーペや鏡を使って観察



トグナナフシ



変形菌（粘菌）ホソエノヌカホコリ



ヤマナメクジ

令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第3回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第2回 春日山の夕暮れ～夜（春日山遊歩道南部）

実施日：2025年7月12日（土）18:00～21:00

参加者：9名（学部生：5名、教職大学院：1名、教職員：杉山、河野、中澤）

概要：夕暮れの春日山へ足を踏み入れ、夜になる時間を過ごします。人工的な明かりのない暗闇を体験し森の息遣いを感じます。この日は満月の翌日。月の明るさを感じることもできるかもしれません。

スケジュール	
18:00	春日山遊歩道 南入口集合 出発
18:20	感性の体操（五感で感じる、みみをすます）
18:30	暗くなって行く春日山を歩く、匂い、音、木々のシルエットなどを楽しむ
19:00	妙見宮到着・休憩（軽食）
19:30	暗くなって行く森を明かりを点けずに歩く
20:00	寝転んで過ごす
21:00	遊歩道入口到着・解散

■概要報告

夕暮れから夜の時間までを過ごすフィールドワーク。この日も30度を越える猛暑であった。参加の学生たちは、夜の森で姿を見せるムササビに会いたいという学生が数名いた。照葉樹林でのみ生息するヒメハルゼミの合唱が響く春日山遊歩道に入ると、木陰となっておりほんの少しすずしい。

遊歩道を入れてすぐに現れる「イチイガシ」の大木に触れ、春日山原始林が1000年以上に渡り森が維持されてきたことを伝える。

原始林内は徐々に暗くなって行く。数十メートルある木々には、夕暮れの太陽が当たっているが、遊歩道は徐々に闇が迫ってくる。

少し広いスペースで、五感の体操。目を閉じて、風や光、音などをじっくり聴く時間をつくる。森の中では、木々やシダ・コケ・キノコなどから出てくる花粉や胞子など目には見えない森の一部が漂っており、それを体に取り込む意識を持って深呼吸をしてみるように促した。

森をゆっくり歩きながら、ギャップに生えている植物の偏りや、曲がりにくくなった木々がなぜこんな形になったのかを考えてみたり。薄暗くなるとシルエットがくっきりと見えてくるため、木々の形に注目して歩く。妙見宮の階段下で休憩し、暗くなるのを待つ。

日が落ちるとともに、ヒメハルゼミの鳴き声はやみ、森は静かになる。徐々に暗くなるため、目が慣れて暗闇でも懐中電灯なしで歩くことができる。暗くなると行きでは意識することのなかった匂いや音に敏感になっていることに気づく。アオバズクがホーホーと鳴いている側で、ムササビの鳴き声も聞こえてきた。

下山途中のポイントで道に寝そべる。静かにすごしていると数頭のムササビの鳴き声とともに、滑空する姿も見ることができたようだ。この日はムササビが好奇心旺盛にこちらに注目してくれたおかげで、飛ぶ姿だけでなく、木の上で枝に止まる姿も見ることができた。

下山中にギャップになっている箇所では星を眺めたり、小さなライトで照らして道側にいる生き物を観察したり、さまざまな形で夜の森を体感する機会となった。

■写真



挨拶



イチイガシの巨樹



春日山に関する解説



感性の体操（みみをすます）



暗くなる遊歩道（19時少し前）



寝転び後は明かりをつけて歩く。

令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第4回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第4回 奈良公園の夕暮れ～夜（なら燈花会・二月堂周辺散策）

実施日：2025年8月9日（土）17:30～20:10

参加者：8名（学部生：7名、外部教職員1名、外部関係者1名、教職員：杉山、中澤、河野）

概要：奈良公園の夏の夜の風物詩「なら燈花会」を見学すると共に東大寺二月堂からの風景や奈良公園の夜の魅力について体験します。

スケジュール	
17:30	奈良教育大学正門集合
17:35	自己紹介・期待すること・出発
18:00	東大寺（南大門、大仏殿中門、鐘楼、二月堂）
19:20	燈花会见学（春日野国際フォーラム、浮雲園地、浅茅ヶ原園地）
20:10	解散

■概要報告

少し暑さの和らいだ夏の夕方。第4回のフィールドワークを実施した。正門前に集まって自己紹介・期待すること聞くと燈花会に行ったことがないという学生が複数おり、皆楽しみにしているというコメントがあった。

東大寺を目指して移動。途中、飛火野からは、御蓋山、春日山眺めることができた。奈良公園内は、燈花会に合わせて屋台が出ていたり、浴衣姿の観光客も見られた。

東大寺参道までは観光客も多く見られたものの、南大門まで来ると人もまばらとなった。南大門では、中澤先生から大仏様と石獅子について、大仏殿中門では兜跋毘沙門天について解説をいただいた。その後、鐘楼を見学したのち二月堂へ。

この日はちょうど功德日（およく）と言われる観音様の縁日となっており、福引きがあったりと普段とは異なる様子であった。二月堂からの眺めは、あいにくの曇り空ではあったが、ゆっくりと日没と空が暗くなるまでの時間を過ごした。

19時を少し回り少しずつ暗くなっていくところで二月堂を後にして、奈良公園の春日野園地から春日野国際フォーラムの燈花会会場へ。春日野園地では、人もおらず広い空と芝の風景を眺めつつ、かつては運動場であったことなど奈良公園の歴史についても触れた。国際フォーラム手前で雨が降り出してきたため、施設内で暫し雨宿り。雨が落ち着いてきたところで一客一燈が行われている国際フォーラムの中庭を眺めたのちに浮雲園地へ。

幻想的な風景を作り出している蠟燭の明かりは、毎日、ボランティアの方々が準備と撤収を行っている。関わる人たちの想いで作られている「燈花会」という取り組みがあること、一方で過去の開催に比べて実施エリアの縮小なども見られており、20年以上継続している取り組みであってもさらに継続していくための課題があることも意識する機会とした。

浮雲園地から浅茅ヶ原園地へ移動し、見学したのち現地で解散とした。

■写真



挨拶



大仏様の説明



鐘楼



功德日（よおく）のくじ引き



二月堂



春日野園地



春日野国際フォーラムの一客一燈



浮雲園地の燈花会

令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第5回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第5回 朝の春日山原始林（滝坂の道）

実施日：10月4日（土）7:00～10:30

参加者：8名（学部生：4名、院生：1名外部教職員1名、教職員：杉山、河野）

概要：早朝に大学から高畑を歩き、春日山原始林の南端となる滝坂の道（旧柳生街道）を歩きます。朝の清々しい空気を味わうとともに、高畑と春日山のつながりについても意識します。

スケジュール	
7:00	奈良教育大学正門集合/自己紹介
7:10	高畑散策：鏡神社～新薬師寺～隔夜寺～飛鳥中学校～白乳神社～滝坂の道
8:20	滝坂の道・入り口広場：五感の体操、ルーペで見る
9:10	下山し高畑～白毫寺周辺散策（赤乳神社～東山緑地～白毫寺～宅春日神社）
10:30	大学正門にて解散

■概要報告

あいにくの雨の中でのフィールドワークとなった。大学から滝坂の道までの間の高畑町について、入江泰吉記念写真美術館や、鏡神社、新薬師寺なども簡単に説明を行い、春日山と高畑周辺地域のつながりについて意識する機会とした。学生は高畑町を訪れたことがなく、新薬師寺など歴史や行事が継承されている寺社などについても知る機会があると良いと感じた。

滝坂の道では、森を感じる体験等を行なったものの、雨天と暖かい気候が重なり、ヤマビルが多く発生したため、なかなか観察に集中することができなくなったため、1時間弱で引き返すこととした。森での空気を楽しんだり、道中で葉っぱの匂いを嗅ぐなどの体験はできたものの、雨天時のヒルへの対策は課題となった。

下山後は、白乳神社と対となる赤乳神社や、東山緑地、白毫寺など普段歩くことのない場所を歩きながら、高畑・白毫寺周辺の史跡が残されていることや、山辺の道として整備されている道も存在していることに気づくような機会となった。天候不良やヤマビルなど学生にとっては過酷なフィールドワークとなってしまったが、大学周辺について改めて意識する機会となっていればよい。

■写真



令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第6回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第6回 高円山の自然

実施日：10月19日（日）9:00～14:00

参加者：1名（学部生：1名、教職員：杉山、中澤）

概要：春日山の南に位置する高円山を歩き、春日山との違いや共通の課題について考えます。大文字焼きの火床から奈良の風景を楽しみます。

スケジュール	
9:00	奈良教育大学正門集合/自己紹介
9:05	高畑町～白毫寺町～高円山登山口
10:00	高円山登山～火床
11:00	火床からの景観を楽しむ（昼食休憩）
11:40	山頂までさらに上る
12:20	高円山山頂（ホテル跡地）→下山
13:30	滝坂の道へ降りる
14:00	高畑を歩きながら大学正門へ。解散

■概要報告

当初予定では2名の申し込みであったが、1名が体調不良により欠席となり参加者1名で実施することとなった。当日は、雨後の涼しい空気の中で歩くことができた。高円山は年々倒木や土砂の流出が見られ、手入れが必要な状況のように感じる。火床手前では鹿による樹皮剥ぎの影響が多く見られており、農地以外の森林においてもシカの影響を色濃い。火床からは東大寺大仏殿が見え、いつも通り清々しい風景であった。山頂へ目指して歩くと、防空壕跡と思われる穴、高円山が薪炭林出会ったということがわかる伐採後の木々の様子など、高円山がどのように人々に利用されているかを実感するような状況を確認した。学生は1名であったが、気持ちの良い山登りを楽しんでいたようだ。

■写真



火床から枚方方面を眺める



シカの樹皮剥ぎ被害を受けたエゴノキ

令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第7回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第7回 奈良公園の自然（奈良公園・飛火野周辺）

実施日：11月1日（土）9:00～12:00

参加者：8名（学部生：6名、院生：1名 教職大学院生：1名 教職員：杉山、河野）

概要：奈良公園をフィールドに身近な自然を活かした遊びを通じた学びのアクティビティを体験します。

スケジュール	
9:00	春日大社表参道・飛火野バス停集合
9:05	御蓋山を遥拝：春日山・御蓋山・若草山を眺める
9:20	浅茅ヶ原園地・春日大社参道脇のムクロジ
9:30	春日大社参道から飛火野奥（榊献木の柵）～鹿苑
10:00	春日大社参道～ささやきの小径～芋畑
10:30	芋畑にてプログラム
11:30	芋畑～飛火野
12:00	飛火野にて解散

■概要

参加は8名と多かった。なかなかじっくり訪れることがない奈良公園の自然を観察するプログラムとした。25マスのフィールドビンゴを用意し、道中でそれぞれ項目を探して欲しいと伝えた。最初は、飛火野にある御蓋山遥拝所まで移動して御蓋山を眺める。この日は春日山が雲に覆われ、御蓋山の山の形をはっきりと見る事ができた。その後、浅茅ヶ原のイチイガシを観察したのち、春日大社参道の竹の生えたムクロジを観察。なぜ、竹が生えたのかを考えてもらい、シカの影響について考えてもらった。散策しながら、どんぐりや木の葉などを拾い触って樹種による違いについて体験した上で、ささやきの小径から、芋畑へ移動。芋畑では30分程度、話をせずに自然の中で一人で過ごすという体験をしてもらう。寝転んだり、歩き回ったり、それぞれの感じ方・楽しみ方で自然と触れ合った。その後、葉っぱを使った「葉っぱジャンケン」「葉っぱのグラデーション」等を行い、身近な自然物をつかったアクティビティを体験し、遊びの中に科学的な視点もあることについて解説した。その後、芋畑から再び飛火野まで抜けて終了した。

■写真





それぞれ自然の中で過ごす



葉っぱじゃんけん



葉っぱのグラデーション

2025年度 近畿ESDコンソーシアム成果発表会・実践交流会開催要項

1. 目的

学習指導要領の前文に「持続可能な社会の創り手」を育成することが明記されたことより、全国の幼稚園、小中学校、高等学校でESDの理念に基づく教育活動が展開されつつある。また、持続可能な開発目標（SDGs）への関心が企業やNPOなどの生涯教育において高まってきており、学校教育・生涯教育および企業等においても、質の高い教育活動が求められることから、構成団体メンバーの意欲向上と活動の質的向上、またESDの普及を目的に開催する。

2. 主催

近畿ESDコンソーシアム、奈良教育大学ESD・SDGsセンター

3. 後援

ESD活動支援センター、近畿地方ESD活動支援センター、ASPUniv.Net

4. 開催日時

2026年1月11日（日）9時50分～17時10分

5. 会場

奈良教育大学 本部管理棟大会議室、ESD・SDGsセンター多目的ホール、101教室、102教室

6. 日程

9:30-9:50

受付（奈良教育大学本部）

9:50-10:00

開会行事：大会議室 司会：阪本さゆり（ESD・SDGsセンター研究部員）
挨拶：宮下俊也（近畿ESDコンソーシアム会長・奈良教育大学学長）

10:00-12:20

ESD子どもフォーラム（発表20分＋意見交流・移動10分）
進行：奈良教育大学ユネスコクラブ 木幡美幸、河合沙良、相馬心
① 和歌山県橋本市立高野口小学校
② 滋賀県草津市立新堂中学校
③ 奈良県立磯城野高等学校
ディスカッション・タイム
講評：宮下俊也（近畿ESDコンソーシアム会長）
西口美佐子氏（近畿ESDコンソーシアム外部評価委員）

12:20-13:30

昼食休憩

13:30-15:30

ESD実践交流会（発表20分＋質疑10分）
第1分科会：大会議室
司会：橿原市教育委員会 学校教育課指導主事 本塚俊道氏
① 鹿児島：薩摩川内市立市比野小学校 菊永美樹氏
② 山形：山形市立大曾根小学校 佐藤亨樹氏
③ 長野：山ノ内町立山ノ内南小学校 宇田和彦氏
④ 奈良：生駒市立生駒東小学校 竹田光陽氏

第2分科会：ESD・SDGsセンター多目的ホール

司会：奈良市教育委員会 学校教育課指導主事 三木恵介氏

- ① 奈良：奈良市立平城小学校 村上雄太氏
- ② 福岡：福岡市立四箇田小学校 松田博光氏
- ③ 奈良：森と水の源流館 尾上忠大氏
- ④ 熊本：菊池市立泗水小学校 河野圭一氏

第3分科会：101教室

司会：草津市教育委員会 学校教育課学校教育係長 中村大輔氏

- ① 東京：豊島区立巣鴨北中学校 輪湖みちよ氏
- ② 奈良：天理市立福住小中学校 永原智子氏
- ③ 滋賀：草津市立老上中学校 谷口晋吾氏
- ④ 奈良：奈良教育大学ユネスコクラブ 安井優美

第4分科会：102教室

司会：橋本市教育委員会 生涯学習課主幹 弓場大樹氏

- ① 愛媛：新居浜市立浮島小学校 加藤佳緒里氏
- ② 滋賀：延暦寺学園比叡山高等学校 吉川紘永氏
- ③ 和歌山：橋本市立学文路小学校 林 克美氏
- ④ 奈良：奈良市立鼓阪北小学校 原田龍ノ助氏

15：45－17：00

ESD 講演会：大会議室

「ウェルビーイングな社会に向けた白浜町の挑戦！」

和歌山県白浜町教育長 西田拓大氏

ファシリテーター：安田昌則氏（前大牟田市教育長）

17：00－17：10

閉会行事：大会議室

講評：福井昌平氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

挨拶：及川幸彦（奈良教育大学 ESD・SDGs センター長）

成果発表会・実践交流会のようす

【ESD 子どもフォーラム】



橋本市立高野口小学校の発表



草津市立新堂中学校の発表



奈良県立磯城野高等学校の発表



発表校への質問や感想を述べあう



ディスカッションタイム「私は今日からこれをやる！」



全員集合！
みなさん、お疲れさまでした！

【実践交流会】



【ESD 講演会】



おわりに

本学 ESD・SDGs センターが主管する「近畿 ESD コンソーシアム」の諸事業が、今年度も成功裏に実施されましたことを大変嬉しく思いますとともに、このコンソーシアムの事業実施や活動推進にご協力とご貢献をいただきました多くのコンソーシアムメンバーの学校、教育委員会、社会教育施設、企業・団体をはじめとする関係の皆様、センターを代表して心より御礼申し上げます。

皆様のご支援・ご協力により、近畿 ESD コンソーシアムでは、令和 7 年度も本報告書に掲載されているように、ESD ティーチャープログラムをはじめ、各種の授業づくりセミナー、そして、近畿 ESD コンソーシアム成果発表会・実践交流会などの ESD 事業を展開してきました。「ESD ティーチャープログラム」は、2016 年から文部科学省の助成で開始され、今年で 11 年目を迎えます。2025 年までの 10 年間で、773 名の「ESD ティーチャー」（ESD ティーチャー：556 名、マスター：103 名、スペシャリスト：39 名、学生 75 名）を輩出し、今年度も ESD ティーチャー 122 名（うち学生 11 名）、マスター 27 名、スペシャリスト 21 名の合計 170 名の ESD ティーチャーを育成しました。

また、2026 年 1 月 11 日に開催した「成果発表会・実践交流会」では、和歌山県橋本市立高野口小学校、滋賀県草津市立新堂中学校、奈良県立磯城野高等学校の児童生徒が「こどもフォーラム」に参加し、発達段階に応じた ESD の実践発表と世代を超えたアクティブなディスカッションを展開し、学び手の姿を通して「持続可能な社会の創り手」を育成する ESD の成果を実感する機会となりました。その後の実践交流会でも、ESD ティーチャープログラムに参加した教員を中心とする ESD の実践発表をもとに、参加者間でその実践や活動を共有しながら ESD のカリキュラムマネジメントや評価、今後の方向性について活発な議論が展開され、ESD 実践の質の向上に資する学びの機会となりました。

さらに今年度は、2026 年 2 月 21 日に本学及び ESD・SDGs センター主催で、「ESD 国際シンポジウム in 奈良 2026」を、防災・減災、気候変動、そしてユースの参画をテーマに開催しました。シンポジウムには UNESCO ジャカルタ、UNESCO 政府間海洋学委員会、国連大学、韓国未来価値教育研究院などの国際機関と、インドネシア・シアクアラ大学、カンボジア・プノンペン教員養成大学、韓国・釜山国立大学などのアジアの諸大学、そして、国内外で ESD を実践する教育者とユースなど約 20 名の登壇者を招聘して、「学術 (Science)」と「教育 (ESD)」、そして「次世代 (ユース)」の視点から議論しました。最後には、それぞれの議論をつないで、先行き不透明な時代の ESD の進むべき道を展望し、国際連携と世代連携、そして ESD そのものの持続可能性の重要性を再認識するとともに、今後の協働的な取組について確認しました。

現在の社会状況は、ウクライナや中東等で紛争、気候変動等の国際的な環境問題、経済的な格差などを見ても明らかなように、これまでの国際秩序や平和の概念が崩れつつあり、我々が希求する「持続可能性」はかつてないほど厳しい岐路に立っている状況です。換言すると、それはまさにユネスコが掲げる「平和の砦」が崩壊しつつある状況とも言えます。

このような時だからこそ、ESD が必要です。それはまさに ESD・SDGs センターが取り組むように「Think Globally, Act Locally」といわれるグローバルな視点での ESD が重要であり、そのためには、多様な主体の参画と協働が欠かせません。近畿 ESD コンソーシアムは、その基盤と言えるプラットフォームです。今後とも、皆様方のご協力を得ながら共に ESD を通じてこの困難な時代を切り拓く推進力になればと思いますので、皆様方の変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

2026 年 3 月

奈良教育大学 ESD・SDGs センター
センター長 及川幸彦

令和7（2025）年度 近畿 ESD コンソーシアム総会 開催要項

1. 目的

近畿 ESD コンソーシアムでは、近畿圏を中心にユネスコスクール等への支援、及び ESD の推進を図っている。本コンソーシアム活動の一環として、構成団体間の情報交換と目的意識の共有、ESD に関する研修を目的として、下記の通り総会を開催する。

2. 開催日時 令和7年7月5日（土）13時30分～16時30分

3. 方法 対面式及び Zoom を用いたオンライン会議のハイブリッド方式

4. 会場 奈良教育大学 ESD・SDGs センター多目的ホール

5. 内容

13時30分～13時40分 開会行事：挨拶 会長 宮下俊也（奈良教育大学学長）

13時40分～14時00分 出席者の自己紹介

14時00分～14時30分 令和6年度事業報告

14時30分～14時50分 令和7年度事業計画の説明・質疑応答

14時50分～15時20分 情報交換（各構成団体より）

【休憩】

15時30分～16時20分 講演

「学習者の変容を促す ESD の学習理論」 奈良教育大学准教授 河野晋也

16時20分～16時30分 閉会行事：挨拶 運営委員長 及川幸彦

（問い合わせ）

〒630-8528 奈良市高畑町

奈良教育大学 教育研究支援課

E-mail：k-soumu@nara-edu.ac.jp

TEL 0742-27-9367 / FAX 0742-27-9147

近畿 ESD コンソーシアム規約

平成29年7月8日
制
令和5年11月1日
改 訂

第1章 総則

【名称】

第1条 この団体は、近畿 ESD コンソーシアム（英語名：ESD Consortium, Kinki Region）という。

【事務局】

第2条 この団体の事務局を奈良教育大学 ESD・SDGs センターに置く。

【目的】

第3条 この団体は、様々な ESD 関係者が協力して近畿圏を中心に ESD を推進することを目的とする。

【活動】

第4条 上記3の目的を達成するため、この団体は以下の活動を行う。

- 一 ユネスコスクールをはじめとする教育機関での ESD の推進と国内外の ESD 推進校との交流促進
- 二 公民館、図書館をはじめとする社会教育施設、青少年教育施設を通じた社会教育における ESD の推進
- 三 ウェブサイトや成果報告会等を通じた ESD 関連情報の共有
- 四 ESD に関するマルチステークホルダーの対話の場の構築
- 五 企業、NGO を含む様々なステークホルダー間の協働の機会創出
- 六 その他団体の目的のために有益と考えられる活動

第2章 会員

【会員種別】

第5条 この団体の会員は、この団体の目的に賛同して入会する団体及び個人とする。
2 この会員のうち、奈良教育大学を代表団体とする。

【入会】

第6条 会員として入会しようとするものは、別に定める方法により、入会申込書を事務局に提出することにより申し込むものとする。

2 入会は、運営委員会において承認する。運営委員会は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

【会費】

第7条 この団体の会費は、当面、徴収しないものとする。

【退会】

第8条 会員は、別に定める退会届を事務局に提出して、任意に退会することができる

第3章 役員

【種別及び定数】

第9条 この団体に、次の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 副会長 1名以上3名以内
- 三 運営委員 10名程度

【選任】

第10条 会長は、この団体を代表し、その業務を総理する。

2 副会長は運営委員の中から会長が選任する。

3 運営委員は、会長が指名する。

【職務】

第11条 会長は、この団体を代表し、その業務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

3 運営委員は、運営委員会を構成し、この団体の業務を執行する。

【任期等】

第12条 役員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

第4章 会議

【会議の種別】

第13条 この団体の会議は、総会及び運営委員会とする。

【総会】

第14条 総会は、会員をもって構成する。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

【総会の権能】

第15条 総会は、以下の事項について検討し、議決する。

- 一 規約の決定及び変更
- 二 事業計画の承認
- 三 事業報告の承認
- 四 役員承認
- 五 その他コンソーシアムの運営に関する重要事項

【総会の開催】

第16条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- 一 会長が必要と認め、招集の請求をしたとき。

【総会の招集】

第17条 総会は、会長が招集する。

2 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面または電子メールにより、開催の日の少なくとも5日前までに会員に通知し、あるいはウェブサイト上で公表しなければならない。

【総会の議長】

第18条 総会の議長は、その総会に出席した会員の中から選出する。

【総会の議決】

第19条 総会の議事は、別段の定めがある場合を除き、出席した会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

【運営委員会】

第20条 運営委員会は、運営委員をもって構成する。

2 運営委員会に運営委員長1名及び副運営委員長1名を置く。

【運営委員会の権能】

第21条 運営委員会は、次の事項について検討し、議決する。

- 一 事業計画の立案と変更
- 二 事務局の運営に関する事項
- 三 総会の議決した事項の執行に関する事項
- 四 総会に付議すべき事項
- 五 その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

【運営委員会の開催】

第22条 運営委員会は、会長または運営委員長が必要と認めた場合に開催する。

第5章 ESD推進コーディネーター

【ESD推進コーディネーターの配置】

第23条 この団体に、ESD推進コーディネーター若干名を置く。

- 2 ESD推進コーディネーターは、この団体の目的に照らし、ESDの推進を支援する。
- 3 ESD推進コーディネーターは、ESD活動に習熟した識者の中から、会長が指名する。
- 4 ESD推進コーディネーターの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

第6章 雑則

【細則】

第24条 この規約の施行について必要な細則は、運営委員会の議を経て、会長が定める。

令和6・7年度 近畿ESDコンソーシアム運営委員

会長	宮下俊也	学長
副会長	前田康二	副学長
副会長	今田 実	橋本市教育長

運営委員長	及川幸彦	ESD・SDGsセンター長
副運営委員長	中澤静男	ESD・SDGsセンター
事務局長	大西浩明	ESD・SDGsセンター
事務局	河野晋也	ESD・SDGsセンター
教育委員会	三木恵介	奈良市教育委員会
教育委員会	本郷俊道	橿原市教育委員会
教育委員会	弓場大樹	橋本市教育委員会
教育委員会	西田和歌子	長浜市教育委員会
教育委員会	中村大輔	草津市教育委員会
社会教育施設	尾上忠大	森と水の源流館
寺社	鷲尾隆元	華嚴宗大本山 東大寺
企業	植村将史	植村縫工株式会社
企業	川井徳子	公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ
NPO	杉山拓次	春日山原始林を未来へつなぐ会
学生	安井優美	ユネスコクラブ学生代表

外部評価委員	福井昌平	日本イベント学会副会長
外部評価委員	西口美佐子	奈良市立平城西小学校長

令和7年度 近畿ESDコンソーシアム活動実施報告書

令和8年3月31日

国立大学法人奈良国立大学機構奈良教育大学

ESD・SDGsセンター（近畿ESDコンソーシアム事務局）

〒630-8528 奈良市高畑町

Tel 0742-27-9367・Fax 0742-27-9147（教育研究支援課）

